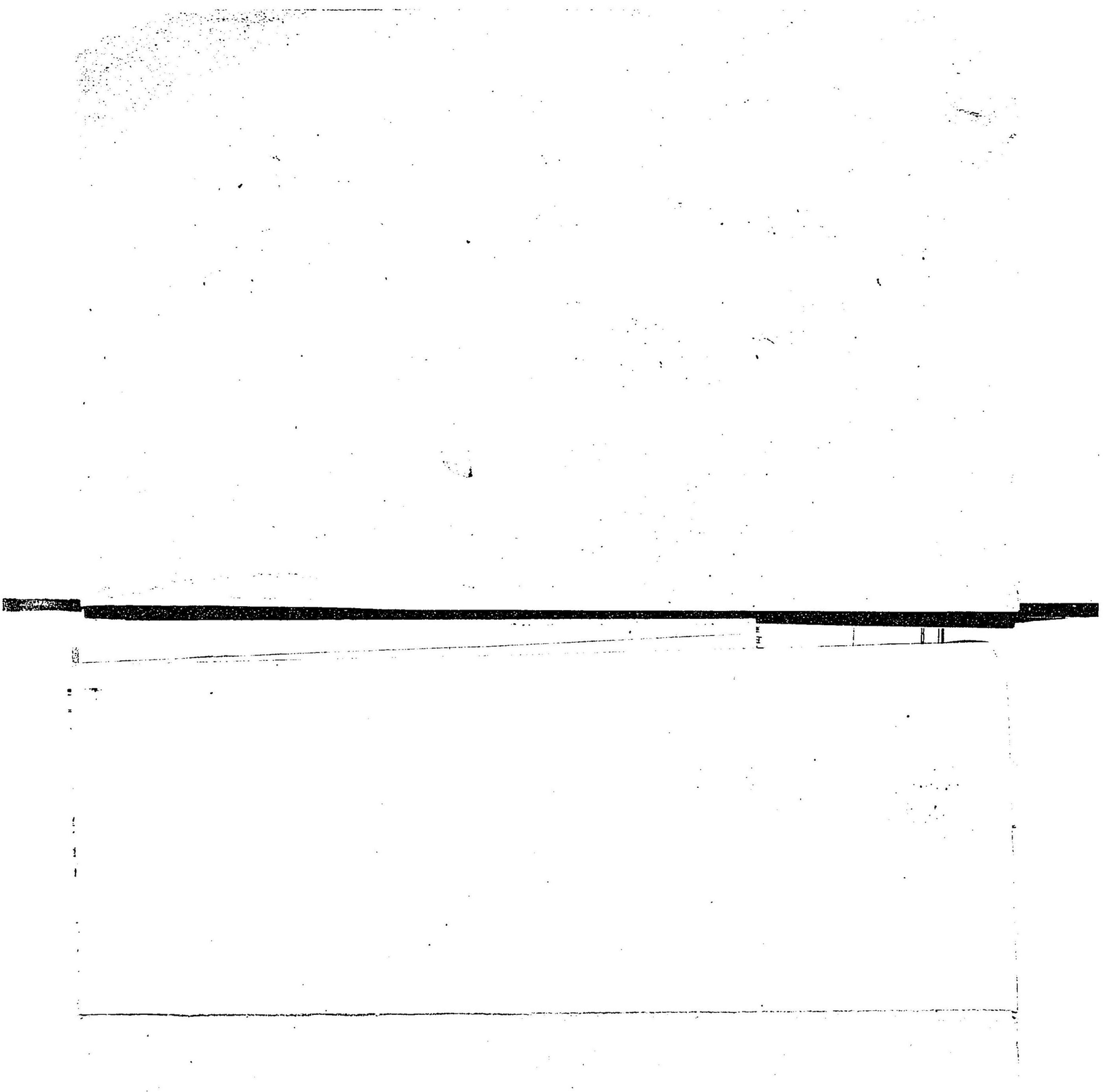
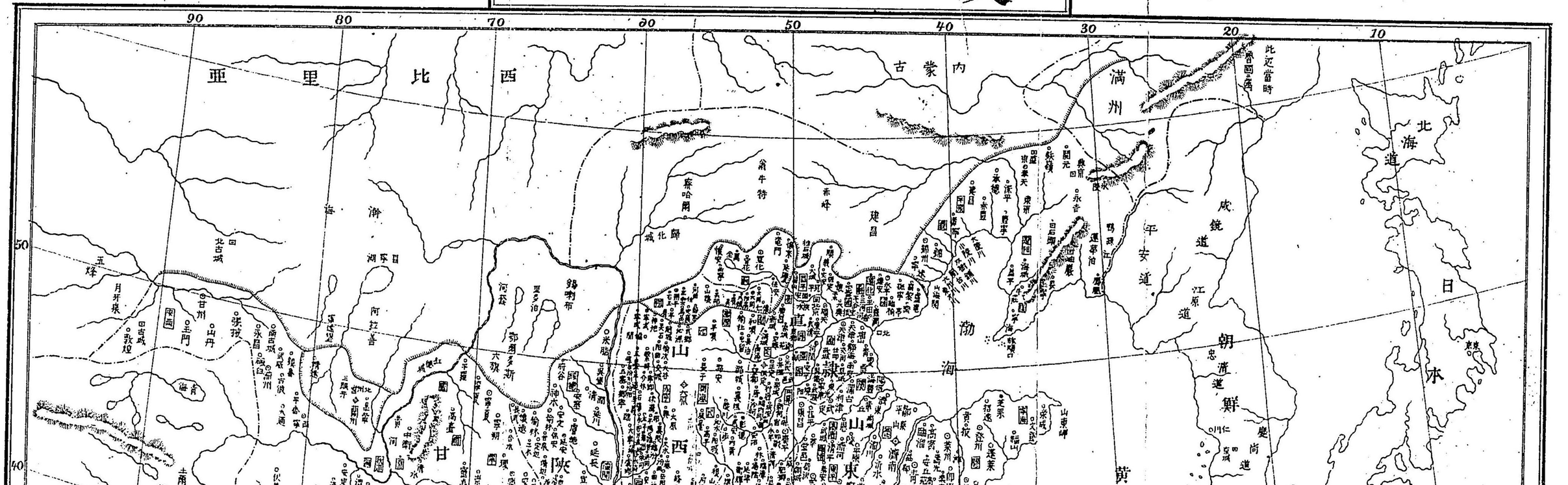
滿洲
朝鮮
凡例
國界
山川
國名
廣西
越南
暹羅

明代
凡例
南京
北京
渤海
黄海
东海
南海



支那全圖


90
80
70
60
50
40
30
20
10
50
40
亜細比里
西比利
内蒙古
満州
北海道
日本
渤海
黄海
朝鮮
成鏡道
平安道
江原道
慶尚道
忠清道
直隷
山東
山西
陝西
甘粛
北京
天津
奉天
吉林
黒龍江
遼東半島
山東半島
膠州湾
青島
威海衛
旅順
大連
濟南
太原
西安
蘭州
寧夏
綏遠
庫倫
張家口
多倫諾爾
烏里雅蘇台
科布多
烏魯木齊
伊犁
ハミ
トルファン
カシュガル
ヤルカンド
ホータン
アクス
クチャ
カラシャール
ウルムチ
ビシュバリク
ゼルケン
ロプノール
チベット
ラサ
ネパール
ブータン
シッキム
インド
ビルマ
安南
暹羅
英領
露領
蒙古
新疆
青海
西藏
四川
雲南
貴州
湖南
湖北
河南
安徽
江蘇
浙江
福建
廣東
廣西
台湾
香港
マカオ
海南島
上海
南京
蘇州
杭州
寧波
福州
廈門
汕頭
広州
梧州
南寧
雲南府
貴陽
長沙
武昌
漢口
九江
安慶
南昌
鎮江
揚州
徐州
開封
洛陽
鄭州
彰徳
保定
天津
北京
張家口
大同
太原
西安
蘭州
寧夏
綏遠
包頭
庫倫
恰克圖
キャフタ
ウリヤスタイ
ウルガ
ハルビン
チチハル
吉林
長春
奉天
遼陽
鞍山
営口
安東
鉄嶺
開原
四平街
新民屯
錦州
山海関
承徳
熱河
赤峰
多倫諾爾
張家口
宣化
懐来
居庸関
南口
八達嶺
昌平
通州
北京
天津
塘沽
大沽
唐山
灤州
秦皇島
山海関
錦州
錦県
錦西
葫蘆島
興城
綏中
錦州
錦県
錦西
葫蘆島
興城
綏中
錦州
錦県
錦西
葫蘆島
興城
綏中

40
30
20
10
前藏
雲南
廣西
東京灣
又廣南灣
黃海
九州
長崎
鮮
慶尚道
全羅道
山東岬
甘肅
陝西
山西
河南
江蘇
安徽
湖北
湖南
浙江
福建
廣東
四川
貴州
雲南
西藏
直隸州
凡例
都城
河
縣
省界
山脈
湖
府
總督巡撫所ノ府
知州ノ州
廳
開港場
島

欠

MISSING

特22
605

之夢。輒自制。在軍四十一年。明毅善斷。大不能欺。自南陵至白帝。數千里。路不拾遺。◉〔解釋〕威名赫然（盛んなる）自制（自分に心をおさへる）明毅善斷（事理に明かで決斷よく治ふ）●〔講義〕晉の天尉の陶侃が卒す、始めに陶侃は八ヶ州に都督と晉なりて威名が盛んにありたり或る人謂ふ侃は官にありて下たるに其後勢力は能く敵國を折上りて天門に入れば能く敵國を折り、大事を思ひ出す毎に自分さ心を抑制した夢を思ひ出す毎に自分さ心を抑制した事に明かに善く決斷せりそれゆへに人々陶侃なりしさなり、○後趙石虎殺其主弘而自立爲趙天王。殺勒種無遺。○成改國號曰漢。李雄以兄子班爲太子。雄卒。班立。雄子越弒班而立。其弟期忌雄弟漢王壽威名。使出屯于外。壽還襲弒期而自立。◉〔解釋〕弟期（期は雄が第四の子なり、●〔講義〕後趙の石虎が自ら立ちて趙天王さなり石勒が種族を殺して一人も遺すことなかりしさ、李雄が兄の子の班を立つ、期が雄の弟の漢王壽の威權名望あるを忌み嫌ひ出して外國に屯留せしむ壽が還て太子の位を奪ひ期を殺して自ら立てり、○代王什翼犍立。先是代王賀僕卒。弟紇那嗣。紇那出奔。鬱律子翳槐立。紇那復還。翳槐奔。趙納翳槐子代。翳槐臨卒。命諸大人。立弟什翼犍。自猗盧死。國多內難。部落離散。什翼犍雄勇有智略。能脩祖業。始制百官。號令明白。政事清簡。百姓安之。於是東自滅貊。西及破落那。南距陰山。北盡沙漠。率皆歸服。有衆數十萬人。拓跋氏自是愈大。◉〔解釋〕諸大人（各部の酋長、內難（うちは攻、治のさつばりさしなくなること、滅貊（東夷の名、破部落離散（むら〳〵ばら〳〵のものがちりになること、祖業（祖先の功業）

落那天山の北に在り、陰山山は沙漠の北に在り、即ち天山、に〔講義〕代王の什翼(ジウヨクケン)が立つ、起より先き、代王の賀傉が卒し、弟の紇那(キツナ)が立つ、紇那出奔し、律が嗣槐の子の嗣槐(ティカイ)が立つ、さきに出奔せしまぎわに、諸部落の酋長に命じて、弟の什翼鍵を立て、嗣槐が死しても、紇那が再た還る、それ故に、嗣槐が超に出奔す、超つ、猗盧(イロ)が死してより、國内に騒乱多く、部落の人々が悛むる、始めて百官を制定して、號令も明白に、什翼鍵は政事に於て東の方は濊貊より、西の方は破落那に及び、皆な臣服す、兵衆が數十万人もあり、拓跋氏の族、是れよりも愈々盛んなり、○晋丞相王道卒。初帝即位冲幼、每見導必拜。既冠猶然委政於導。導以門地、王述爲掾。述末知名。人謂之痴。既見、問江東米價。述張目不答。導曰、王掾不痴。導每發言。一坐莫不贊歎。述正色曰、人非堯舞。何得每事盡善。導改容謝之。導性寛厚。所委任諸將多不奉法。大臣患之。庾亮欲起兵廢導。或勸導密備。導曰、吾與元規休戚是同。元規若來。吾便角巾歸第。復何懼哉。亮雖居外鎭。而遙執朝權。據上流之勢者多歸之。導内不能平。嘗過西風塵起。舉扇自蔽。徐曰、元規塵汚人。導簡素寡欲。善因事就功。雖無日用之益。而歲計有餘。輔相三世。倉無儲穀。衣不重帛。

◉〔解釋〕冲幼　冲も幼なり、いけなきこと。既冠猶然　冠は早や成長しても、矢張り以前の如くいふこと。痴　疑と同じ、おろかなり。改容　容を改めて、敬せぬ様にすること。元規　庾亮の字。若來　一萬、たが武昌城に居て朝廷に背きて、外鎭たる武昌城の擁守、遙執朝權　朝廷に居て、朝權を執ふ、上流　上流に在り、武昌城は江の趨勢者　趨は歸なり、勢は形勢、歸は從ふ、簡素　事すくなくして、ものに因りて、ものの、ほかざりのなきこと。而歲計有餘　舊註に曰く、毎日の治效を以て之れを計れば、則ち餘りあり、之れを歳計りても、亦た此の意なり、三世　元帝、明帝、成帝。儲穀　つみたくわへたる米、不重帛　帛にきぬて、衣服の粗末なるをいふ。

◉〔講義〕晉の丞相の見る度に必ず卒す、初め成帝が位に即かれまして頃は、幼少にて年に及ばせんしでも、矢張り以前の如く、痴疑と同じ、おろかなと、元規休戚是同　國の苦樂を同ふするを、休戚は歓樂、戚は憂苦、いふ、庾亮

亮欲開復中原。上疏請率大衆移鎮石城。遣諸軍羅布江汚。爲伐趙之規。蔡謨曰。不能以大江禦蘇峻。安能以汚水禦石虎。乃詔亮不聽移鎮。至是卒于武昌。◉〔解釋〕亮激之激は激發となす、是ます蘇峻が亂を以て其の首に墜るなり、刑人の狀、老子、易周易、爲風流所宗、の風を學び流を汲む所の風雅と羅布は訓す、軍兵をつらなり、布はしきなりとも、規はかけだかきの高くと、老泥首は泥の首に云ふ泥の誰に泥首は泥を以て其の首に墜るなり、刑人の狀、老子、易周易、爲風流所宗、の風を學び流を汲む所の風雅と羅布は訓す、軍兵をつらなり、布はしきなりとも、規はかけだかきの高くと、老

◉〔講義〕晉の司空の庾亮が卒す、初め蘇峻が亂故なり蘇峻が平定し庾亮は泥首し、後ち、罪を贖ひ、後首が亂に及びしわけは、庾亮が之れを謝す、外方の鎭國を求めて武昌城に居りて、自ら治效を著はし

に、亂くがごとし。又は家に處て、皆な曰へるやう、淵源が若し出でゝ、官に就かずは、當さに百姓をうながし、何ぞ以てこれなりそれ故に、ほどまでに人民に心服せらるゝ、庾翼が股肱求めて、司馬の官とせんや。ほどまでに人民に心服せらるゝ、庾翼が股肱の如き人物なりと、ほめ舉げて曰く、英雄のオ智あるゆゑ、宜しく庾翼が委任するに、古の方叔や、召伯が周の宣王を佐けし如きの役目を以てすべしと、是に至りて宜しく庾翼が胡を征伐せんと欲す、移りて寇を攻め取るを以て前鋒を亡滅し、蜀を下して、あまたの諸軍事を總ら領せしむ、庾翼に詔を爲し、征討の軍兵を一人も殘らず出して、北方の桓溫の都督と爲せり。○漢主李壽卒。子勢立。○帝在位三年。崩。改元者一。日建元。

太子立。是爲孝宗穆皇帝。●〔講義〕漢王の李壽が三年にして、崩御して、玉へり、年號を改むるを一ツの事とす。建元と、太子立つ、是を孝宗穆皇帝とゝなす。

孝宗穆皇帝。名聃。三歲卽位。會稽王昱輔政。○庾翼卒。以桓溫都督荊梁等州軍事。翼初表其子領荊州。何充曰。荊楚國之西門。豈可以白面少年。而任無出。溫者。丹陽尹劉惔和之。桓溫英略過人。西

著西土。懷帝陷沒。軌遣兵助愍帝。於長安帝以軌爲涼州牧西平公。軌卒。子寔立。寔爲妖賊所殺。弟茂立。趙主劉曜擊茂。茂降。趙。茂卒。寔之子駿立。臨終語駿。必奉晉不可失。駿雖復臣於後趙石勒。耻之。成帝時假道於西平公。重華自爲王。◉〔解釋〕陷歿(ボツ)殺也。寔(ショク)音植。重華(チョウクワ)軌之孫。假道(カドウ)往來求むる道筋を。◉〔講義〕涼州の張重華が自ら涼王と稱す。初め西晉の懷帝が陷しいられて死す。時に張軌が卒し、子の寔立つ。寔は軌の孫なり。重華は寔の子なり。

以通晉。駿卒。子重華立。晉遣使。仍拜西平公。重華自爲王。◉〔解釋〕陷歿(ボツ)殺也。寔(ショク)音植。重華(チョウクワ)軌之孫。假道(カドウ)往來求むる道筋を。◉〔講義〕涼州の張重華が自ら涼王と稱す。初め西晉の懷帝が陷しいられて死す。時に張軌が卒し、子の寔立つ。寔は軌の孫なり。重華は寔の子なり。

亡也。○涼張駿雖復臣於後趙石勒。耻之。成帝時假道於後趙石勒。耻之。成帝時假道於後趙石勒。耻之。成帝時假道

浩抗温。浩廢。自此内外一權。大歸温矣。浩雖愁怨。不形辭色。嘗書空作咄咄怪事字。久之郗超勸温。處浩令僕以書告之。浩欣然答書。慮有誤。開閉十數。竟達空函。温大怒。遂絶。卒於謫所。◉〔解釋〕張祚重華弟、庶人、無位無官、朝延初以浩抗温朝野皆服。温既已蜀を滅ぼし、威勢復た振ふ、朝廷之れを憚る、乃ち殷浩が盛名ありなり、不任に任して、以て温に抗するを以て、大に之れに形辭色。こゝばや顔色に嘗書空作咄咄怪事字。あらはさぬと、是れは空に向ひて咄々と、怪事の四字をかきしなり、令僕尚書令、僕射、終達空函。わすれて、からばこをつかはせしなり、大怒。桓温は我れを侮辱して、空函を遣せりとし、謫所配所と同じ、貶降さ。◉〔講義〕涼の張重華が卒し、子の曜靈が立つ、其の臣下のもの之れを廢して重華が弟の祚を立てたり、晉の桓温は殷浩を以て桓温と抵抗するやうにし、帝に請ひて殷浩や顔色に形はさず、密て空に向ひて咄々怪事と書けり、桓温にのみ歸したり、殷浩は愁ひ怨むこと久しくたちて猶ほ且つ然が桓温に働めたり、殷浩を令僕の官に就かしむ、手紙などを以てはせぬかと、開きたりするに、殷浩は欣が大に怒りて殷浩を官に就かしむ、手紙などを以てはせぬかと、開きたりするに、殷浩は欣

桓温帥師伐秦。大敗秦兵于藍田。轉戰至灞上。秦主苻健閉長安小城自守。三輔皆來降。温撫諭居民。使安堵。民爭持牛酒迎勞。男女夾路觀之。耆老有垂泣者曰。不圖今日復覩官軍。北海王猛字景略。景略。個儻有大志。隱居華陰。聞温入關。被褐謁之。捫虱而談。當世之務。旁若無人。温異之。問猛曰。公不遠數千里。深入敵境。今長安咫尺。而不度灞水百姓未知公心。所以不至。温默然無以應。温與秦兵戰于白鹿原。不利。秦人清野。温軍乏食。欲與猛俱還。不就。◉〔解釋〕轉戰たゝかひながらうつりゆくこと、耆老としより、個儻卓異不羈なること、捫虱黒てすぐれたるをいふ、褐短き毛織りの衣服、賤者の衣、殘賊殘害する所の賊徒をいふとにて桀を指す、三秦の三輔なり、咫尺八寸を咫といふまぢかきこと、默然默然は返辭なせず、無以應應辭なせず、無冒なるを、王猛は盖し桓温が心事を指出す、以爲へらく桓温が秦を伐つは、但功名を以てせんと欲す、眞に民を弔し境土を拡ぐるに非ず、然らざれば何を以て江東以服せざるに心あるに、猛は盖し桓温が心事を指出す、以爲へらく桓温が秦を伐つは、但功名を以てせんと欲す、眞に民を弔し境土を拡ぐるに非ず、然らざれば何を以て江東以

〔講義〕に於て敗りを師ねよりて秦を伐つ、大に秦人を悉く發して、敵を以て清野を清めざるなり、秦人清野。温軍乏食。欲與猛俱還不就。◉〔解釋〕黒卓異不羈なること、捫虱黒てすぐれたるをいふ、褐短き毛織りの衣服、賤者の衣、殘賊殘害する所の賊徒をいふとにて桀を指す、三秦の三輔なり、咫尺八寸を咫といふまぢかきこと、默然默然は返辭なせず、無冒なるを、王猛は盖し桓温が心事を指出す、以爲へらく桓温が秦を伐つは、但功名を以てせんと欲す、眞に民を弔し境土を拡ぐるに非ず、然らざれば何を以て江東以服せざるに心あるに、猛は盖し桓温が心事を指出す、以爲へらく桓温が秦を伐つは、但功名を以てせんと欲す、眞に民を弔し境土を拡ぐるに非ず、然らざれば何を以て江東以

境。今長安咫尺。而不度灞水百姓未知公心。所以不至。温默然無以應。温與秦兵戰于白鹿原。不利。秦人清野。温軍乏食。欲與猛俱還。不就。◉〔解釋〕轉戰たゝかひながらうつりゆくこと、耆老としより、個儻卓異不羈なること、捫虱黒てすぐれたるをいふ、褐短き毛織りの衣服、賤者の衣、殘賊殘害する所の賊徒をいふとにて桀を指す、三秦の三輔なり、咫尺八寸を咫といふまぢかきこと、默然默然は返辭なせず、無冒なるを、王猛は盖し桓温が心事を指出す、以爲へらく桓温が秦を伐つは、但功名を以てせんと欲す、眞に民を弔し境土を拡ぐるに非ず、然らざれば何を以て江東以服せざるに心あるに、猛は盖し桓温が心事を指出す、以爲へらく桓温が秦を伐つは、但功名を以てせんと欲す、眞に民を弔し境土を拡ぐるに非ず、然らざれば何を以て江東以

〔講義〕に於て敗りを師ねよりて秦を伐つ、大に秦人を悉く發して、敵を以て清野を清めざるなり、秦人清野。温軍乏食。欲與猛俱還不就。◉〔解釋〕黒

襄。進至河上。與寮屬登平乘樓。北望中原。歎曰。使神州陸沉百年。王夷甫諸人。不得不任其責。至伊水。襄戰連敗而走。溫屯金墉。謝諸陵。置鎭戍而還。襄將西圖關中。秦遣兵拒擊斬襄。襄弟萇以衆降秦。◉〔解釋〕寮屬(リョウゾク)は官名、下役なり、平乘樓(ヘイジョウロウ)は大船のやぐら、神州陸沈(シンシュウリクチン)は中國なり、陸沈は陸地の沈沒するなり、舊註に猶ほ乾沒のごとしとあり、乾は水のふなり、乾地につきて沈沒するなり、王夷甫諸人不得不任其責は、王衍が字なり、王衍等は清談をたつとんで國事を顧みず、故に夷狄が華を亂ふるを致すことを謂ふなり、陵は西晉代々の墓所なり、鎭戍は兵を置きて守ることなり、萇は苻堅の弟なり、◉〔講義〕秦主の符堅(フケン)が其の君の生を弑して自ら立ち、苻堅が自ら謂ふに、吾れと王猛とは、王猛を符堅に於ける水魚の如しと、一年の中に、五度も官を遷し、田を耕し盥を養ふことなどを、それ〴〵たれたる人民へ割り付貧困のものを恤れみたれば、秦の民が大(イタ)に悅びたり、○燕王慕容儁卒。子暐立。○晉桓溫以謝安爲征西司馬。安少有重名。前後徵辟皆不就。士大夫相謂曰。安石不出。如蒼生何。年四十餘乃出。◉〔解釋〕重名(チョウメイ)は世に重せらるゝ名聲、徵辟(チョウヘキ)は天子の召(メ)すを徵(チョウ)と曰ひ、郡國の舉(アゲ)なるを辟(ヘキ)と曰ふ、安石(アンセキ)は安が字、蒼生(ソウセイ)は人民なり、◉〔講義〕燕主の慕容儁(ジュン)が卒して、子の暐が立つ、音の桓溫が隙安を以て征西司馬と云ふ役となすも、皆な斷りて官に就かざりし、それゆゑ士大夫等が相ひ謂て曰く、安石が若し出で、仕へたれば我々人民を如何せんと、年四十餘にして乃ち出でゝ仕へたり、○帝在位十七年。崩。改元者二。曰永和。升平。無嗣。成帝子瑯琊王立。是爲哀皇帝。◉〔講義〕帝は位に在すこと十七年にして崩御す、年號を改めしこと二つ、曰く永和、升平と、世嗣なき故に、成帝の子の瑯琊王が立つ、是れを哀皇帝となす、

哀皇帝。名丕。即位二年而崩。政元者二。曰隆和。興寧。弟瑯琊王立。是爲帝奕。◉〔解釋〕寢疾(シンシツ)は病氣づくことにして崩御す、年號を改めしことも二つ、曰く隆和、興寧と、弟の瑯琊王が繼で位に即く、是れを帝奕となす、◉〔講義〕哀皇帝は、名を丕と曰ふ、位に即きて病氣づき夫より、一年目にして病

帝奕。名奕。成帝之幼子也。既即位。以會稽王昱爲丞相。○桓溫自哀帝時。爲大司馬。都督中外諸軍事。錄尚書事。加揚州牧。移鎭姑孰。以郗超爲參軍。王珣爲主簿。人語曰。髯參軍。短主簿。能令公喜。能令公怒。◉〔解釋〕髯參軍(ゼンサングン)は郗超(チショウ)は髯多き故にいふなり、短主簿(タンシュボ)は珣は身短き故にいふなり、能令公喜。能令公怒(ノウレイコウド)は自由にあつかふ役、◉〔講義〕帝奕は、名を奕と曰ふ、成帝の末の子なり、既に位に即きて會稽王の昱を以て丞相となす、桓溫は哀帝の時より、大司馬の役となり、內外の諸軍事を總督し、尙書の事を記錄し、揚州の牧を加へられ、移りて姑孰を鎭撫す、郗超を參軍となすこと、左右するをいふ、悉皆以て參軍の官となし、王珣を進めて主簿となすこと、恰も參軍の官と爲し、世上の人々が語て曰く、口びげ參軍と、一すぢの主簿と、いふ、能く桓溫公をして怒らしめ、能く桓溫公をして自由に使ふことは、其の解は詳かに解釋にあり、さてかやうなる語には、大抵は諷を含むものなり、此の語の如き

矢張り筋の字と怒の字と韻なり、一句目と三句目とは多くは韻を踏まぬものなり、○燕人攻陷洛陽。戍將死之。溫帥師伐燕。戰于枋頭。大敗而還。○燕慕容垂既擊破晉軍。威名日盛。燕王忌之。垂奔秦。○秦王猛督諸軍伐燕。遂圍鄴。秦王苻堅入鄴。執燕王慕容垂以歸。○晉桓溫陰蓄不臣之志。嘗撫枕歎曰。男子不能流芳百世。亦當遺臭萬年。欲先立功還受九錫。及枋頭之敗。威名頓挫。郗超勸溫行伊霍之事。以立大威權。溫遂入朝。自太后廢帝。在位六年。改元者一。曰太和。會稽王立。是爲簡文皇帝。◉〔解釋〕不臣之志。謂不臣之心。流芳百世。美名を後ふに傳ふるなり。遺臭萬年。惡名を後年に遺すなり。行伊霍之事。主昌邑を廢せし伊尹は其の君太甲を放ち、漢の霍光は其の主昌邑を廢せり、今桓溫が洛陽を攻め陷いりて、燕人が溫に勸めて、古の殷の伊尹や漢の霍光の如く、君を廢して帝を立むるなり、廢帝。帝を廢して海西侯となり。●〔講義〕燕人攻陷洛陽。戍將死之。桓溫が洛陽を攻め陷いりて燕人に戰死せしめ、燕の慕容垂が既に晉の軍勢を擊ち破り、威光名聲が日々に盛んなるを忌み憚かりしゆへ、慕容垂は恐れて奈に出奔す。」秦の王猛が諸軍を督して燕を伐ち、遂に鄴を取り圍めり、秦主の苻堅が鄴に入り、燕主の慕容垂を執らへて連れ歸れり、」晉の桓溫は陰かに人臣のあまき心を蓄へ、天子の位を奪はんと欲す。宜て枕を撫でゝ歎息して曰ふに、男子たるもの、已れの美名を百世に傳ふるとが出來れば、亦た惡名を萬年に遺すとも、先づ大功を立て、還て後ち九錫を天子より受けんと欲して居りに、枋頭の敗北に及んでは、威光名聲が遽かに墜ちて、威權を行ひ、大なる威權を執けたれば、郗超が溫に勸めて、古の殷の伊尹や漢の霍光の如く、君を廢し帝を立るなり、」帝。簡文皇帝。名昱。元帝子也。清虛寡欲。尤善玄言。桓溫迎即位。九閱月而不豫。急召桓溫入輔。如諸葛武侯。王丞相故事。溫望帝臨終禪位。否即居攝。不副所望。時謝安。王坦之在朝。溫疑坦之安沮其事。心甚銜之。帝在位改元者一。曰咸安。太子立。是爲烈宗孝武皇帝。◉〔解釋〕清虛。さつばりしてなるゝ。玄言。老莊の談。不豫。病氣の事。諸葛武侯。王丞相故事。諸葛孔明。王導ともに諸侯輔相をつとむる故例。居攝。任政の位に居ること。不副所望。副は分の思ひ通りにゆかぬと訓す。百ふは自ら御之。心中に憤怒を含むこと。●〔講義〕簡文皇帝は名を昱と曰ふ、元帝の子なり、性質がさつばりさてして無欲なり、尤も老莊の道を言ふを善くす、桓溫之れを迎へて位に即かしむ、九月を歷て病氣急に桓溫を召し入て政を輔けしむ、諸葛孔明や王導の故事の如くす、桓溫は帝が終臨に帝位を禪ゆらんことを望み、若し否ざれば即ち擁位に居て政事を執る、桓溫が疑ふに事皆な已れの望み通りにゆかざりしなら、安や王坦之が朝廷に謝安と間に、年號を改むと一つ、曰くしなら、安と、太子が立つ是れを烈宗孝武皇帝と爲す、帝は故に心中甚だ二人を恐みたり、帝は位に在す、其の事ゆまを一つせしなら、安と、太子が立つ是れを烈宗孝武皇帝と爲す、簡文皇帝。名昱。元帝子也。清虛寡欲。尤善玄言。桓溫迎即位。九閱月而不豫。急召桓溫入輔。如諸葛武侯。王丞相故事。溫望帝臨終禪位。否即居攝。不副所望。時謝安。王坦之在朝。溫疑坦之安沮其事。心甚銜之。帝在位改元者一。曰咸安。太子立。是爲烈宗孝武皇帝。◉〔解釋〕清虛。さつばりしてなるゝ。玄言。老莊の談。不豫。病氣の事。諸葛武侯。王丞相故事。諸葛孔明。王導ともに諸侯輔相をつとむる故例。居攝。任政の位に居ること。不副所望。副は分の思ひ通りにゆかぬと訓す。百ふは自ら御之。心中に憤怒を含むこと。●〔講義〕簡文皇帝は名を昱と曰ふ、元帝の子なり、性質がさつばりさてして無欲なり、尤も老莊の道を言ふを善くす、桓溫之れを迎へて位に即かしむ、九月を歷て病氣急に桓溫を召し入て政を輔けしむ、諸葛孔明や王導の故事の如くす、桓溫は帝が終臨に帝位を禪ゆらんことを望み、若し否ざれば即ち擁位に居て政事を執る、桓溫が疑ふに事皆な已れの望み通りにゆかざりしなら、安や王坦之が朝廷に謝安と間に、年號を改むと一つ、曰くしなら、安と、太子が立つ是れを烈宗孝武皇帝と爲す、

烈宗孝武皇帝。名昌明。年十歲。即位。○桓溫來朝。詔謝安王坦之迎于新亭。都下洶々。云欲誅王謝。因移晉祚。坦之其懼。安神色不變。溫既至。百官拜于道側。溫大陳兵衛。延見朝士。坦之流汗沾衣。倒執手板。安從容就席。謂溫曰。安聞諸侯有道。守在四隣。明公何須壁後置人邪。溫笑曰。正自不能不爾。遂命撤之。與安笑語移日。郗超臥帳中聽其言。風動帳開。安笑曰。郗生可謂入幕之賓矣。溫有疾還姑孰。超求九錫。安坦之故緩其事。尋卒。◉〔解釋〕都下。都の内なり、晉の天子の位、いふは天子の在り、天子界く、古は天子守り四隣に在り、云々いふは身に令德あれば四隣に在り諸侯に在り四隣に在り、洶々。物なりて手板を執りて手板さいふ、容從。顏色のいつもにかわらぬこと、手板。笏の事、宋以來笏を改めて手板と稱す、神色自若。心中甚だ二人を恐みたり、帝は位に在す、其の事ゆまを一つせしなら、安と、太子が立つ是れを烈宗孝武皇帝と爲す、烈宗孝武皇帝。名昌明。年十歲。即位。○桓溫來朝。詔謝安王坦之迎于新亭。都下洶々。云欲誅王謝。因移晉祚。坦之其懼。安神色不變。溫既至。百官拜于道側。溫大陳兵衛。延見朝士。坦之流汗沾衣。倒執手板。安從容就席。謂溫曰。安聞諸侯有道。守在四隣。明公何須壁後置人邪。溫笑曰。正自不能不爾。遂命撤之。與安笑語移日。郗超臥帳中聽其言。風動帳開。安笑曰。郗生可謂入幕之賓矣。溫有疾還姑孰。超求九錫。安坦之故緩其事。尋卒。◉〔解釋〕都下。都の内なり、晉の天子の位、いふは天子の在り、天子界く、古は天子守り四隣に在り、云々いふは身に令德あれば四隣に在り諸侯に在り四隣に在り、洶々。物なりて手板を執りて手板さいふ、容從。顏色のいつもにかわらぬこと、手板。笏の事、宋以來笏を改めて手板と稱す、神色自若。心中

の兵衛を陳するなり、何ぞ必ずしも、壁後に置人兵衛をぬいばなら、と、撤之、り排ふと、入幕之賓、朝廷近侍の志あるを謂するなり、故緩其事、に桓溫の今、病死す、

◉〔講義〕烈宗孝武皇帝は、名を昌明と曰ふ、年十歳にして位に即きたるなり、かばかりせざるなり、九錫、しかば餘安と王坦之との兩人に詔して之を輔けしめ、桓溫が安の神符を聞いだ懼れて、桓溫が安の神符を聞いだ懼れて、桓溫が王坦之の神符を聞いだ懼れて、桓溫が安の神符を聞いだ懼れて、桓溫が安の神符を聞いだ懼れて、桓溫が安

兵。敵人畏之。◉〔解釋〕謝遏衆舉親族人之心皆引而歸己。而道不拾遺。衆人京口を北府と謂ふ謝玄倶雄等を破り北方の兵と稱す。◉〔講義〕晉人京口を北府と稱す其の兵勁強なり。因りて北府兵と稱ふ如し。北府兵は謝安が推擧せし所にて、衆人と還て國のために、吾れ人は大に之を畏れたり。○秦遣兵分道寇晉。陷諸郡。執襄陽刺史朱序。以歸。已而議大舉。或謂晉有長江之險。堅曰。以吾之衆。投鞭於江。可斷其流。時中外皆諫。惟慕容垂姚萇。欲乘其釁。勸之南伐。堅遂發長安。戍卒六十餘萬。騎二十七萬。晉以謝石爲征討大都督。謝玄爲前鋒都督。督衆八萬拒之。劉牢之帥精兵五千趨洛澗。直渡水擊秦。前鋒梁成斬之。石等水陸繼進。堅登壽陽城。望見八公山草木。皆以爲晉兵。憮然有懼色。秦兵逼肥水而陣。玄使人謂曰。移陣少却。使我兵得渡。以決勝負。秦兵退。不可復止。朱序在陣後呼曰。秦兵敗矣。走者聞風聲鶴唳。皆以爲晉兵大敗。走者聞風聲鶴唳。皆以爲晉兵。憮然可乎。堅欲聽晉兵半渡擊之。麾兵使却。秦兵大敗。遂潰。玄等乘勝追擊。秦兵大敗矣。◉〔講義〕秦は兵を分ち道を遮り風聲鶴唳。風の聲と思ふなり。これは聽を聞きて狀を失ふなり。是に至り晉兵の至ると思ふなり。堅は本と晉の臣なり。執はれて秦の軍に在りと雖も實は晉の爲めにするなり。堅は晉兵の至ると思ふなり。是に至り晉兵の至ると思ふなり。堅は本と晉の臣なり。執はれて秦の軍に在りと雖も實は晉の爲めにする

坐側。無喜色。碁罷。客問之。徐曰。小兒輩已遂破賊。客去。入戸。喜甚。不覺屐齒折。其矯情鎮物如此。◉〔解釋〕文雅行住坐臥のみやびやかにして、文あること、徳量器量、夷然平靜なること、賭墅田盧を墅と以て碁のかけ勝負すること、捷書が勝ちいくさの報知、屐齒折下駄の歯の折れしこと、矯情鎮物内情の喜びを、いつはり、鎮たおしづめて平靜の顔すること、●〔講義〕幕客垂が秦に叛き、河内の土地に起り、北地郡より起り、自ら秦王と稱す、是れを後秦と稱す、是れを西燕と稱す、秦の苻堅は出奔す、後秦の主の姚萇が之を執らへて、之れを試したり、晉の太保の謝安が卒去したり、安の文雅なること、德量あり、秦の冦が攻めて、震ひ動くに、安は泰然として方に碁を圍む時に、別莊をもつてありければ、たゞ一覽にして、折りしも戰爭に關する書が至るに、安は喜ぶ色なし、碁を圍みて、客が之れを打ち破れりと、客が去るに及びて、安は戸内に入りて、喜べこと、甚しく、其の屐齒の折れたるも、一向知らぬほどでありしこと、此の如きこと、是れ劉庫仁爲其下所殺。弟頭眷代領其衆。庫仁之子顯。殺頭眷而自立。又欲殺珪。珪奔賀蘭部。依其舅。諸部大人。推珪爲主。遂即王位。徙居盛樂。後改稱魏。○燕主垂稱帝。于中山。○西燕慕容永稱帝於長子。◉〔解釋〕賀蘭部鮮卑の別種の名、慕容永稱帝於長子慕容永、永擊秦主符丕。丕敗南走。爲晉將軍邀擊殺之。慕容忠。又殺忠。立昌隨。又殺昌隨。立慕容永。永擊秦主符丕。丕敗南走。爲晉將軍邀擊殺之。慕容永稱帝於長子。◉〔講義〕秦主の苻堅の子の丕が、立ての西燕人通鑑には、左將軍の韓延なりとあり、●〔講義〕子の丕が、立ての西燕人韓延なりとあり、晉將軍晉陽に帝と稱す、弟の頭眷が代りて、拓跋珪が復た立ちて代王となる、是れより以前に劉庫仁が其の臣下の賀蘭部の大人たちが、珪を推して、魏と稱した、拓跋珪復立爲代王。先是劉庫仁爲其下所殺。弟頭眷代領其衆。庫仁之子顯。殺頭眷而自立。又欲殺珪。珪奔賀蘭部。依其舅。諸部大人。推珪爲主。遂即王位。徙居盛樂。後改稱魏。○燕主垂稱帝于中山。○西燕慕容永稱帝於長子。◉〔解釋〕賀蘭部鮮卑の別種の名、慕容永稱帝於長子慕容永、永擊秦主符丕。丕敗南走。爲晉將軍邀擊殺之。慕容忠。又殺忠。立昌隨。又殺昌隨。立慕容永。永擊秦主符丕。丕敗南走。爲晉將軍邀擊殺之。○秦疏族符登。稱帝於南安。◉〔講義〕秦の苻堅の疏遠の一族なる符登が、南安に於て帝號を稱す、符登が兵を引き連れて敗度後、秦と戰爭し、互に勝負あり、後秦の主に殺したり、前秦は苻健が穆帝の永和七年に、僭號して姚萇より是に至りて、大主、合せて四十四年にして亡びぬ、燕の主の垂が、西燕を擊ちて長子の地を拔き、西燕主の永を殺し、其の大に亂るゝ、燕の主の垂が卒し、子の寶が立ちたり、秦王の苻堅が敗れしより、卒し、子の丕が立ちたり、秦王の苻堅が敗れて王と稱す、秦の故臣の呂光なども、涼州に據りて、涼天王と稱し、鮮卑の乞伏國仁が卒して弟の乾歸が之れに據りて、秦王と稱す、國仁が卒して子の熾磐が立つ、後ち昭武に居り、後ち苑川に居り、後ち金城に居り、後ち先號に仍て改めて、魏と稱したり、西燕の慕容永は、帝を中山に立つ、又た隴を殺して、西燕人

婢蒙其面而弒之。在位十五年。改元者二。日寧康太元。太子立。是爲安皇帝。●〔解釋〕道子孝武帝の弟、嗜酒をすき、この酒を流連日夜酒をのみつゞけるを、解は孟子にあり長星妖星なり（妖星は其の狀、彗星に似たり）兵革に起る兆、世豈有萬年天子邪世間に萬年もつゞいて天子はなきとなり、自分より流連の意を示すなり、張貴人妃の名、細目には隧突の下に、吾意更に一少者一の六字あり、いふは汝、しさなり、蒙其面一する（面も最早や年をとりたるゆゑ、ゆく〳〵は退くべしとなり）蒙は覆ふなり、兵革の象と云て誰れも用心すべき、長星が見ば無事なり、帝は酒を汝事なすべき、長星よ汝に一杯の酒を勸む、世の中に豈に萬年もつゞいて天子はなきと

は禺峯（ユンさ國まで至り、東は朝鮮に接属し、南は大沙漠に臨むと、其の勞の小國が皆な制御せられて魏國を、數ふるに遑あらずと、

○晉盜孫恩數萬を劉裕等所に敗れ、海に入りて死す。其の黨盧循、徐道覆復た起る。○晉桓玄反す。初め玄の父溫を南郡公に封ずるや、其の才地に以て雄豪自處し、嘗て會稽王道子に謂ひて曰く、「江州刺史は、實に都督荊江等八州の軍事を據り、江陵に至れば是れ舉兵入建康を殺し、元顯又た道子を殺し、玄を爲して相國と爲し、楚王に加へ九錫を加へんとす。已に之れを打ち破りて、玄を征討して、玄が兵と戰ふや、大に之れを破る。已に帝に逼りて位を簒ひ、國を有つこと三年、玄が從父の桓溫に嗣ぎて南郡公と爲り、其の才能門地を自慢して、晉の桓玄が叛逆せり、初め溫は九州の長と爲り、荊州江州等の八州の長と爲り、

城ニ由リ洛陽ニ道ヒ武關ノ潼關ニ入ル長安ニ。泓敗出降ス。送テ建康ニ斬ル之ヲ。後秦亡ス。○夏主勃勃聞テ裕伐カントスト秦ヲ曰ク。裕必ズ取ラン關中ヲ。然レドモ不能ハ久留セ。若以テ子弟諸將ヲ守ラ之ヲ。吾取ラ之ヲ如キ拾芥ヲ耳ト。至テ是三秦父老聞テ裕將ニ還ラントスト訶門流涕シテ曰ク。殘民不ル霑ハ王化ニ於今百年ニ。乎。裕還ル彭城ニ。勃勃陷レ長安ヲ稱シ帝シ。歸ル統萬ヲ。◉〔解釋〕加ハ拾ノ芥ノ字ヲ、言フハ如キ拾芥ヲ之ヲ取ルガ如ク易キヲ也。

殘民ハ、言フハ爲ニ夷狄ニ陷リ入リ殘ノ民ヲ、不ル霑ハ王化ヲ、言フハ君ノ恩澤ヲ不ル蒙ヲ也。

始覩衣冠ヲ、言フハ中國ノ衣冠ヲ久々ニテ中華ノ人ヲ不ル見ヲ、今始メテ見ルヲ也。

●〔講義〕西秦ガ不ル臣ニ南涼ヲ、禿髮烏孤ガ卒シテ、弟ノ利鹿孤ガ立チ、利鹿孤ガ卒シテ、子ノ傉檀ガ立ツ、時ニ彭城ニ據リ、攻メ入リシニ長安ニ、遂ニ滅ス之ヲ。

始覩衣冠ヲ、言フハ中國ノ衣冠ヲ久々ニテ中華ノ人ヲ不ル見ヲ、今始メテ見ルヲ也。

●〔講義〕西秦ガ不ル臣ニ南涼ヲ、禿髮烏孤ガ卒シテ、弟ノ利鹿孤ガ立チ、利鹿孤ガ卒シテ、子ノ傉檀ガ立ツ、時ニ彭城ニ據リ、攻メ入リシニ長安ニ、遂ニ滅ス之ヲ。

傉檀ノ爲メニ襲ハレ、擧檀ヲ以テ連レ歸リ、合セテ三世、合セテ十八年ニシテ、至テ是ニ而滅ビヌ。南涼ハ禿髮烏孤ガ、安帝ノ隆安元年ニ僭シテ王ト號シテヨリ、之レヲ殺セリ、傉檀ノ主姚興ガ卒シテ、子ノ泓ガ立ツ、時ニ彭城ニ據リ、攻メ入リシニ長安ニ、遂ニ滅ス之ヲ。

孝武帝ノ太元年ニ、潛ニ謀リ伐ツ秦ヲ、而テ曰ク、劉裕ハ能ク三軍ヲ守ラシメ、而テ三衆ノ父老タルヲ、吾レガ將ニ之レヲ取ラントスルヲ、而テ不ル留マラ、是ニ必ズ不能ハ久シカラ留マ。若以テ子弟諸將ヲ守ラ之ヲ。吾取ラ之ヲ如キ拾芥ヲ耳ト。至テ是三秦父老聞テ裕將ニ還ラントスト訶門流涕シテ曰ク。殘民不ル霑ハ王化ニ於今百年ニ。乎。裕還ル彭城ニ。勃勃陷レ長安ニ稱シ帝シ。歸ル統萬ヲ。◉〔解釋〕加ハ拾ノ芥ノ字ヲ、言フハ如キ拾芥ヲ之ヲ取ルガ如ク易キヲ也。

殘民ハ、言フハ爲ニ夷狄ニ陷リ入リ殘ノ民ヲ、不ル霑ハ王化ヲ、言フハ君ノ恩澤ヲ不ル蒙ヲ也

して一國とある、今は南朝を以て提頭さおし、而じて北朝なも其の間に附錄したり、蓋し南朝北朝ともに正位にあらさるも、南朝を先きにするは諸夏を內にするの意ふり。

宋

宋高祖武皇帝。姓劉氏。名裕。彭城人也。相傳爲漢楚元王交之後。裕生而母死。父僑居京口。將棄之。從母救而乳之。及長勇健有大志。僅識字。小字寄奴。嘗行遇大蛇。擊傷之。後至其所。見有群兒擁藥。裕問爲何答曰。吾王所爲。劉寄奴所傷。裕曰。寄奴王者。不死。裕叱之。即散不見。初參劉牢之軍事。嘗遣覘賊。遇賊數千人。裕奮長刀獨驅之。諸軍因乘勢進擊大破之。裕由是知名。其後爲將相二十餘年。誅桓玄。平孫恩盧循。滅南燕後秦。卒受晉禪。◉〔解釋〕僑居京口　僑は寓ふり、京口は今の鎭江府丹徒縣ふり。

寄奴王者不死　劉寄奴は王者ふり、得て之れを殺すべからず。

●〔講義〕宋世々彭城に家す　彭城は春秋に劉氏に子、名は裕、因りて宋王に封せられ、遂に以て國號と爲す、彭城（今の江蘇徐州の地）の人ふり、相ひ傳ふ、漢の世の楚の元王交より以下、宋の高祖武皇帝、姓は劉氏にて、裕れは生れて乳を飲むこと數月にして母親が死せり、成長するに及んで、つよく母親が育てたり、父は都外れの地に寓居し、裕を棄てしんと欲す、從母ふる志ありて、少しばかりの文字を識る位のとこと、後ちに其の別所に至りて見るに、裕が周圍に群兒擁藥を以て療治するふりと、裕が曰ふに、何ぞ其の劉寄奴王は劉寄奴が爲めに傷けらるやと、答ていふに、吾が王は劉寄奴が爲めに傷けらるや

人。侃之曾孫也。少有高趣。嘗爲澎澤令。八十日郡督郵至。吏曰。應束帶見之。潛歎曰。我豈能爲五斗米。折腰向鄉里小兒。即日解印綬去。賦歸去來辭。著五柳先生傳。徵不就。自以先世爲晉臣。自宋高祖王業漸隆。不復肯仕。至是終世。號靖節先生。◉〔解釋〕晉徵士徵士に徵は猶ほ處士といふがごとし。既文も徳も有りて朝に召されて聞達あるも、皆辞して就かざるを徵士と云ふ。之れを得たりと雖も、其の人に屈せざるを以てなり。高趣鼠間のたかき、督郵郡官のつけ役、束帶禮服を着するを云ふ。折腰は拜揖に當る、鄙里の小兒を指す。五柳先生傳五柳は淵明の自號あり、門前に五株の楊柳あるを以て自ら命ず。●〔講義〕夏主の勃勃が祖父子の昌が繼ぎて立ちたる、晉の徵士の陶潛が辛しとせざる所なり。年少きより高尚あり、晉の九江に屬す、この人にて、潯陽（今まの江西の南康府）の縣令となり、八十日ほど過ぎて、郡の督郵と聞する役人が至りければ、屬吏の小兒の如きを以て、自ら命ず。門前に五株の楊柳あるを以て自ら命ず。五斗米は今の五升一合五勺に當る、鄙里に謁見せねばならぬ。五斗米の月俸の爲めに、冠帶を折りて、鄉里の小兒に腰を屈するの意なり。折腰は拜揖するの意なり。五斗米の月俸は、米十五斛（斛は十斗）を賦して去る、又五柳先生の傳を著す、官より命ずるまでもなく、自分に先代は晉の臣下たるを以て、宋の高祖劉裕の王業が、次第に隆盛となり、篡奪せんやと、縣のれいの月俸は、米十五斛

國惡(コクアク)一(イツ)して、あらはにかくさず。(國家の惡事をかくさずとも。)●〔講義〕魏が燕を伐つ、凋弊は甚しく、二十八年に至るまで、北燕は猶ほ殷盛(インセイ)にして、魏の義熙六年に滅ぼすまで二世、合せて百年に垂んとす。而して殺さるゝ、北涼は沮渠(ソキョ)蒙遜が、晉の安帝の義熙十年に僭號して牧犍(ボクケン)より是に至るまで二世、合せて二十四年にして、亡ひたり、段(ダン)[魏は司徒の役の「崔浩(サイコウ)」といへるものを殺す、浩は明元帝の時代より已に酷職の大臣たり、段々功績ありて、道術士の冠蹴之といふものを信仰し、佛法を惡み、沙門を誅殺し、佛の像や佛の書を毀つ、魏主に勸めて崇奉せしむ、天師の道場を鋤(コ)き、平城の東南に立てたり、北人は之れを惡(ニク)む。浩は先代の事を書して、皆な事實を詳細に調べ、恩と賂とを受けて之を直筆(ジキヒツ)せしむ、天師の道は浩に命じて、國の記錄を編修せしむ、

國惡（コクアク）（國家の惡事をかくさずしてあらはにかくと、）夷（イ）其族（ソクス）（一族を殺しのもすと、）●〔講義〕魏が燕を伐つ、馮跋は高麗の朝鮮の地に出奔す、而して殺さる、北燕は馮跋が晉の安帝の義熙六年に僭號して二十八年にして亡びぬ、魏が涼を伐つ、姑臧の城は濳へて牧能か降服す、後ち殺さる、北涼は沮渠蒙遜が、晉の安帝の隆安五年に僭號してより是に至るまで二世、合せて四十四年にして亡びたり、魏は司徒の崔浩（サイコウ）といへるものを殺す、浩は明元帝の時代より已に博識の大臣たりて、段々功績ありて、最も佛法を惡み、沙門を誅殺し、佛の像や佛の書を毀つ、魏王は浩に命じて國の記錄を編輯せしむ、天師の道場を立しめ、魏主に勸めて崇奉せしむ、浩は先代の事を審にして、皆な事實を詳細に記載（ノセ）せり、北人は之れを忿（イカ）り譏（ソシ）りて之れを誅殺し、其の一族を夷らげたり、

○宋魏連年互相侵伐。王玄謨勸宋大舉。沈慶之諫曰。耕當（ニ）問（フ）奴。織當（ニ）問（フ）婢。今欲伐（チ）國。奈何與（ニ）白面書生謀（ル）之。宋竟遣玄謨出師。取碻磝。進圍滑臺。先是魏主聞宋取河南。怒曰。我生髮未燥。是（レ）豎（ジュ）已聞（ニ）河南是（レ）我地。今天時尚熱。姑斂戍北歸。俟（テ）河氷合。以（テ）鐵騎蹂（ニ）之。至（テ）冬。魏主自將渡（レ）河。衆號（スル）百萬。鞞鼓之聲震（ニ）天地（一）。玄謨懼走。魏人追擊。玄謨敗走（ス）。魏帝引（テ）兵南下。直（ニ）至瓜步（一）。聲言欲（ス）渡（ラント）江。建康震懼。民皆荷擔而立。宋主登（リ）石頭城（一）。北望歎曰。檀道濟若在。豈使（メンヤ）胡馬至（ラ）此。道濟立功前朝。老於用（ヒ）兵。先（ニ）是以讒被（レ）收。目光如（シ）炬。脫（レ）幘投（レ）地曰。乃壞（ス）汝萬里長城。既誅（シ）魏人聞（テ）之喜曰。吳子輩不（レ）足（ラ）復憚。至（テ）是長驅無（ニ）能禦（ル）者。宋人或欲（ス）斬（ニ）玄謨（一）。沈慶之止（メテ）之曰。佛狸威震（ス）天下。控弦百萬。豈（ニ）玄謀所（ニ）能當（ル）。殺（セバ）戰將（ヲ）以自弱（ナリ）非（ズ）計（ノ）也。丁壯者斬（リ）截（シ）嬰兒貫（テ）槊（ニ）上（ニ）盤舞（ス）。所（ノ）過赤地。春燕歸（ス）。

欠

MISSING

隋

隋高祖文皇帝。姓楊氏。名堅。弘農人也。相傳爲東漢太尉震之後。父忠仕魏及周。以功封隋公。堅襲爵。堅生而有異。宅旁有尼寺。一尼抱歸自鞠之。一日尼出。付其母曰。自抱角出麟起。母大驚。墜之地。尼心動。亟還見之曰。驚我兒。致令晩得天下。及長相表奇異。周人嘗告武帝。普六茹堅有反相。堅聞之深自晦匿。女爲周宣帝后。周靜帝立。堅以太后父秉政。遂移周祚。即位九年。平陳。天下爲一。開皇二十年。廢太子勇爲庶人。初帝使勇參決政事。時有損益。勇姓寬厚。率意無矯飾。帝性節儉。勇服用侈。恩寵始衰。勇多內寵。妃無寵死。而多庶子。獨孤皇后深惡之。晉王廣彌自矯飾。爲奪嫡計。后贊帝廢勇。而立廣爲太子。◎(解釋)隋楊堅隋王となりて禪を受け、遂に隋を以て國號となす、長安に都す、隋古は隨を用ゆ楊堅其先代武川鎮に住す、世紀に、鷹四世の孫を孕(ショウ)ごと曰ふ、是を生み、渠が鉉(ゲン)を生み、渠等、常人に異なる紫氣庭にみつるを以て、走に近きを以て、走を去りて隋に作る、○相傳爲東漢太尉震之後。有異(ヘン)相。角出麟起。頭上にはかに角(ツノ)のだつと、心動ぎするむなさは、あやしきなり、眼は星の如く、額上肉角ありし等をいふ、周人王軌さつぶいふ者、普六茹堅三字の姓、堅の祖、祓、魏の孝帝鉉が祓を賜ふ、本姓は楊、反相(ソウ)の人相、晦匿(クワイジヨク)沈晦隱匿といふてオ力をつゝみかくすこと、移周祚(ソ)周の帝位を奪ふこと、平陳(チン)州三十、郡一百、縣四百を得たり、參決政事(ソウケツセイジ)まつりごとにまじ參決(サンケツ)すること、寬厚(カンコウ)心もちのゆつたりして物事に手厚きこと、卒意無矯飾(キヨウシヨク)みへかざりなきこと、服用侈(フクヨウシ)衣服

調度のはでやかなること、庶子（ショシ）の子獨孤（ドクコ）二字、爲（ナス）奪嫡（ロバウノテキ）計（ケイチ）子たらんことを、太子の勇を除き、已れ太子（タイシ）たらんことを、贊（タスケ）帝（ディ）天子をたすけなすこと、◉〔講義〕隋の太尉の高祖文皇帝は、姓は楊氏、名は堅と曰ふ、弘農の人なり、相ひ傳ふるには、東漢の太尉の楊震が子孫なりと、父の忠は、魏及び周に仕へ、功を以て隋公に封ぜらるるに至り、宅の近傍に尼の寺あり、時に其の母親に付託して一人の尼が、堅を抱かむ角歸り、自分に之れを鞠ふ、一日尼が他所へ出でゝ行くとあり、堅生れて不可思議のが出でゝ見て曰ふに、母親は大に兒を地上に驚きて、之れを落して驚かし、晩（オソ）く天下を得ろやうなことをなさしめたり、堅は反逆の人相ありと、堅は成長するに及び、人相が奇妙に凡人とは異なり、周人が皆しかく自分に器量を嘱まして武帝に告ぐるに、晉六朝の皇帝の宣帝の皇后きて爲る周の即位して陳を平定し、天下は父と統ふを以て、政事を執る、開皇二十年に太子の勇を廢し、位に移し取り、平民さ爲す、初め帝は勇をして厚く氣分がさせつばり自分の服用すること、帝の恩愛寵遇が始めて衰へたり、勇は寵愛の婦人多き故に、帝の子多し、獨孤皇后（キサキ）は深く之れを悪む、晉王の廣を立てゝ太子と爲す、獨孤皇后は、

策（ノゾ）帝不（ル）能（ハ）用（ヒ）罷歸（ルヲ）。教授（スルニ）於河汾之間（ニ）。弟子自（リ）遠至者甚衆。◉〔解釋〕詣闕（イタルケツニ）皇城の名、山西大原府より出で、黄河に入るの間に、甚だ多分にあり、汾水は、河津縣の王通なるものが、朝廷に詣り、太平の十二箇條を闕（ケツ）に獻じ、帝は用ゆる能にず、通は罷さめ歸る、河汾（河は黄河、汾は水）は、

龍門（今の山西平陽府河津縣）の王通（ダイ）なるものが、朝廷に詣り、太平の十二箇條を闕（ケツ）に獻じ、帝は用ゆる能にず、通は罷さめ歸る、河汾（河は黄河、汾は水）は、

○龍門王通。詣（イタル）闕（ケツニ）獻（ス）太平十二策（ヲ）。帝不（ル）能（ハ）用（ヒ）罷歸（ルヲ）。教授（スルニ）於河汾之間（ニ）。弟子自（リ）遠至者甚衆。◉〔解釋〕詣闕（イタルケツニ）皇城の名、山西大原府より出で、黄河に入るの間に、甚だ多分にあり、汾水は、河津縣の王通なるものが、朝廷に詣り、太平の十二箇條を闕（ケツ）に獻じ、帝は用ゆる能にず、通は罷さめ歸る、河汾（河は黄河、汾は水）は、

帝々自ら嬪（ヒン）を飾り、嫡子を廢（ハイ）せしめ、廣を立てゝ太子と爲す、獨孤皇后は、

帝々自ら嬪（ヒン）を飾り、嫡子を廢（ハイ）せしめ、廣を立てゝ太子と爲す、獨孤皇后は、

帝々自ら嬪（ヒン）を飾り、嫡子を廢（ハイ）せしめ、廣を立てゝ太子と爲す、獨孤皇后は、

譖（シン）佞（ネイ）遠（エン）人（ジン）監（カン）しかる、大業の末家に卒（シ）ぬ、○仁壽四年。帝不豫（ナリ）。召（シテ）太子（ヲ）入（レ）居（ル）殿中（ニ）。太子預（メラ）擬（スルニ）帝不諱後事（ヲ）。爲（ニ）書（テ）問（フ）僕射楊素（ニ）。得（テ）報（ヲ）。宮人誤（テ）送（ル）帝所（ニ）。帝覽（テ）之（ヲ）大恚（イカル）。帝所（ノ）寵（スル）陳夫人出更衣（ス）。爲（ニ）太子（ノ）所（ニ）逼（メラル）。拒（テ）之（ヲ）得（テ）免（ルヽヲ）。帝怪（シミ）其神色有異（ルヿヲ）。問（フニ）故（ヲ）。夫人泣（テ）然（リ）曰（ク）。太子無禮（ナリ）。帝恚（イカリ）抵（テ）床（ヲ）曰（ク）。畜生（ノ）。何足（ンヤ）付（ス）大事（ヲ）。獨孤誤（テ）我（ヲ）。將（ニ）召（シテ）故太子勇（ヲ）。廣聞（テ）之（ヲ）。令（ム）右庶子張衡入（テ）侍（セ）疾（ニ）。因（テ）弒（シ）帝（ヲ）。遺（テ）人縊殺勇（ヲ）。帝性嚴重（ナリ）。勤（メ）於政事（ニ）。令行禁止（ス）。雖（モ）齋（シ）於財（ニ）。賞功不（ル）吝（マ）。愛（シ）養百姓（ヲ）。勸（メ）課農桑（ヲ）。輕徭薄賦（ス）。自奉儉薄（ニシテ）。天下化（シ）之（ヲ）。受（ケ）禪之初（メ）。民戸不（ル）滿（タ）四百萬（ニ）。末年踰（エ）八百萬（ニ）。然自以（テ）詐力（ヲ）得（タリ）天下（ヲ）。猜忌奇察（シ）。信（ス）受讒言（ヲ）。功臣故舊（ヲ）。無（シ）終始保全（スル）者（ヿ）。在位二十四年改元者二（タビ）。

猜忌奇察。信（ス）受讒言（ヲ）。功臣故舊（ヲ）。無（シ）終始保全（スル）者（ヿ）。在位二十四年改元者二（タビ）。

猜忌奇察。信（ス）受讒言（ヲ）。功臣故舊（ヲ）。無（シ）終始保全（スル）者（ヿ）。在位二十四年改元者二（タビ）。

日（ク）開皇仁壽太子立（ツ）。是（レ）爲（ス）煬皇帝（ト）。◉〔解釋〕不豫（ナリ）病氣づくこと、預擬（アラカジメギス）不諱後事（ヲ）擬は度して以て待つなり、不諱は死なり、死は人の常なり、故に言ふなり、擬度して以て待つなり、不諱は死なり、死は人の常なり、故に言ふなり、擬度して以て待つなり、不諱は死なり、死は人の常なりと言ふなり、擬度して以て待つなり、不諱は死なり、死は人の常なり、故に

〔講義〕仁壽四年に、帝は病氣となり、太子の役のことを計る書を作り、僕射（ボクヤ）楊素に問て返答を得たりし、太子が預め帝の崩後其の書を帝の所に返すに、帝は之れを覽て大に悪み、其の爲めにいごまれ、やうやく之れを拒みて其の塚を免るゝを得たり、帝は其の所へ行ろしの常とは異なる大怪みと、其故を問ふに、夫人は泣然として淚を流すのみ、帝は愈悪り床を抵ちて日ふに、太子は無禮の畜生ものこさを何ぞ大事の天下を委托するに足らんや獨孤后を呼ばんやと、將さに廢せんとす、廢しては我れを誤らに侍坐せしむ、因り以前の帝を弑したり、人其の禁を犯すもの殺す、帝は性質嚴重にして惜むこと雖ども勤むる令あるれば其の賞するは行はれ、奢儉百姓を愛み、農桑を勸め、分課す、夫役をゆるべ賦稅をすくなくす、自分に奉養するも萬戸數が四百萬にも滿たざりしに、末年に至りては、八萬戸に過ぎず、陳より禪を受けし初めは、人民の戸數が四百萬にも滿たざりしに、末年に至りては、八萬戸に過ぎず、陳よりたり、然れども自ら詐僞の術を以て天下を得たりと、終りまで保ち全くせしものな、位に在すこと二十四年にして、年號を改めて仁壽と、太子が繼ぎて立ちたり、是れを煬皇帝と號す。

煬皇帝。名廣。開皇末立爲太子。是日天下地震。卽位首營洛陽。顯仁宮。發江嶺奇材異石。又求海內嘉木異草。珍禽奇獸。以實苑囿。又開通濟渠。自長安西苑。引穀洛水。達于河。引河入汴。汴入泗。以達于淮。又發民開邗溝。入江。旁築御道。樹以柳。自長安至江都。置離宮四十餘所。遣人往江南。造龍舟及雜船數萬艘。以備遊幸之用。西苑周二百里。其內爲海。周十餘里。爲蓬萊方丈瀛州諸山。高百餘尺。臺觀宮殿。羅絡山上。海北有渠。縈紆注海。緣渠作十六院。門皆臨渠。窮極華麗。樹宮凋落。剪綵爲花葉。綴之沼內亦剪綵爲荷芰菱芡。色渝則易新者。好以月夜。從宮女數千騎。遊西苑。

作清夜遊曲。馬上奏之。〔解釋〕首營土木の大役を營む、先づ江嶺江は大江なり、嶺は五嶺。苑囿苑は果木を種うる所、囿は禽獸を養ふ處、通濟渠一名汴渠。留の西に在り、西苑洛陽に在り、周圍三百里、穀洛二水の名、穀水は洛陽の穀城山より出で、洛水に合す、洛水は河南の偃師宜陽永寧壁縣の界を經て河に入る、汴河南開封府滎陽より西北に達し中牟界にいたる、泗山東兗州の陪尾山より發し、淮水に合す、淮鳳陽府に在り、諸水を合流して海に入る、邗溝今揚州に在りて府城を貫く、御道車駕往來するの道、ずなをいふ、遣人黃門侍郎王弘等龍舟船首に龍の飾りある舟、臺觀臺は土を高くつみあげ上に屋をいふ、觀はものみの屋をいふ、羅絡つらなりまとふ、縈紆うねりめぐる、宮樹宮苑內の樹木、剪綵きれいろ〳〵の綾を細工、綴之つけるに荷芰菱芡荷はにはちす、芰はひし菱はひし芡はなにはちすなり、色渝は變色のかはるをいふ、易は變なり、ふるびて清夜遊曲。魏の曹植清夜西園に遊ぶの詩を歌ひ、曲名に名づく、●〔講義〕煬皇帝は、名を廣と曰ふ、先帝の開皇年中の末に立ちて太子となり、色欲の事に耽たふ彩色のかはるなり、ふるびて異なる、是の日に天下が發し、又た世界中の嘉き木や、奇なる石などを求め捜がし、又た通濟渠を開き、長安の西の園より穀洛の水を引き入れ河までに通達せしめ、河水を導きて淮に入れ汴水を引きて泗に通じ、以て遠に發して江都まで至るやうにし又た民に柳の木を以ていす、長安より江都まで至る間に離宮を置くこと四十箇所餘り、其の間に天子の通行する道を開き、其の兩側へ樹うる所、旁に天子の通行する道を開き、其の兩側へ樹うる所、旁に離宮を置くこと四十箇所餘り、其の間

穿三百窖。窖皆容八千石。帝或如洛陽。或如江都。或北巡至榆林金河。或如五原。巡長城。或巡河右。營造巡遊無虛歲。◉〔解釋〕沁水（山西の沁水に出て河に入る。）城周（城は城郭にあらす、米穀ぐらを營造ふ。）倉の四圍を城といふ。窖（あな）營造（なんし）無虛歲（毎年〳〵休むときなきをいふ。）◉〔講義〕渠を開き、沁水を引き入れ、南の方は河に達するより餘杭に至るまで八百里（今の直隸保定府に通ずる又た洛陽宮を營む。）又た江南の河を穿ち京口より洛口倉を經て涿縣の東南に當る原の上に置き、其の周圍が二十餘里にして、三千の穴をほり、又た興洛倉を洛陽の北方に置き其の周圍が二十餘里にして、三千の穴を穿ち、窖毎に皆な八千石の米を容る、位の大きさなり、帝は或は洛陽に御幸し、或は江都に如き、或は北方へ巡回して、楡林金河（今の太同府）に至り、或は五原より、宮殿を營造したり、或は長城を巡り、或は河右の地を巡りしに、一年も虛しき歲はなかりし。徵天下驃師至者萬餘人。徵天下散樂。諸蕃來朝。陳百戲於端門。執絲竹者萬八千人。終月而罷。費巨萬。歲以爲常。◉〔解釋〕驃師（かたひら）散樂（いふ。）端門（皇城の正門。）執絲竹者（ばやしは絲竹をいふ。）百戲（散樂を雜散といふ。）◉〔講義〕天下の驃を使ふ者を徵す、散樂は部伍の正整にあらざるを以て諸蕃夷狄の諸國、百戲は竹は篇笛（能くするものを使ふ者を徵す、散樂は部伍の正整にあらざるを以て諸蕃夷狄の諸國、百戲は竹は篇笛（能くするものの正整にあらざるもあり、又た雜戲に天下中の散樂を優俳、倡、山車、巨象、板、非、種、爪等あり、奇怪異端百有餘物、故に隋より以前之を百戲といふなり諸の夷狄が來朝すれば、多くの戲れとを端門に陳列し絲を彈じ竹を吹くものが、一萬八千人もありて、一月を終へてやむ、毎歲以て常例とせり。通濟場の周圍五十步、絲竹をなす者萬八千人整數十里に門に於て盛んに百戲をなす、通濟場の周圍五十步、絲竹をなす者萬八千人整數十里に聞ゆ、昏より旦夕にいたるまで燈火の光り天地を燭らす、是より歲々以て常例となす、胡三省が曰く、丁丑は正月十五日なり、今人元宵の行樂は蓋し盛なり、此に始む。○徵高麗王入朝。不至。大業七年帝自將擊高麗。徵天下兵會涿郡。敕河南淮南江南。造戎車五萬乘。供載衣甲等。發河南河北民夫。供軍須。江淮以南民夫。船運黎陽及洛口諸倉米。舳艫千里往還。常數十萬人。晝夜不絕。死者相枕。天下騷動。百姓窮困。始相聚爲盜。◉〔解釋〕戎車（兵車なり、）供軍須（軍用の品を運ぶと、）舳艫（舟前を舳といひ、舟後を艫といふ、）死者相枕（死人あるとおびたゞしく、）◉〔講義〕高麗王を徵し寄せて入朝せしむるに、至らず、大業七年に至り、帝は自ら大將となりて高麗を擊つ、天下の兵士を涿郡に會せしむ、衣服や甲冑を供へ戒せ、河南河北の民夫を發し、軍中に河南淮南江南に敕して兵車五萬輛を造り、以て黎陽（今の大名府の園地及び洛口の諸倉の米を運ぶ舟のさもさへに供給へさきが千里ばかりも船を續き、往き以て黎陽に運ぶと常に二三十萬人晝夜さもたへず、死するもの相ひよりもたれ合ふ位にて、天下が姓が窮し困む、始めて相ひ聚りて盜を爲すに至れり、百戲散樂を端門皇城の執絲竹者ばやしは絲竹をいふ、

四方兵。皆集涿郡。一百一十三萬。饑運者倍之。首尾亘千餘里。帝至遼東。攻城不克。諸軍大敗而還。明年再徵兵。自將擊之。◉〔解釋〕饑運（食物を送りはこぶと、）◉〔講義〕涿郡（涿南今の直隸河間府地）に集り、一百十三萬人にて兵粮を餉くるものが此の人數に倍せり首尾が千餘里に亘る、帝は遼東に至り城を攻めて克たず、諸軍は大に敗れて還る、明年に亘る、帝は遼東に至り城を攻めて克たず、諸軍は大に敗れたり、○楚公楊玄感。見朝政。曰。奈。潛謀作亂。至是。督運黎陽。遂反。帝引軍還。遣將擊之。玄感自洛陽。引兵趨潼關。兵敗走死。帝又如涿郡。伐高麗。高麗遣使請降。帝還長安。已而如洛陽。如汾陽。如江都。巡遊仍無虛歲。◉〔解釋〕日奈（日々にもつれみだれるとと、）督運（運送）遣將（字文述等）◉〔講義〕楚公の楊玄感は、朝庭の政事が日々に奈ろいを見て、潛かに謀反を作さんとたくむ是に至り黎陽に兵粮を運ぶとを督する役を以て遂に反す、帝は軍勢を引て還る、大將を遣はして之れを擊たしむ、玄感は洛陽より兵を引き連れて降服に趨る、兵が打ち敗れ死す、帝は又た涿郡に如き、高麗を伐つ、高麗は使を遣はし請ふ、帝は長安に還るとが仍ほ虛しき歲はなかりき。○蒲山公李密兵起。密少有才略。志氣雄遠。輕財好士。嘗乘黃牛。以漢書掛牛角讀之。楚公楊素過而

奇之由是與素子玄感游初從玄感起兵玄感敗密變姓名亡匿時人皆云楊氏將滅李氏將興又有民謠歌曰桃李子皇后走楊州宛轉花園裏勿浪語誰道許謂桃李子者逃亡李氏子也莫浪語誰道許者密也密遂與群盜翟讓等起攻滎陽下之建牙統所部西行說下諸城大獲◉〔解釋〕雄遠志氣たけくして、高遠輕財金銀を惜まぬ、歌曰桃李子皇后走楊州宛轉花園裏勿浪語誰道許。密也。密遂與群盜翟讓等起。攻滎陽下之。建牙統所部西行。說下諸城大獲◉〔解釋〕

雄遠のナカレミダリニカタムルカト志氣たけくして、高遠輕財金銀を惜まぬ、歌曰桃李子皇后走楊州宛轉花園裏勿浪語誰道許。句○走一に槐に作る、皇后とは、昔な君なり、楊州は即ち江都宛轉は遊宴流連の狀をいふ、言ふは李密潛かに亂を作す圖の中に遊樂して反るを忘るゝ淚は紙袖にして、而して語と許とは語韻なり、大獲たのあまと輕く許、詐は此の如しといふと但し子どもの兵を起したり、密は年少より才氣や計畧ありて黃色なる牛に乘り、漢ぶんどりのあるとゝ。◉〔講義〕たけくして高遠なり、志氣が兵を好む、當て書を以て牛の角に由りて素が子の玄感に從ふて兵を起す、玄感が敗北せしかば、密は姓名を變じた民のはやり歌あり、時の人が皆な云ふに、楊氏は將さに滅びんとし、李氏は將さに興らんとす、又楊氏が子あり、李が子あり、皇后が楊州へ走むき花園の中にて宛轉とせいふ意なり、誰れが此の如く道ふやと、桃李子とは種密の同じきを以て、逃亡の李氏の子なりとさいふ意なり、故に李密が起りて楊氏は悉く滅し、皇后も走れるを下し、牙旗を建てゝ、委敵は解釋にあり、さて密は遂に群盜の翟讓等と起りて楊氏を攻めて之を降參し、大に敵のものを獲たり。○郡賊帥林士弘稱楚帝據江南○杜伏威據歷陽○竇建德稱長樂王○馬邑校尉劉武周朔方郎將梁師都各據郡起兵○李密據興洛倉署取河南諸郡稱魏公○突厥立劉武周爲定陽可汗◉〔解釋〕定陽可汗

陽○○竇建德稱長樂王○馬邑校尉劉武周朔方郎將梁師都各據郡起兵○李密據興洛倉署取河南諸郡稱魏公○突厥立劉武周爲定陽可汗取樓煩定襄雁門諸郡◉〔解釋〕定陽可汗

ことし、◉〔講義〕郡陽江西饒州に屬す）の賊長の林士弘なるもの、楚帝と稱し、江南の地に據りたり、杜伏威なるもの、歷陽の地に據りたり、竇建德が長樂王と稱したり、馬邑郡の校尉の役の劉武周や朔方郡の郎將の梁師都等は銘々に自分の郡に據りて兵を起したり、李密は興洛倉の役の梁師都を取る、自分に魏公と稱したり、突厥が劉武周を立てゝ定陽可汗と爲す、樓煩（山西の嵐州なり）定襄雁門の諸郡を取る、○梁師都取雕陰弘化延安等郡自稱梁帝○金城校尉薛舉起兵隴西自稱西秦霸王○武威司馬李軌起兵河西自稱涼王○薛舉自稱秦帝徙據天水○蕭銑起兵巴陵自稱梁王○○唐公李淵起兵大原克諸郡入長安時隋大業十二年帝在江都淵遙尊爲太上皇而立代王是爲恭皇帝◉〔解釋〕遙尊の號を上つる、故に遙尊といふなり◉〔講義〕梁師都なるもの、雕陰（今の陝西延安府甘泉縣）弘化（今の鄜昌府鄜州）延安（今の延安府）等の諸郡を取り自ら梁帝と稱したり、金城の校尉の役の薛舉なるもの、兵を隴西に起し、自ら西秦帝と稱したり、武威の司馬の役の李軌が、兵を河西に起し、自分に涼王と稱したり、薛舉が自ら秦帝と稱したり、武威の役の李軌なるもの、兵を巴陵に起し、自分に梁王と稱したり、唐公の李淵が、兵を太原に起し、諸方の郡に克ちて長安に攻め入りしが故に、淵は遙かに尊んで太上皇と爲し、而して代王を立つ、時に隋の大業十二年なり、帝は江都に在りし故に、是れを恭皇帝と爲す、

恭皇帝名侑煬帝之孫也年十三爲李淵所立改大業十三年爲義寧淵爲大丞相封唐王煬帝在江都淫虐日甚酒卮不離口見中原已亂無心北歸從駕多關中人思歸遂謀叛以許公宇文化及爲主夜引兵入宮縊殺煬帝宗室無少長皆死惟存秦王浩立之而自爲大丞相擁衆而西◉〔解釋〕淫虐淫亂虐暴酒卮酒を飲みさかづきなり、言ふは盞夜酒を飲みさほすと、中原已亂諸國の兵亂なり

北歸（北は長安洛陽をさす、）從駕（供奉の者、）許公宇文化及（許は國、公は爵、宇文は姓、化及は名、後周の族なり、）縊殺煬帝（宇文愛子果年十二、侈にありて號慟す、虞通之れを斬る、血を加ふるを得ん、鴆酒を取り來れと、賊許さず、帝曰く、天子の死、自ら法あり、何ぞ鋒刃を加ふるを得ん、鴆酒を取り來れと、賊許さず、帝金を頓して坐せしむ、帝自ら縊らんとす、）自爲大丞相（化及なり、）〔講義〕（恭皇帝は、名は侑と曰ふ、煬帝の孫なり、年十三にして李淵が爲めに立てらる、淫亂暴虐なること十三年を改めて義寧と爲す、淵は大丞相となり、唐公に封ぜらる、煬帝の訃を口に離さずして飲み續け、巾原は已に臨みて足らざるを見て、北方へ還る心なし、朝を退ては則ち幅巾短衣、蓬閤を徧歷して、汲汲として日景を視て、蕭后にいつて曰ふ、外間に大に人あり吾れをはかる、然れども且つ共にきるべしと、后醪を飲むを樂む耳と、因て滿を引て沈醉し、又貨賤苦樂は更〻照らしし選に之をなす、頓に誰れか當に之れをきるべしと、后醪を飲むを樂む耳と、因て滿を引て沈醉し、又貨賤苦樂は更〻照らしし選に之をなす、帝笑て曰く、故を聞ふ、帝笑て曰く、貨賤苦樂は更〻照らしし選に之をなす、帝自ら縊らんとす、）

十八史略講義卷之四終

十八史略講義卷之五

前進上盧陵　曾先之編次

大日本東京　士田泰士亮講義

唐

唐高祖神堯皇帝。姓李氏。名淵。隴西成紀人也。西涼武昭王暠之後。祖虎仕西魏。有功。封隴西公。父昞於周世封唐公。淵襲爵。隋煬帝以淵爲弘化留守。御衆寬簡。人多附之。煬帝以淵相表奇異。名應圖讖。忌之。淵懼縱酒納賂。以自晦。天下盜起。以淵爲山西河東撫慰大使。承制黜陟。討捕群盜。多捷。突厥寇邊。詔淵擊之。淵次子世民。聰明勇決。識量過人。見隋室方亂。陰有安天下之志。與晉陽宮監裴寂。晉陽令劉文靜相結。文靜謂世民曰。今主上南巡。群盜萬數。當此之際。有眞主驅駕而用之。取天下如反掌耳。太原百姓。收拾可得十萬人。尊公所將兵復數萬。以此乘虛入關。號令天下。不過半年。帝業成矣。世民笑曰。君言正合我意。乃陰部署。而淵不知也。會淵兵拒突厥不利。恐獲罪。世民乘間說淵。順民心。興義兵。轉禍爲福。淵大驚曰。汝安得爲此言。吾今執汝告縣官。世民徐曰。世民觀天時人事如

「此」故敢發」言。必執」告。不」敢辭」死。淵曰。吾豈忍」告」汝慎」勿出」口。明日復說」曰。人皆傳李氏當」應」圖讖」故李金才無」故族滅。大人能盡」賊。則功高」不」賞。身益危矣。惟昨日之言。可」以救」禍。此萬全策。願勿」疑。淵歎曰。吾一夕思」汝言」亦大有」理。今日破」家亡」身亦由」汝。化」家爲」國亦由」汝矣。先」是。斐寂私以」晉陽宮人」侍」淵。淵從」寂飲。酒酣寂曰。二郎陰養」士馬。欲」舉」大事。正爲」寂以」宮人」侍」公。恐事覺併誅耳。會煬帝以」淵不能」禦」寇。遣」使者」執」詣」江都。世民與」寂等。復說曰。事已迫」矣。宜」早定」計。且晉陽士馬精強。宮監蓄積巨萬。代王幼沖。關中豪傑並起。公若鼓行而西。撫而有」之。如探」囊中物耳。淵乃召募起」兵。遠近赴集。仍遣」使借」兵於突厥。◎〔解釋〕唐（唐は古國の名、周の成王の弟叔虞、此の地に封ぜらる。漢に太原郡と曰ふ、李淵唐王より遜に禪を受け、國を唐と號し長安に都す、因りて唐公と爲す、淵が祖なり）高祖（淵が祖父の名）を生み、欽（欽が重耳を生み、重耳が燭が虎を生む虎なり）乃ち帝（高祖）の祖（淵が祖父）なり。御」衆寬簡（人づかひ寬大にして、こせつかぬをいふ）、名應」圖讖（周の代に、深水黃楊は隋の姓なり、又た隋の末に、李氏將さに興らんとするの讖ありと、自ら晦（くらまし）て、以て忌を免れんとするなり）、承」制（天子の命を承けて專決するなり）、黜陟（退任免するを黜といひ、昇進するを陟といふ）、晉陽宮監（晉陽縣は太原郡に屬す。晉陽の宮監を領す、裴寂副監たり）、群盜（新唐書には李淵太原に留守たり、晉陽縣に離宮あり、故に宮監を置くなり）、自主（天命に應じ天子と稱す）、眞主（人民心を一世に出づ）、順」民心」代」王（隋の恭帝、初め代王に封ぜらる）、兵（兵馬）、縣官（朝廷なり）、昨日之言（民心に順ひ義兵を興すを勸めし言）、蓄積巨萬（兵糧器械ともに多し）、鼓行（鼓を鳴らして行くなり）、撫而有」之（撫して吾が有となす）、探」囊中物（其の豪傑を撫でやすきを囊中の物をさぐりて之を收めやすきに譬ふ）、〔講義〕

隋の恭帝、初め代王に封ぜられ、藥傑を鎭し、關中に鼓行し、撫而有」之

兵、縣官、昨日之言、蓄積巨萬、鼓行、撫而有」之

げんと欲す、正に寂が宮人を以て、私に侍坐せしめし故に、其事が發覺せば、公は勿論世民も併せん誅せられんとを恐るゝ爲めの故なりと、曾々公に告げて江都（今の揚州）に詣らしむ、世民と寂等と復た說て曰く、事已に迫る、宜しく早く計を定むべし、且つ晉陽の士馬精強也、宮監の叢積巨萬あり、代王幼冲にして、關中の豪傑並び起る、公若し戮行して西し、鎭撫して之を有せば、是れ帝王の業也、時不可失也、公自ら天子となる、孰之れか能く禦せん、と、公が如ける、突厥に借る、突厥の曰く、唐公自ら天子となる、兵馬を以て之を佐けよ、と、公當さに兵を起す、遠近赴き集る、依て以て唐より使を遣はし、兵を突厥に借る、突厥の曰く、唐公自ら天子となる、兵馬を以て之を佐けよ、と、公當さに兵を起す、遠近赴き集る、依て以て

○世民引兵擊西河拔之。斬郡丞高德儒。數之曰。汝指野鳥爲鸞。以欺人主。吾與義兵。正爲誅佞人耳。進兵取霍邑。克臨汾絳郡。下韓城。降馮翊。悉降於淵。合諸軍圍長安。克之。立恭帝。淵爲大丞相唐王。加九錫。尋受禪。立子建成爲皇太子。世民爲秦王。元吉爲齊王。◉（解釋）數之（數ヘ之）指野鳥爲鸞（隋の大業十二年に、二孔雀を獻ず、是に於て、西河東（一東の風突通を圍む、圍長安克之（世民は兵を引て、西河（今の汾州府）を拔き取り、郡丞（秦王浩字）を擊ち、朝散大夫に拜す、こゝに野鳥といふは孔雀なり、鸞は鳳凰に似たる靈鳥の名なり、圍

大に敗る、敬德尋相介休及ひ永安を拔て、世民に降る、世民敬德を得て喜ぶ甚し、其落衆八千に將たらしめ、踏營と相接す、屈突通其の變たるを虞り、騎を以て言を爲す、世民聽かす、劉武周金剛亦た走る、尋で皆唐に歸せり。○唐秦王世民督二諸軍一伐レ鄭。(講義)唐秦王世民諸軍を督して東征せしめんと欲す、則ち二子洛陽にあり、唐主通に問ふ、通曰く、陛下の爲めに節を盡す、但、死所を獲ざらんを恐る、耳、今先驅にそなふるを得た、乃ち二兒何んぞ願ふに足らんや、唐主歎して曰ふ、義に狗かふの士、一に此に至る乎、○吳主李子通襲二梁、梁主沈法興一走死。○夏主竇建德救レ鄭。唐秦王世民大に破二擒レ之一。鄭主王世充降。世民至二長安一。被二黃金甲一二十五將從二其後一。鐵騎萬匹。甲士三萬獻二俘太廟一。斬二建德於市一。赦二世充一。尋使二入潛殺一之。(解釋)二十五將皆鄭の甲を被る、二十五人の大將が其の後に從ふ、鐵の甲は降服したる士が三萬もあり、戰爭して、黃金充たる所のものを太廟に獻す、竇建德を市中に殺さしめたり、王世充を赦して人をして潛かに之れを殺さしめたり。○竇建德故將劉黑闥自稱二漢東王一。○楚王林士弘卒。○杜伏威送二長安一伏レ誅。○劉黑闥降レ唐斬レ之。○唐遣二將李靖一伐二梁梁主蕭銑一。銑降。送二長安一斬レ之。○唐淮南行臺僕射輔公祏反。於二丹陽一。唐將擊斬レ之。○慶州都督楊文幹反。遣二秦王世民一討平レ之。○突厥入二寇一。遣二秦王世民一禦レ之。遇二於豳州一。世民師騎馳詣二虜陣一。告レ之曰。我秦王也。虜不二敢戰一。受レ盟而退。(解釋)行臺尚書臺を外に行臺と稱するなり、隋には之を置かず、唐に至りて之を置く、則ち行臺は魏晉より之れあり、後魏に及んで、又之を外に行臺と稱するなり、通典に行臺省とあり、尚書令僕射各一人あり、蓋し其管する所の道に隨て外州に置て以て尚書の事を行はしむ、唐の初め亦た行臺を置く、貞觀以後廢す。(講義)竇建德が故の將の劉黑闥の始めて兵を漳洛(今の漳縣)に起したり、唐は大將の李靖を遣し梁を伐つ、梁主の蕭銑(シン)が李靖を吳主の李子通を擊ち執らへて長安に送り誅したり、杜伏威が吳主の林士弘が卒す、其の衆が遂に散じたり、漢東の將は劉黑闥を執らへて唐に降り、之れなる、唐の淮南道の行臺の僕射の役の輔公祏(セキ)なるもの丹陽(鎭江府下の縣)に反す、秦王の世民を遣し之れを討ち平らげたり、突厥が入りて寇す、慶州の都督の役の楊文幹なるもの反す、唐の大將が擊ちて之れを斬りたり、豳州(今の西安府の邠州)に遇ふ、世民は騎兵を引き連れ馳せて豳の陣屋に詣りて、之れを察がしめ、豳州に告げて曰ふに、我れは秦王なりと、敵は之れを聞て、敢てはすして、戰約を受けて退きたりぞ。○唐興七年。僭僞皆亡。天下既定。是歲初置州縣鄕學。帝親詣二國子學一釋奠于先聖先師。始定二官制一頒二新律令一。(解釋)僭僞帝や王を稱へる強僭の僞主、國子學(國子は貴遊子なり、卽ち長官なり、釋奠(テン)孔夫子を祭(サイ)る典禮の名、先聖孔夫子、先師(セン)頭回、始定官制、通鑑に、大總管を改めて大都督府と爲し、次に御史臺と爲し、次に太常寺と爲し、次に太府寺と爲し、次に左右衛府と爲し、左右領衛府を置く、王公は府佐國官を置くこと、十四衛と爲す、上柱國より武騎尉に至るまで、二十八階を文職非官と爲し、開府儀同三司より將仕郎に至るまで、三十一階を武職非官と爲す、驃騎大將軍等を勳官と爲す、凡て五十三條、(講義)唐が興り帝王と稱せしもの皆なし亡び、先聖人先師等に平定し、是の歲に初めて州縣や、鄕里の學校を置く、帝は親ら國子學に詣り、先聖に釋奠す、釋奠は禮の最も重き者なり、牲牢あり、合樂あり、三獻あり、而して其の采幣を釋置して而して神位の前に奠安す、故に之を釋奠と云ふ、又之を舍采と云ふ、而して釋菜と相混ずる者は非なり、釋菜は王制の郤註に釋と奠とを以て分つて二義と爲す、釋菜は疏なり、釋奠は孔子なり、釋奠の字を解くに本つく、其說大に謬れり、釋菜は文獻通考に詳かなり、釋奠は孔子を

斥す、始師は頗回を斥す、始めて官の制度を定め、親規の法律を頒布したり、貴定均田租庸調の法、丁中之民。給田一頃。篤疾減十之六。寡妻妾減七。皆以十之二爲差。世業八爲口分。毎丁歲入租粟二石。調隨土地所宜。綾絹絁布。歲役二旬。不役則収其傭。日三尺。有事而加役者。旬有五日免。其調。三旬租調俱免。水旱蟲霜。十損四以上。免救。損六已上。免調。損七以上。課役俱免。民貲業分九等。百戸爲里。五里爲鄉。四家爲隣。四隣爲保。在城邑者爲坊。田野者爲村。食祿之家。無得與民爭利。工商雜類。無預士伍。男女始生。爲黃。四歲爲小。十六爲中。二十爲丁。六十爲老。歲造計帳。三歲造戸籍。◎〔解釋〕均田即ち口税にして、絹を出す、調戸税なり絹(キヌ)(縑(ワク))、布(ヌノ)を出す、丁中之民中丁は人夫、中は上と下を通じいふ、田一頃田五尺を歩と歩を畝と頃とす、篤疾治しがたき病、及び老廢物(ラウヘイブツ)、減十之六十畝、四寡妻妾(ショウ)夫なき女、減七十畝、三十之一十分の二を減じて四十畝とす、後家やもめには、七分を減じて三十畝とす、皆な十分の二を以て、生活を業と爲す、八を口分田と爲す子ごとに歲々租や布を収む、歲々に役に使ふを二十日には、土地の能く出來る所の物に隨ふて上納す、綾や絹や絁や布三尺なり、事故有りて役を多く加へたれば、租も調も倶に免る、水や旱や蟲が附きたり霜が不時に降り、十分の内で四分以上を損すれば、十五日間にして其の調だけを免る、三十日役すれば、租をも免る、民の身代を九等に分つ、百軒を里と爲し、里五を郷と爲す、七以上を損するときは調を免る、六以上を損するときは、租を免る、上の上、上の中、上の下、中の上、中の中、中の下、下の上、下の中、下の下、

奏。初東宮官屬魏徵慶勸建成除世民。及是世民召徵責以離間兄弟。徵
舉止自若。對不屈。世民禮之。王珪亦嘗爲建成謀。皆以爲諫議大夫。帝自
稱爲太上皇帝。詔傳位於太子。是爲太宗文武皇帝。◎〔解釋〕太白經天
方にあらはる、此の星不時には星の名、春は東方にあらはれ、秋は西方にあらはれ、晝は出づれば兵亂の兆とす、經天とは長く空にひきわたるなり、見秦分はるの國の上にあらはる、秦王世民が兄弟を殺し天下を取るの兆、周公之事兄管叔弟蔡叔を殺すの故例、兄弟は建成、元吉、似爲世充建德報讎世民兄弟に於て、
兄弟を殺さんと欲する故に世充建德の爲めにこれに似たり、軍國事東宮官屬皆建成の
太子洗馬たり、舉止自若氣なるをも、◎〔講義〕見は武德九年六月に太白の星が天に經りたり秦の分野に見はる、建成と元吉とが世民を殺さんと欲す、秦王の府
の事を行はしむ、段々秦王に請ひ、乃ち一決したり、是に於て報
ずるに似たりミ、明日に兵を帥ゐて玄武門に進ひかけて、建成元吉の二人が門に入り、變
事のあるを覺りて還らんと欲す、世民は追ひかけて、建成を射て之れを殺し、尉遲敬德
は元吉を射殺す、遂に世民を立て太子と爲し、軍事國事ともに委任して處置
しむ、初め太子の舊官の魏徵なるもの、度々建成に勸めて世民を除き去らしめんとす、是に及びて世民が魏徵を召し、責問するに兄弟を離間するを以て
す、徵は寧ろ動もを平氣にしんして、世民は之れを赦して少しも屈せざりしかば、世民は之れを赦して
さらいへるも、亦た嘗て建成が爲めに謀りしをあり、皆な以て誅戮大夫の役と
自ら稱へしものも、亦た嘗て建成が爲めに謀りしをあり、皆な以て誅戮大夫の役と
太上皇帝と爲り、詔して位を太子の世民に傳へたり、是れを太宗文武皇帝と爲す、

太宗文武皇帝。名世民。幼日有二書生一兒之曰。龍鳳之姿。天日之表。其年幾
冠。必能濟レ世安レ民。書生去。高祖使二人追一之。不レ見。乃採二其語一爲レ名。年十八舉
義兵。李密降レ唐。初見二高祖一色尚傲。及レ見二秦王一不レ敢仰レ視。退而歎曰。眞英主
也。高祖以二秦王功高一特置二大策上將一。位在二王公上一。以二秦王一爲レ之開レ府置レ屬。

開レ館以延二文學之士一。杜如晦。房玄齡。虞世南。褚亮。姚志廉。李玄道。蔡允恭。
薛元敬。顏相時。蘇勗。于志寧。蘇世長。薛收。李守素。陸德明。孔穎達。蓋文達。
許敬宗。爲二文學館學士一。分爲二三番一更レ日直宿。王暇日輒至二館中一。討論文藉。
或至二夜分一。使二閻立本圖一像。褚亮爲レ贊。號二十八學士一。士太夫得レ預二其選一者。時
人謂二之登一瀛洲一。時府僚多補二外。如晦亦出。玄齡曰。餘人不レ足レ惜。如晦王佐
才。大王欲レ經二營四方一。非二如晦一不可。王即奏留之。使二參謀帷幄一。剖決如レ流。玄
齡每二入奏事一。高祖曰。玄齡爲二吾兒一謀レ事。雖レ隔二千里一。如二對レ面語一。◎〔解釋〕龍鳳
之姿　天子とならるべき人品風表は顏面なり、いふは日に對するばゆくて見つめられぬと、幾冠二十歳ち
か、開府置屬　天策府に長史司馬各一人、從事中郎二人、軍諮祭酒二人、典籤四人、主簿二人、六曹參軍各二人、參軍事六人の官屬を置く、
瀛洲　神仙のすむ瀛洲に登るごとし、と羨むなり、補外　出でゝ州郡守に任ぜらる、
そば近く伺候する參謀官、剖決如流　理をわかち疑を決するの才智、經營四方　王業を輔佐する
天下を平治するも、參謀帷幄　案に謀は陳の字の誤なり、陳は布くなり、新唐書通鑑、竝に陳に作る、◎〔講義〕太宗文武皇帝は、名を世民と曰ふ、幼少の時に一人
の書生あり、帝を見て曰ふに此の兒は誰や鳳凰の
姿にて、天日の人相なり、其の年が冠するに
と云ふて書生は立ち去りたり高祖は其の書生の言を
はいづれに行きて見へざりし、乃ち其の
して義兵を擧ぐ、李密が唐に降服し、初めて
りしに秦王の世民を見るや、貳の英雄なるを
官は皆以て之を稱するに足らずと特に天
し、府を開き館を開き、以て王公の上に
以て、乃ち館を開き、以て文學の士を延く、世民謙下
して、必ず能く世を濟ひ民を安んずるであらふ
と、其の書生に近くし、人に之れを問ひかけさせしに、其の書生
は其の言を聞き入れ、名を世民と曰ふ、年が十八に
して高祖に見參せし時は顏色が尚ほ傲りて居た
が、高祖は秦王世民が功大なるを以て、前代の業
を立ち退きて欲
しいまゝにするやう、貳の英雄なるを以て、之を稱するに足らずと特に天
策上將を以て、位王公の上にあり、世民を以て文學の士を延く、世民謙下

（トシロカイ）、房玄齢（ボウゲンレイ）、虞世南（グセイナン）、褚遂良（チヨスイリヨウ）、杜如晦（トジヨカイ）、房玄齢（ボウゲンレイ）、顔相時（ガンシヨウジ）、蘇世長（ソセイチヤウ）、薛収（セツシウ）、李守素（リシユソ）、于志寧（ウシネイ）、蘇世長（ソセイチヤウ）、薛元敬（セツゲンケイ）、顔相時（ガンシヨウジ）、姚思廉（ヨウシレン）、李玄道（リゲンダウ）、孔穎達（クエイダツ）、蓋文達（コウブンタツ）、許敬宗（キヨケイソウ）の十八人を文學館の學士と爲し、分陸（リクトクメイ）德明、孔穎達（クエイダツ）、蓋文達（コウブンタツ）、許敬宗（キヨケイソウ）の十八人を文學館の學士と爲し、分ちて三番と爲し、日を更へて、宿直せしめ、太宗も間暇の日には、輒ち學館の中に至り書物を討論し、或は夜分に至る、此の人々を十八學士と號す、士太夫たちの其の肖像を圖せしめ、贊文をなるを得しものは、時の人の之れを榮幸を言ふなり、時に秦王の府中の人は、多く外方の役に補任せられ、如晦も亦た外に出づるやうになりしに、玄齢が曰ふに、外の佐くるの才あり、大王は四方を經營し治めんこと欲せば、人は惜むに非ざれば不可なりと、秦王は即ち奏上して之れを留め置き、帷幄の中に居て、秦王の參謀たらしむ、參事を入るる者は、高祖が曰ふに玄齢は吾が兒の世民の爲に萬事を謀るも、千里の道を隔てゝ、あらざるなり、故に高祖が曰ふに玄齢は吾が兒の世民の爲に萬事を謀るも、千里の道を隔てゝ、語るも面のあたりにて、計策を決斷し、建成元吉を殺したりと、是に至りて位に即く、第一宮女三千人を放つ、

○突厥頡利突利二可汗合二十餘萬騎一入レ寇。進至二渭水一便橋之北一。上自與二房玄齢等六騎一徑詣二渭水上一與二頡利一隔レ水語。責以レ負レ約。突厥大驚。皆下レ馬羅拜。俄而諸軍繼至。旗甲蔽レ野。頡利懼請レ盟而退。◎〔解釋〕負約（武德六年、突厥帝の秦王たるとき、隴ヒ州に盟約す、今入寇して其の盟に負けり、）羅拜（一列に並び、旗甲（キコウ）（旗甲のおびくぐしきを、）蔽野（おほひくぐしきを、）◎〔講義〕の頡利の北に至る、上は自ら房玄齢等の六騎士と徑たに渭水の上りに詣りて、突厥の二可汗は、十餘萬人の騎兵を合はせて入りて寇す、進んで渭水（長安に入るの便橋なり）下りて語り、責問するに約束に負くといふを以てす、突厥は之れを聞て大に驚き、皆な馬より下りて羅列して拜したり、俄に諸軍が繼きて至り、旗や甲冑が野を蔽ふ、故に頡利は懼れて盟約を請ひて退く、初め蕃將上の敵を輕んずるを以て、馬を卽て固く謀む、上の曰く、吾之をはかるに已に熟す、突厥の敵て國を掠むけ而して來り郊甸にいたる所以のものは、我が國内に難あり、我が新に位に卽くを以てなり、我れ奸梁するの能はざるを以せば、必ず兵を輕騎獨り出で、之を輕するが若きを示す、又軍容を貿易して大に掠む、復た制すべからず、故に朕

亦猶是也。◉〔解釋〕執理（ヲ）如（シ）此（ノ）ごとく（ニ）道（ヒ）廉更（ヲ）清白（ヲ）を（ト）いふ、賈胡（ハ）胡國の商人のこと、受賕（ヲ）非義の財（ヲ）受（ル）ことは即ち賊罪となり、抵法（ニ）法律にかゝりおちぬるなり、好忘者（ハ）好は善く同義、猶ほ俗語の兎角さいふがごとし、馬善驚岸善崩の比の如し、◉〔講義〕上書（シテ）は上書して辯（ズ）ればなる臣を去らんことを請ふもの（ニ）あり、曰く、願くは群臣を試みんに、上の怒を恐れる臣なり、咸光を畏れて、上の旨に順ふもの（ニ）あり、曰く、願くは群臣を試みんに、上の怒を恐れて、道理を執り屈せぬもの（ニ）は、正直な

中。黃門侍郎。駁正之。上謂黃門侍郎王珪曰。國家本置中書門下。以相檢察。卿曹勿雷同也。時珪爲侍中。房玄齡。杜如晦。爲僕射。魏徵守秘書監。參預朝政。玄齡謀事。必曰非如晦不能決。及如晦至。卒用玄齡策。蓋玄齡善謀。如晦善斷。二人同心徇國。故唐世稱賢相。推房杜焉。徵嘗告上曰。願使臣爲良臣。勿使臣爲忠臣。上曰。忠良異乎。徵曰。稷契皐陶。君臣協心。俱享尊榮。所謂良臣。龍逢比干。面折廷爭。身誅國亡。所謂忠臣。上悅。◉解釋故事。故例也。雜署其名。列名連判也。五花判事。五花之判。必數人連署。故曰五花。或云五采。非雜改正。省審。可否之義。亦通。省審。可否之義。亦通。光華之義。亦通。五采。五花。皆草書。中書舍人六人。正五品上。進奏。政參議。中書舍人。正五品上。進奏。政參議。中書舍人。六人。正五品上。進奏。政參議。中書舍人。六人。正五品上。進奏。政參議。中書舍人。六

天可汗。上曰。我爲大唐天子。又下行可汗事乎。群臣及四夷皆稱萬歲。自是後璽書賜西北君長。皆稱天可汗。○貞觀四年。蔡公如晦卒。上語及必流涕。◎〔解釋〕四夷（東夷、西戎、南蠻、北狄）◎〔講義〕林氏（今いふ占城チヤンパ）が使者を遣はして入りて貢す」伊吾國（今いふ哈密カミツ）と云ひ、入朝したり」是より以前に、四方の夷狄の君長等が、ひしに帝の曰ふに、我れは大唐の天子たり、又た下も可汗の事を行ふてよからふやと、群臣竝に四夷のものが皆な萬歲と稱したり」貞觀四年に蔡公の如晦が死去したり、上は談が如晦の事に及ぶと必ず流涕を流がしたり、上語及べば必ず流涕す房玄齡に謂て曰ふ、公と如晦と同じく朕を佐く、今獨り公を見るに如晦を見ずと、○是歲大有季。上之初即位也。常與群臣語及教化曰。大亂之後。其難治乎。魏徵對曰。饑者易爲食。渴者易爲飲。治亂渴のときは飲食を擇ばず、いふは此の語は孟子に見ゆ、三代以還。夏殷周三代のこのかた、澆訛澆は浮薄、訛は詐僞、勤而不欲。邪徵曰。五帝三王。不易民而化。湯武皆乘大亂之後。身致太平。行帝道而帝行。王道而王。顧所行何如耳。上卒從徵言。二年關中饑。斗米直絹一匹。二年天下蝗。三年大水。上勤而撫之。未嘗嗟怨。至是天下大稔。米斗三四錢。終歲斷死刑。纔十九人。東至于海。南及五嶺。皆外戶不閉。行旅不齎糧。取給於道路焉。上曰。魏徵勸我行仁義。今既效矣。惜不令封德彝見之。蓋德彝元年六月死矣。◎〔解釋〕大有季（季は年と同字、大豐作をいふ、饑者易爲食渴者易爲飲（饑渴のときは飲食を擇ばず、いふは此の語は孟子に見ゆ、治め易きを、此の語は孟子に見ゆ、三代以還（夏殷周三代のこのかた、澆訛（澆は浮薄、訛は詐僞、勤而撫之（撫之（撫はなでまし民を撫育、一說に勤は慰勞なり、未嘗嗟怨（民飢餓に苦めども、その恩惠に感じて、少しも怨嘆をうらみず、外戶不閉（監閉ざず、故に外の戶は鎖さぬなり、不齎糧（齎は持つ、糧は食物、取給於道路（取給は、たゞやにと、◎〔講義〕是の歲は大豐年の初めて位に即くや、常て群臣と語り、敎化のことに及ぶ、上の曰ふ、今大亂の後を承けて、斯民の未だからざるを恐るゝなり、驕佚なれば則ち敎へ難し、魏徵對て曰ふ、然ふ、然りと、上深く之れを信して而して化し易し、饑者は飢ゑたるもの、渴者は渴したるもの、飲食を欲すること甚しくして、必ず飲食を擇ばず、渴者は渴したるもの、飲食を欲すること甚しくして、必ず飲食を擇ばず、いふは此の語は孟子に見ゆ、三代以還（夏殷周三代のこのかた、澆訛（澆は浮薄、訛は詐僞、勤而撫之（撫之（撫はなでまし民を撫育、一說に勤は慰勞なり、未嘗嗟怨（民飢餓に苦めども、その恩惠に感じて、少しも怨嘆をうらみず、外戶不閉（監閉ざず、故に外の戶は鎖さぬなり、不齎糧（齎は持つ、糧は食物、取給於道路（取給は、たゞやにと、◎〔講義〕是の歲は大豐年の初めて位に即くや、常て群臣と語り、敎化のことに及ぶ、上の曰ふ、今大亂の後を承けて、斯民の未だからざるを恐るゝなり、驕佚なれば則ち敎へ難し、魏徵對て曰ふ、然ふ、然りと、上深く之れを信して而して化し易し、饑者は飢ゑたるもの

の義に取るなり、但し九功は、奥書大禹謨ヲホに見ゆ、「偃」武兵事を偃ヤム、「修」文禮樂を修おこす、諦觀物するしかと見ると、〇（講義）五年に林邑（新羅（朝鮮を、六州を開く）が内附したり、其の地を開拓して十六州と爲したり、七年の春に北武門に酒宴す、七德と九功との舞を奏す、徵は上が武道は偃せ止め、文道を修めおこさんとを欲す、酒宴に侍坐するごとに、七德の舞を觀ては、則ち之れを審かに觀る、王珪が職を諮めて、魏徵が侍中と爲れり、〇上親錄二囚徒一見レ應レ死者一閔レ之縱使レ歸レ家。期以二來秋一就レ死。仍敕二天下一死囚皆縱遣レ至レ期來詣二京師一。至レ是皆如レ期。自詣二朝堂一。上皆赦レ之。凡三百九十人。〇上奉二太上皇一置二酒未央宮一。上皇命二頡利一可汗起舞。馮智戴詠詩。笑曰。胡越一家。古未レ有也。◉（解釋）錄二囚徒一。宛滯の罪人をしらべ、死罪に行ふべきものを記錄し、囚人を記錄して家に歸らしめ約束するに來年の秋に來るに、縱るして家に歸らしめ、約束するに來年の秋に來るに、縱るして、皆な縱るし遣る、日限が至れば、京師に來り詣れ、と言ひ付け置きしに、是に至り皆な約束の如く、自ら朝廷の堂に詣る、上は皆な之を赦す、其の囚徒が凡そ三百九十人あり、上皇に奉從して未央宮に酒宴す、上皇は頡利が詩を詠ず、笑ふて曰く、胡と越とが一家の如く親しくなるは、古より未だ有らずと、〇八年。吐蕃遣レ使入レ貢。〇九年。太上皇崩。上皇即レ位。九年而禪レ位。至レ是又九年。〇吐谷渾。先レ是入寇。涼州以二李靖一帥二諸軍一討破レ之。〇十年。吐谷渾遣レ子入レ侍。〇治書侍御史權萬紀言。宣饒銀大發。來レ之歲可レ得二數百萬一。上曰。卿未レ嘗レ進二一賢才一。而專言二銀利一。昔堯舜抵レ璧於山。投レ珠於谷。漢之桓靈。乃聚二錢爲一私藏。卿欲以二桓靈一俟我耶。黜レ之。◉（解釋）銀大發山に銀の多きを言ふ、抵擲於山。投珠於谷。抵はなげうつと、聖人は金玉を寶とせずして善を寶とせず、故に山谷に棄てて、淫邪の欲を塞ぐなり、桓靈乃聚錢爲私藏。後漢の桓帝は、百官の俸を減じて爵を賣り、私貯とせり、俟レ我見なしあしらふ、われを桓帝靈帝と

〔講義〕八年に吐谷渾が是より先、太上皇が崩御す、上皇は位に即き年なり、吐谷渾が是より先、太上皇が崩御す、上皇は位に即き年なり、吐谷渾が子を遣はし入貢せしむ、治書侍御史の權萬紀が言ふに、宣饒の地に、銀が大に發する故に之を取らば、歳々に數百萬の銀を得ることが出來ると、上の曰く、卿は未だ嘗て一人の賢才あるをも進めもせずして、專ら銀の利益を言ふは、何故なるや、昔し堯舜は璧を山に抵ち、珠玉を谷にも投げ棄て、漢の桓帝靈帝は、乃ち銀の利益を求めて私の藏物と爲す、其の方は桓靈の仕方を以て我に俟たんと欲するかと、て之れを黜けたり、〇定二府兵一。凡十道。置二府六百三十四一。皆隸二諸衞一。及東宮六率。上府兵。凡千二百人。中府千人。下府八百人。三百人爲レ團。團有二校尉一。五十人爲レ隊。隊有レ正。十人爲レ火。火有レ長。每レ人兵甲粮裝各有レ數。輸二之庫一。征行給レ之。二十爲レ兵。六十而免。能騎射者爲二越騎一。其餘爲二步兵一。更二命統軍別將一。爲二折衝果毅都尉一。每レ歲季冬各折二衝都尉一。帥レ以教レ戰。當レ給レ馬者官與直。當二宿衛一者番上。兵部以二遠近一給レ番。遠疎近數。皆一月而更。◉（講義）府兵の制は、凡そ十道、府を置く六百三十四、關内には二百人中府は千二百人、下府は八百人、三百人を團とす、團には校尉あり、五十人を隊とす、隊に正あり、十人を火とす、火に長あり、人每に兵甲、各數あり、之を府庫に輸す、征行には之を給す、二十にして兵となる、六十歳にして免す、能く馬に乘り弓を射る者を越騎とす、その他は歩兵とす、統軍別將を置く、折衝果毅、都尉とす、歳の末每に之を帥て折衝府に會して、武藝を校す、兵部は遠近を以て番を興ふ、宿衛すべき者は、交代宿直す、兵部は遠近を以て交代せり、〇十三年。夏旱。詔二五品以上一言レ事。魏徵言。陛下比二貞觀初一漸不レ克レ終者十條。上深獎歎。◉（解釋）不克終結局のよろしからぬと、十條一に曰く、使を遣はしては徵求す、二に曰く、奢靡に人力を用ゆることを思ふ、三に曰く、小人を昵み君子を疎んず、五に

曰く、異物を貴び、無益を作す、六に曰く、輕色に接せず、九に曰く、徳を長じ欲を縱まゝにし、事なくして兵を興す、十に曰く、閑中の民徭役勞奬すること勿れ、以上皆な貞觀の初めに如かずといふなり、奬歎かくべつ賞譽す、(講義)以上十三年の夏に詔して事を言はしむ、魏徵が陛下は貞觀の初めに比較するに、漸く終を克くせずして、心の弛るびたるとき、十ケ條あり、と、並べ立てしに上はほゝ〳〵と歎美したり、

○十四年。上詣國子監。親釋奠。是時大徵天下名儒爲學官。數幸國子監。使之講論。學生能明一經已上者。皆得補官。增築學舍。千二百間。增學生滿三千二百六十員。自屯營飛騎。亦給博士授經。有能通經者。聽得貢擧。於是四方學者。雲集京師。乃至高麗。百濟。新羅。高昌。吐蕃。諸酋長。亦遣子弟。請入國學。升講筵者。至八千餘人。上以師說多門。章句繁雜。命孔穎達。與諸儒定五經疏。謂之正義。(解釋)國子監、國學の國子監、升講筵、講釋の席に出、師說多門、春秋に服虔(ハクケン)、杜預の說あり、書經は孔安國、鄭玄の註ある如きをいふ、章句繁雜、はしきをいふ、諸儒、顏師古、司馬オ等、五經疏、疏は註のこゝろを疏通するの義なり、(講義)十四年に、上は國子監に詣りて、親から孔子を祭りたり、是の時大に天下の名儒たちを徵して學官と爲す、度々國子監に御幸し、名儒たちをして講論せしむ、學生の能く一經より以上に明かなるものは、皆な官に補するを得たり、學舍を增し築くこと、千二百間にして、學生を增し三千二百六十員に滿つ、屯營飛騎位のものゝ子弟にも、亦た博士を給し經を授く、能く經に通ずるものあれば、貢擧せらるゝを得ることを許す、是の時に於て四方の學者等は、京師に雲の如く集まる、乃ち高麗、新羅、百濟、高昌、吐蕃の諸酋長に至るまでも、亦た子弟を遣はして、請ふて國學に入る、講義の場所に升るもの、八千餘人に至る、上は師說が門多くして書物の章句なごと繁雜なるを以て、孔穎達(クエイダ)に命じて、あまたの儒者たちと定めしむ、之れを正義といふ、

○高昌王麴文泰。先是多遏絕西域朝貢。及拘留中國人。以侯君集爲交河道行軍大總管。將兵擊之。至是滅高昌。以其地爲西州。(解釋)遏絕、使者を路にせきとめ通ぜしめず、(講義)高昌王麴文泰が是れより先き往來する人を拘へ留めしより、詔して之れを擊つ、是に至りて高昌即ち火山(インカイサン)、柴紹(サイショウ)、殷開山(インカイサン)、長孫順德(チヨウソンジユントク)、李靖(リセイ)、蕭瑀(シヨウウ)、段志玄(ダンシゲン)、劉弘基(リウコウキ)、張亮(チヨウリヨウ)、侯君集(コウクンシユウ)、張公謹(チヨウコウキン)、程知節(テイチセツ)、侯世南(ゴセイナン)、劉政會(リウセイカイ)、唐儉(タンケン)、丘行恭(キウカウキヨウ)等を以て交河の大總管と爲し、兵に將として之れを滅ぼし、其の地を以て西州と爲したり、

○十七年。鄭公魏徵卒。上曰。以銅爲鏡。可正衣冠。以古爲鏡。可見興替。以人爲鏡。可知得失。徵沒朕亡一鏡矣。徵葬上自製碑書石。(解釋)興替、替は廢なり、興亡なり、興亡製、碑、碑はいしぶみなり、製は造なり、(講義)十五年に、魏徵が死沒して、朕は一鏡を亡ふたり、と、徵を葬る時に、上は自ら石碑を製して石に刻みたり、

○圖畫功臣。長孫無忌。趙郡王孝恭。杜如晦。魏徵。房玄齡。高士廉。尉遲敬德。李靖。蕭瑀。段志玄。劉弘基。屈突通。殷開山。柴紹。長孫順德。張亮。侯君集。張公謹。程知節。虞世南。劉政會。唐儉。李勣。秦叔寶等。於凌烟閣。(講義)王有功の臣の長孫無忌、趙郡王孝恭、杜如晦、房玄齡、高士廉、尉遲敬德、李靖、蕭瑀、段志玄、劉弘基、屈突通、殷開山、柴紹、長孫順德、張亮、侯君集、張公謹、程知節、虞世南、劉政會、唐儉、李勣、秦叔寶、等を凌烟閣(レウエンカク)に圖畫したり、

○太子承乾不才。魏王泰多能有寵。潛有奪嫡之志。侯君集貳功怨望。以承乾暗劣。欲乘釁因勸之反。事覺。廢爲庶人。君集坐誅。恭亦以險詐不立。立晉王治爲太子。(解釋)貳功、手柄をたのみてうらむなり、望はのぞむの意に非ず、險詐、氣立けはしくして誠實の心なし、(講義)太子の承乾は不才

なり、魏王の秦は多能にして溜愛あり、ひそかに嫡子を奪ひて、自分に立つの志あり、侯君集は功を負んで上を怨望す、承乾の暗く劣りたるを以て、深隙に乗ぜんと欲す因りて之れに謀反を勧む、事が覚はるに及び、廃して平人と為す、君集も其の事に連坐して誅殺せらるる筈なりしが、亦た険悪にして人を以て立つるを以て誅るるを免れ、太子と為す、○魏徴嘗薦二君集一。上始疑二徴阿一レ黨。又有レ言。徴自錄前後諫辭。示二起居郎褚遂良一。上愈不レ悦。徴臨レ終。上面指二公主一欲レ妻二其子叔玉一。至レ是停。其婚一。踣所レ立碑。（解釋）阿黨（おもねりくみする）。（講義）魏徴が嘗て君集を上に薦めたりし、又た上にまぬふしあぐる者あり、徴が君集におもねりくみするかと疑ふ、又た上に欲せしに是に至りて其の婚姻をさゝばめ、立てし所の徴が石碑を踣したほしたり、○十八年。上親征二高麗一。新羅入貢之路。乞レ兵救援。上遂討レ之。先如二遼東一。進二諸軍一。上渡二遼水一。拔二遼東城一。降二白巖城一。攻二安市城一。大破二其救兵一。於城下一。安市城険兵精。堅守不レ下。議者欲レ抜二烏骨城一。渡二鴨綠水一。直取二平壤一。覆二其本根一。則餘可二不レ戦而降一。或又謂。親征異二於諸將一。不レ可レ乗レ危。上以二遼左早寒草枯水凍。士馬難二久留一。且糧將レ盡。勅班レ師。是行抜二十城一。徙二戸口七萬一。三大戦。斬首四萬餘級。然戦士死者。幾三千人。戦馬死什七八。不レ能レ成レ功。深悔二之。歎曰。魏徴若在。不使二我有一レ此行一也。命駈驛詣レ徴。以二少牢一。復立所製碑。（解釋）覆（くつがへす）。其本根（攻め陥ぬるも、平城の本城を攻めざるをいふ）。駈驛（宿次の早馬を以ていふ）。少牢（羊豕をそなへるを、大牢を加ふ）。（講義）二十八年に上は親から高麗を征伐す、是れより以前に、高麗の泉蓋蘇文（センコウブン）其の君を弑す、新羅が入貢ひ、援けし言ふに、百濟は高麗と兵を連れて、新羅が入貢ひ、援けし言ふに、百濟は高麗と兵を連れて、先づ洛陽に如きた上は遂に之れを討し、先づ洛陽に如きたり（今の盛京）の城を抜き取り、白巖城（朝鮮にあり）を攻め、大に其の救助の兵を城下に破る、安市は城が険阻にして、兵だ朝鮮にあり）を抜き取り、鴨綠水（朝鮮にあり）を渡る、遼東城（亦朝鮮にあり）を攻め、大に其の救助の兵を城下に破る、安市は城が険阻にして、兵だ朝鮮にあり）を抜き取り、鴨綠水（遼東

ベシと、仍リテ天下ニ嘗ヲ清メテ百王ニ酬ヒ、兇惡ヲ除キテ千古ニ報ユ。上ハ詩ヲ作リテ曰ク、毗陵ニ立テタリ、靈州ニ示ス、上ハ詩ヲ作リテ曰ク、

梁公房玄齡卒。上悲不自勝。玄齡佐上定天下。及終相位。三十二年。號爲賢相。然無迹可尋。上定禍亂。而房杜不言。功。王魏善諫諍。而房杜讓其賢。英衛善將兵。而房杜行其道。理致太平。善歸人主。爲唐宗臣。

○二十二年。司空英公李勣、卒。（講義）二十二年ニ、司空ノ梁公房玄齡ガ卒ス。上ハ悲ンデ自ラ勝ヘズ。玄齡ハ上ヲ佐ケテ天下ヲ定メ、幸相ノ位ニ在ルコト三十二年ノ間、號シテ賢相ト爲ス。然レドモ功迹ノ尋ヌベキモノ無シ、德モ亦タ至レリ、上ハ禍亂ヲ定メタレドモ、房玄齡、杜如晦ニ讓ル。英衛ハ善ク兵ヲ將ヰタリ、而シテ房杜ハ英衛ノ兵道ヲ行フ、治メ方ハ房杜ノ二人ハ、王魏ノ人ノ主ニ歸ス、唐ノ肝要ナル臣タリ、（解釋）無迹ハ功迹ナシ、房玄齡、杜如晦、王珪、魏徵、英衛公李勣、

可尋。

○二十三年。上有疾。謂太子曰。李世勣才知有餘。然汝與之無恩。我今黜之。我死用爲僕射親任之。若徘徊顧望。則當殺之。耳乃左遷疊州都督。受詔不至。家而去。（解釋）徘徊顧望ハ、（講義）二十三年ニ、上ハ病氣アリ、太子ニ謂ヒテ曰ハク、李世勣ハ才氣智識ガ十分ニ餘リアリ、然レドモ、汝ハ之レヲ恩義ナシ、恐ラクハ懷服スル能ハズ、其レ故ニ我レ今マリ、之レヲ疑惑シタレバ、則チ之レヲ殺スベキノ官ヲ與ヘテ之レヲ親ミ任セヨ、若シ勣ガ、乃チ疊州今ノ四川疊溪千戶所ノ部曾ニ降シテ、徘徊ハ徘徊ノゴトシ、イフルナリ、恐ラクハ懷服スル能ハズ、其レ故ニ我レ今マリ、之レヲ疑惑シタレバ、則チ之レヲ殺スベキノ官ヲ與ヘテ之レヲ親ミ任セヨ、若シ勣ガ、乃チ疊州今ノ四川疊溪千戶所ノ部曾ニ降シテ、

詔ヲ受ケテ家ニ歸ラズシテ去リタリ、（徘徊ハ猶ホ徬徨ノゴトシ、心ヲ以テ而シテ事ニ就カザルノ意ナリ、）

太宗機數ヲ以テ李世勣ヲ御スル、世勣モ亦タ機心ヲ以テ君ニ事フルノ意ナリ、）

崩。在位二十四年。改元者一。曰貞觀。

○上雖以武功定禍亂。終以文德綏海內。常自以驕侈爲懼。嘗曰。人主惟一心。攻之者衆。或以勇力。或以辯口。或以諂諛。或以姦詐。或以嗜欲。輻湊各求自售。人主少懈而受其一。則危亡隨之。此其所以難也。嘗問侍臣。創業守成孰難。玄齡曰。草昧之初。群雄並起。角力而後臣之。創業難矣。魏徵曰。自古帝王莫不得之於艱難。失之於安逸。守成難矣。上曰。玄齡與吾共取天下。出百死得一生。故知創業之難。徵與吾共安天下。常恐驕奢生於富貴。禍亂生於所忽。故知守成之難。方與諸公愼之。（解釋）輻湊ハ、（講義）「上ハ海內ヲ定メテ年號ヲ改メシトキニ在リ、二十四年ニシテ貞觀ト曰フ。」

（講義）「上ハ海內ヲ定メテ年號ヲ改メシトキニ在リ、二十四年ニシテ貞觀ト曰フ。」

輻湊ハ、（講義）

義」自から之を知て常に假すに顏色を以てす、故に足る、故に常に温順なる顏色を以てす、故に群臣進見するものは皆舉措を失す、上きて諫めしめ、諫むる者を賞して以て之れを來たす、惟だ末年に高麗を征伐する役のみは、褚遂良が皆て諫めたれども聽かず、太子が細で立つ、是れを高宗皇帝と爲す、

高宗皇帝。名治。母長孫皇后。承乾廢。長孫無忌。力勸太宗立レ治。在東宮七年。太宗嘗作帝範十二篇一以賜曰。脩身治國盡在其中。一旦不諱。更無言矣。至レ是即位。長孫無忌。褚遂良。受二先帝遺詔一輔レ政。以二李勣一爲二左僕射一。尋爲二司空一。◉〔解釋〕承乾廢の眞視十八年にあり、非前に見ゆ、遺詔天子の遺言、李勣李世勣のも、此の後ち世の字を避くるなり、◉〔講義〕高宗皇帝は、名を治、母は長孫皇后なり、承乾太子が廢せられしとは、太宗が皆て帝王の模範と爲るべきもの十二篇を作りて賜ふに、身を修め國を治むるとは、是に至りて位に即く、若し一旦死するやうなことあれば、故に之れを興へ、勣を以て左僕射と爲したり、○永徽五年。以二太宗才人武氏一爲レ昭儀一。◉〔解釋〕才人昭儀。皆な女官の名、◉〔講義〕永徽五年に、太宗の才人武氏を以て昭儀の官と爲す、

爲レ后。許敬宗。李義府。贊レ之。褚遂良不レ可。以二問一李勣一。勣曰。此陛下家事。何必更問二外人一。事遂決。◉〔解釋〕事遂決。皇后の王氏を廢して、昭儀の武氏を立てゝ、后と爲さんと欲す、許敬宗、李義府が之れを贊く、猪遂良は可かず、高宗以て李勣に問ふに、勣が曰く、此れは陛下の家内中のこと、故に何ぞ必ずしも外方の人に問はんやと、遂に一決したり、○褚遂良貶。義府參知政事。義府貌若レ溫恭。與レ人嬉怡。而狡險忌克。人謂二笑中有レ刀。柔而害一レ物。謂レ之李猫。◉〔解釋〕貶秩を降されて、潭州の都督となり、即ち李猫笑中に刀あるといふことにて、李氏の猫といふをそしる、

嬉怡にうみせじ、狡險忌克わるがしこくさ、しくしてを好むを、◉〔講義〕へて、遂良が位を貶されて、義府が參知政事たるに必ず微笑して、義府は容貌は、温厚恭順なる若くに見ゆるも、其の實は陰險惡にして、能な忌み勝を好む故に、人が謂ふに、義府は笑ふ中に刀が有りて、中々おそろしき人なりと、而して物を害するを以て名づけて之を李猫と謂ふ、

○武后以二長孫無忌一不レ助レ己。深怨レ之。顯慶四年。創二無忌官一。黔州安置。遂良先一年卒。至レ是無忌與二初議者柳奭。韓瑗。皆被一レ殺。○乾封元年。上封二泰山一。至二亳州一。尊二老君一爲二太上玄元皇帝一。◉〔解釋〕安置遂良を置て去るを得ざらしむるなり、老君老子、姓は李名は聃、字は伯陽、周の時の人、老子を以て祖と爲す、故に太上玄元皇帝と謚す、◉〔講義〕武后は長孫無忌が己れを助けざるを以て深く之れを怨む、顯慶四年に、無忌が官を創りて、無忌を黔州に流す、黔州は今の四川重慶府黔江縣なり、初めの議者柳奭、韓瑗、抔皆殺さるゝに至る、老子を尊びて太上玄元皇帝と爲したり、○以二李勣一爲二遼東大總管一。伐二高麗一。○總章元年。李勣拔二平壤一。降二其王高麗一。悉平二置安東都護府一。○上元元年。帝稱二天皇一。后稱二天后一。○初帝以二賤妾子忠一爲二太子一。武后廢之。立二后之子弘一。弘仁孝。中外屬レ心。忤二后意一。鴆レ之立二其次子哲一。◉〔解釋〕中外屬心朝野のもの心をよせるといふことにて、其の次を立つ、賢と曰ふ、又た事を以て之れを廢して、其の次の哲を立てたり、○上在レ位

改元者十三。曰永徽。顯慶。龍朔。麟德。乾封。總章。咸亨。上元。儀鳳。永隆。開耀。

永淳。弘道。凡三十四年矣。而政在中宮者。三十年矣。自褚遂良等死後。群臣無敢諫者。李善感嘗因事諫。人以爲鳳鳴朝陽。上崩。太子哲即位。是爲中宗皇帝。◉〔解釋〕政在中宮〔中宮は皇后を專ばらにするを謂ふ〕事一諫。人以爲鳳鳴朝陽〔鳳凰鳴矣于彼高岡梧桐生矣于彼朝陽云々とあり、風は靈鳥の名、朝陽は山の東なるいふこゝろにて、まれなるたとへにひく〕

●〔講義〕上が在位の間だに、年號を改めしこと十三回なり、曰く永徽、永隆、開耀、永淳（ジュン、弘道と、凡て三十四年にして、改元より後ち、群臣は敢て諫るものなし、顯慶、龍朔、麟德、乾封、總章、咸亨（カンコウ、上元、儀鳳、永隆、開耀、永淳（ジュン、弘道と、凡て三十四年にして、改元より後ち、群臣は敢て諫るものなし、

中宗皇帝。初名顯。改名哲。既即位。立韋妃爲后。改元曰嗣聖。明年武后廢帝爲廬陵王。而立其弟旦。旦爲皇嗣。而稱帝。是爲則天武氏。◉解釋嗣聖〔明年當に元年に作るべし、新唐書通鑑並に言ふ嗣聖元年二月戊午、武后帝を廢して廬陵王となす、年號を改めて嗣聖と曰ふ、元年に武后は、帝を廢して廬陵王となし、年號を改めて嗣聖と曰ふ、元年の間にて、年號を改むること七回なり、帝は初めて位に即きて、直ぐ妃を立てゝ皇后となし、旦は、帝を廢して皇嗣となし、而して帝となす、

●〔講義〕中宗皇帝は初めて位に即きて、直ぐ妃を立てゝ皇后となし、旦は、帝を廢して皇嗣となし、而して帝となす、

擁虛器者七年。改元曰垂拱。曰永昌。太后廢。

◉解釋垂拱〔垂拱は、天子の名ばかりなもつとの意〕

●〔講義〕垂拱は、天子の名ばかりなもつとの意。

太宗聞其美。召入後宮。以貞觀十一年爲才人。時天下歌曲名媚娘。貞觀末。太白屢晝見。太史占云。女主昌。又傳秘記。唐三世後。女主武王代有天下。太宗惡之。嘗與群臣宴。令各言小名。武衛將軍李君羨。五娘。太宗愕曰。何物女子。乃爾健邪。或奏。君羨謀不軌。遂誅之。密問大史李淳風。對曰。臣仰觀天象。俯察曆數。其人已在陛下宮中。不過三十年。當王天下。殺唐子孫。殆盡。其兆已成矣。太宗崩。才人年二十四矣。爲尼。高宗幸寺。見之。而泣。時王皇后。與蕭淑妃爭寵。密令長髮。勸高宗納之。既入。而后與淑妃皆失寵。武氏年三十二。遂自昭儀爲后。王蕭皆爲所殺。贈父士彠周國公。尋加贈大原王。高宗苦風眩。不能視百司奏事。或使皇后決之。后性明敏。涉獵文史。處事皆稱旨。由是委以政事。權與人主侔。人謂之二聖。在高宗之世。后自殺子弘。廢子賢。高宗既崩。子哲即位。廢爲廬陵王。而立子旦。后臨朝稱制。立武氏七廟。◉〔解釋〕媚娘〔媚娘は武后が世に出づる前表、何等の女子なれば、此の如く健なるや、秘記の文、及び大史の占に、幸寺〔寺は感業寺、太宗の妃嬪つき言ふ、尼となりおるところ〕見之而泣〔高宗太子たるとき、武氏を見て泣き、再び愛情を起さしむ、高宗のれんびんの心に感ずるなり〕令長髮〔髮をみのもなのごとくしむるも、風眩〔風は中風、眩は眼病、渉獵〔獵く學問にわたるも、高宗のごとく、文字の事は、三昭三穆太祖の廟ともに七つ、これ天子の制なり、武后は天子の義〕則天武氏は、故の荊州の都督の武士彠が女なるを聞き、召して宮中に入る、貞觀十四年の時に、太宗が其の美なるを以て才人となす、時に天下の歌の曲を媚娘と名づく、其の名が已に未來記なんと、又た秘密の記を傳ふるに、太白の星が晝三代の間見る、大史の占ひて云に、女主が昌んなり、大原の人にて、年十四の時に、太宗が其の後は、女主の武王が代りて天下を有たんと、太宗は之れを惡も、曾て群臣等と酒宴するさきに、各々封邑に皆な武の字が附てあり、而して小名は五娘と曰ふ、太宗が愕て曰ふ、君羨は反を謀るやと、或る人が奏問す、君羨は反を謀るやと、或る人が奏問す、君羨は反を謀るやと、或る人が奏問す

れを誅殺したり、密かに大臣の李湊、風に在りて、其の人は已に陸下の宮中に在りと誹謗するに、其の人は已に陸下の宮中に在りと誹謗するに、其の人は已に陸下の宮中に在りと誹謗するに

唐爲周者。十有六年。改元者十。曰天授。如意。長壽。延載。曰萬歲通天。曰神功。聖曆。久視。大足。長安。◎（解釋）一杯之土未乾。高宗崩じて日淺く山陵の土未だかわかず。いふ。六尺之孤安在。六尺の孤は論語に安くにあり。これはいふ。武氏の有か。わからぬ。いふ。竟是誰家之天下。到底この天下は、武氏の有ぞや。大殺唐宋室。韓王李元嘉等三十餘人を殺す。匡復李氏之心。匡復は李氏の天下をたすけもどす。侫者。揚雄思、侫は才智ありて口辯なり。蓮花似六郎。花の一に六郎と呼ぶ。而して之を寵す。公主を逼り殺す。嬰武后自ら製する十二字中宗より、内行不正。品行のよからぬ。張氏兄弟を愛幸す。即ち懿德及び告密を許す。天下の密事を上ころ。鍛錬わざと工冶陶鑄し造り人を陷ぬるなり。言は深文の吏人の罪を入る。猶如しと。羅織連累をたくりよせて、多くの人を苦めるなり。權數術數。人に無理難儀をかけられて。憐然ろ貌。人唾汝面怒汝也。下文は。拶制。拶は紲に同じ。かなばさみにて手段をしめつけるごとくするなり。犯而不校。人に無禮をいふ他人の怒るをいふ他人の我れを怒らしむ。營求。さまざまにしらへ求むる。仁傑は常々師德を敬ひ。而して仁傑は退き歎美して曰く。裴公は盛德あり求む。仁傑は卑を容れ。盛德に言ふて曰ふに。太子を爲らんと欲する。乃ち天の高宗は二子を以て陛下に托す。而して。親から鋒先を冒して。以て他の天下を定め。之れを子孫に傳ふ。大帝は二子を無

能く恩に報ずるものは、夏は休息を得す。秋は其刺を得たり。今子の樹るのは、冬は衆草なり。子の樹る者は、夏は休息を得す。秋日其食を得る。以往。人を擇ばんなり。而の語は盡しに此に樹て而して之を栽きて攻。麻姑殿の四周をいふ。◎（講義）英公の李敬業が兵を起して之れを討す。其の檄文に曰く。高宗を葬りて未だ久しからざるに。幼君の哲は誰れの家の天下ぞ。最早や廢せられたではないかと。又た曰く。試みに今日の國内を觀よ。必ず是れを殺すべしと。又た曰く。太后は將を遣はし翠ち之れを討す。其の檄文に何處に在る。

越の王貞が又た兵を舉げ。自分に皇帝と稱し返さんとして。克たすして死す。太后は遂に大に周を號す。且つ以て世嗣と爲す。姪なり。初め曰ひ。昌宗は侈の愚幾を寵愛し。後ち張易之、張昌宗を寵愛日ふ。兄弟が共に入れて之佳士。任べたる人傑。太子。中宗斬關入。扃を打破して。出でて。廬陵王。中宗。武氏を改む。時に政事を用ゆ。易之は五郎と昌宗は六郎と。思ふに。六郎は蓮花に似て美なり。且つ心が服せず。吾が思ふを知り。且つは內分の品行が正しからず。是れは花の人に及ばざる意なり。

しきと無からふぞ、且つ又たおはさまで、一處にの間と、母と子とは、孰れが親しきや、陸下は若し子を立てば、則ち千秋萬歲の後まで、一處にの間と、母と子とは、孰れが親しきや、陸下は若し姪を立てば、則ち未だ聞かず、廟で祭らるゝを得ん、若し姪を立てゝ、則ち未だ聞かず、廟で祭らるゝを得ん、若し姪を立てゝ、則ち未だしも姪が天子と爲りて、姑を廟に祔し、遂に房州（今は湖北郧陽の屬縣）より廬陵王を召して、都に還らしむ、しも姪が天子と爲りて、姑を廟に祔し、遂に房州（今は湖北郧陽の屬縣）より廬陵王を召して、都に還らしむ、

立てゝ皇太子と爲す、子の旦を以て相王と爲す、仁傑は最も信重せらる、而あたり折じき、朝廷歎息す、元行冲は博學にして、多く物事に通じたり、仁傑は之れを重んじ、事あれば、行冲は親だしく諫むるを以て皇太子と爲す、子の旦を以て相王と爲す、仁傑は最も信重せらる、而あたり折じき、朝廷歎息す、元行冲は博學にして、多く物事に通じたり、仁傑は之れを重んじ、事あれば、行冲は親だしく諫むるを以て國老と爲して名を言はず、仁傑が卒して、墨は泣き歎息す、元行冲は博學にして、多く物事に通じたり、仁傑は之れを重んじ、事あれば、行冲は親だしく諫むるを以て國老と爲して名を言はず、仁傑が卒して、墨は泣き歎息す、

多し、曰く、明公の門にして、珍物の美味なるもの、美言善謀の末に入れおけさいふことなし、是れは我が一言をも、美言善謀の末に入れおけさいふことなし、是れは我が一言をも、美言善謀の末に入れおけさいふことなし、是れは我が一言をしも、而して疾に利あり、忠言は耳にさかふ、逆而して疾に利あり、忠言は耳にさかふ、逆而して疾に利あり、忠言は耳にさかふ、逆而して藥物に規諫に喰ふるの意なり、是れ其藥が笑ふて言へるや、吾が藥籠の中の物ゆへに、何ぞ一日も無かるべからんや、と、姚元崇等數十人、皆な仁傑が藥物に規諫に喰ふるの意なり、是れ其藥が笑ふて言へるや、吾が藥籠の中の物ゆへに、何ぞ一日も無かるべからんや、と、姚元崇等數十人、皆な仁傑が

曰く、賢人を薦め舉ぐるときは、國の爲めにし、仁傑が曰く、賢人を薦め舉ぐるときは、國の爲めにし、仁傑が曰く、賢人を薦め舉ぐるときは、國の爲めにし、仁傑が私の爲めにするを以て、仁傑が私の爲めにするを以て、仁傑が私の爲めにするを以て、

○長安之五年。帝復レ位。號二唐。帝即位二月而廢レ居二房州一者十三年。還爲二太子一者又八年。而後反レ正。韋氏復爲二皇后一。上在二房陵一。每レ欲レ自レ殺。后每止レ之。上與二私謁一。異時幸二臨レ朝。后必施二帷幔一坐二殿上一。預聞二朝政一。如二武氏在一高宗之世一。上女安樂公主。適二武三思一。三思雙陸。而上爲レ點籌。上遂與二三思一圖二議政事一。張柬之等皆受レ遠貶殺レ之。安樂公主等依二勢用一レ事。請謁受レ賕。降二墨敕一除レ官。斜封付二中書一。時謂二之斜封官一。凡數千人。人有レ上レ言。皇后淫亂。上面詰レ之。其人抗言。不レ撓。中書令宗楚客。矯レ制撰レ殺レ之。上意怏々。后及其黨始懼。馬秦客。楊均皆幸二於后一。恐レ事泄。安樂公主亦欲レ后臨レ朝。以レ己爲二皇太女一。乃相與謀。於餅餤中進レ毒。上復レ位改元者二。曰神龍。景龍。景龍四年而遇レ弒。立二溫王重茂一。后攝レ政。相王子隆基起レ兵討レ亂。斬二后及安樂公主一。并二其黨一皆誅。之。廢二重茂一。奉二相王一立レ之。是爲二睿宗皇帝一。◉〔解釋〕復見二天日一。

賕。降二墨敕一除レ官。斜封付二中書一。時謂二之斜封官一。凡數千人。人有レ上レ言。皇后淫亂。上面詰レ之。其人抗言。不レ撓。中書令宗楚客。矯レ制撰レ殺レ之。上意怏々。后及其黨始懼。馬秦客。楊均皆幸二於后一。恐レ事泄。安樂公主亦欲レ后臨レ朝。以レ己爲二皇太女一。乃相與謀。於餅餤中進レ毒。上復レ位改元者二。曰神龍。景龍。景龍四年而遇レ弒。立二溫王重茂一。后攝レ政。相王子隆基起レ兵討レ亂。斬二后及安樂公主一。并二其黨一皆誅。之。廢二重茂一。奉二相王一立レ之。是爲二睿宗皇帝一。◉〔解釋〕復見二天日一。

貶。遠國の司馬に左遷するなり、東之を新州の司馬、柬之を白州の司馬、怨已を瓊州の司馬に貶す、

墨敕　安樂公主自ら制敕を撰するなり、墨敕は墨書の敕命にして、正封せず、其の除官の爲めに中書省に從ふ、人風服なり、

矯レ制　天子の命令なるに、

餅餤　うどんに餡を入れて油で揚げた菓子、

抗言不レ撓　答辨して屈せざるなり、

〔講義〕長安の五年目即ち二ケ月にして廢せられ、均州（今は湖北襄陽）に居ること十三年、還りて太子と爲るも又た太子と爲る、上は房陵に在りて自殺せんと欲すること屢々、后每に幸あり、復た天日を見るもあらば、雖だ汝が施欲するに隨ひて、殿上に坐し、朝廷の政事を預り聞くをは、武后が高宗の時代に在るが如し、上の大女安樂公主は、武三思と雙陸するに、上は遂に三思と密通す、后は三思を以て皇太女と稱す、

議、張柬之等、皆な制度を受く、五人は皆な王の爵を賜ふて、政事を罷む、已にして遊方へ貶して、墨にて書した、之れを殺す、安樂公主等は、勢に依り事を用ゐ、色々の事を請ひたのんで賂を受く、墨にて書した、る敕書を降し宮に除す、斜に封じて中書の役所に渡す、故に時に之れを斜封官と謂ふ、凡て數千人なり、人上言するものあり、皇后は淫亂なりと、上は之れを面あたり詰問するに、其の實を以て抵抗して、皇后や及び其の徒黨のものは、始めて懼れ、諂ひ托して言ふ、中書令の宗楚客が、諂を矯めて之れを撲ち殺す、上の意は快々として不滿なり、后は色々の惡事が洩れんことを恐る、安樂公主も亦た皇后が朝に臨みて自分を以て皇太女となさんことを欲す、乃ち相ひ與に相談し、餅餌の中に於て毒を進む、上は位に復して年號を改めさせ二つ、曰く神龍、景龍と、景龍四年にして弑に遇ふて、溫王の重茂を立つ、后は政事を攝す、相王の子の隆基が兵を起し、后及び安樂公主を誅す、重茂を廢し、相王を推して、皇帝を立つ、是れを睿宗皇帝と爲す、

睿宗皇帝。名旦。初高宗崩。中宗廢。武氏立。旦。爲帝者七年矣。而廢爲周。嗣皇帝。立。隆基爲太子。宋璟姚元之爲。是復爲帝。立。隆基爲太子。宋璟姚元之爲。退不肖。賞罰盡公。請托不行。紀綱脩擧。當時翕然。貶祝欽明等。欽明嘗爲八風舞。人曰五經掃地矣。◉〔解釋〕周嗣皇帝、天則武氏のつぎ、賞罰盡公、恩偏なき、刑罰に、請托を行はれず、紀綱脩擧のふる、翕然一致なる貌、翕然は、盛んなる貌、唐書に、欽明は五經に於て、敗衊となす、乃ち常氏に不孝に坐せられ、再び用ゐられんことを圖る、又た是れに坐せられ、逐はれんことを圖る、又た是れに坐づけ云々、八風舞、八方の風に象どる舞なり、欽明が國子祭酒たりしとき、飲宴にこの舞を爲す、所謂八風の名を借りて、踏地ふる耳、五經掃地、五經の學を廢するは非常の行義なきを謂ふなり、此れ欽明が爲す所、所謂物の蠹なきを謂ふなり、蠹註に、蠹は物の蝕ふなり、此れ欽明の學を廢するは非常の行義なきを謂ふなり、◉〔講義〕睿宗皇帝は、名を旦と曰ふ、初めて高宗が崩御したるとき、中宗が廢せられて、武氏が旦を立て、帝と爲す、隆基を立て皇太子と爲す、宋璟と姚元之が政事を執る、二人の人を進めて、不肖なるものを退く、賞罰と倶に公平にして、恩偏なく、刑罰に、請托を行はれず、紀綱脩擧のふる、翕然として盛んなり、思ふに、更に行はれず、法度も脩まり、當時の勢は翕然として盛んなり、思ふに、更に行はれず、法度も脩まり、當時の勢は翕然として盛んなり、思ふに復た貞觀永徽の風あり、祝欽明等の官を降したり、欽明は常て八風の舞を爲る、目を轉じ頭を搖かして、頗る醜態を極む、人の曰ふに、祝公の五經は、地を掃ふて盡きぬ、蓋し中宗が近臣を宴す、祝欽明自ら請て八風の舞をなす、欽明の謂ふ所八風の舞とは、春秋傳の衆仲の謂ふ所の舞の八音を節し八風を行ふ所以なんのものにあらず、只八風の名を借て、而して踏地ふるなり、此れ舞の名の醜なるを以て、之れを譏るなり、蓋註に、蠹は物の蝕ふなり、此れ欽明の學を廢するは非常の行義なきを謂ふなり、◉〔講義〕睿宗皇帝は、名を旦と曰ふ、初めて高宗が崩御したるとき、中宗が廢せられて、武氏が旦を立て、帝と爲す、隆基を立て皇太子と爲す、宋璟と姚元之が政事を執る、二人の人を進めて、不肖なるものを退く、賞罰と倶に公平にして、恩偏なく、刑罰に、請托を行はれず、紀綱脩擧のふる、

し置きたりしが、則天武后は、僧と為し、左右の羽林に隷屬す、中宗は之れを高宗に奉ず、役人を置て之れを領せしむ、隆基は皆な厚く其の其の功に因て封ぜられて平王と為る、容宗が將に器が平王隆基は功あるを以て、力めて之れに讓るを以て、儲太子と為る、容宗が將さに讓るに儲太子を立てんとするに、長子の成ず、

元元年。高力士爲二右監門將軍一。知二內侍省事一。初太宗定レ制。內侍省不レ置二三品將軍一。者寢多。宦官增至二三千人一。內侍之盛始レ此。◉〔解釋〕不レ置二三品官一。黃衣廩食。守レ門傳レ命而已。至是除二三品官一。宦官は三品官と為るを得ず、黃衣の賤者の服、廩食くら米ごり、◉〔講義〕開元年に高力士が右監門の官を置かす、黃色の衣服を著て、廩から給米を受度を定め、內侍省には三品の將軍を爲る、內侍省の知事たり、初め太宗が制け多く、宦官が增して三千人にも至り、是に至り三品將軍には此れよりも、段々取次をするいものみ、

徼令。◉〔解釋〕姚崇即ち元之なり、開元二十七年に、群臣が尊號を上りて、開元聖文神武皇帝と曰ふ、故に元之は、尊號を避けて崇と改名す、◉〔講義〕姚崇が紫微省の令さなれり、崇既に相と微しく窓む、上問ふ、足疾既す、他日崇便殿に對す、行くなる、張說慣れ、乃ち潛かに曉王の名は範に諱り、款を申らざるなり、上其の故を問ふ、對て曰ふ、岐王は陛下の愛弟にして、張說は輔臣たり而して密かに車に乘じて王の家に入る、恐らくは諛る所とならん、故に之を疎ふ、遂に張說を左遷して相州の刺史と

なす。○一年。以二太常不一レ應二併典一俗樂。置二左右敎坊一。謂二之皇帝梨園弟子一。◉〔解釋〕俗樂。舞妓俳優の音律に精しく、梨園。禁苑の內に在り、初め隋に法曲あり、其の聲清にして而して雅に近し、明皇之を愛す、宮部の伎子弟三百を選んで梨園に教ゆ、皇帝梨園の弟子と號す、◉〔講義〕三年に、太常の官いふ役人を置く、之れを皇帝梨園の弟子と謂ふたり、○焚二珠玉錦綉於殿前一。◉〔講義〕風俗の侈靡なるを以て、乘輿御服を制す、金銀器玩は、有司をして毀め以て軍國の珠玉を采り、錦綉を織る等の物を得るなと、今より天下更に用ふるなからしむ、兩京織錦綉の物を罷む、○作二興慶宮一。置レ樓。西曰二花蕚相輝一。南曰二勤政務本一。宋王成器等宅環二其側一。◉〔解釋〕花蕚相輝。宰相は花を承る踏にて、はなぶさなり、小雅の詩に棠棣之華と韓不華々と、蓋し兄弟を蔽飲するの意に取りて、以て樓に名づけたるなり、勤政務本。孝弟は政をするの本の意に取りて以て樓に名づけたるなり、宋王成器等成器は睿宗の嫡長子にして、玄宗の兄、自ら其の功の玄宗に及ばざるを知り、太子の位を讓れり、五王の兄弟、邸舍を並べ住む、故に等しいふなり、○三年。盧懷慎爲二黃門監一。懷慎淸謹儉素。妻子不レ免二饑寒一。所レ居不レ蔽二風雨一。姚崇嘗謁レ告十餘日。政事委積。懷慎不レ能レ決。崇出須臾裁決盡。顧謂二齊澣一曰。我爲レ相如何。澣曰。可レ謂二救時之相一。懷慎知二才不一及。每レ事推レ崇。時謂二之伴食宰相一。◉〔解釋〕淸謹儉素。儉約質素を守る、伴食宰相。宰相に任すれども、主任の力なし、が如くして、當時宰相の職を伴食宰相と謂ふ、一說に、當時宰相伴人の如しといふと、堂に會食す、故に惟だ堂上に伴食するのみ、其の餘は宰相の職なしとそ、◉〔講義〕三年に、盧懷慎が黃門監と為る、懷慎は淸儉自謹愼にして、儉約質素なを守る、妻子は饑へたり、寒へたりするを免かれず、居る所は風や雨を蔽はず、姚崇が出でゝ、暫時の間に裁判し決し盡すこと能はず、姚崇が曾て休暇すること十日餘りが何如であらふと、澣が曰く、時世を救ふの宰相と知りて、事毎に崇に推し讓る、時に崇に及ばざるを知りて、事毎に崇に推し讓る、時に相伴の宰相と謂ひそ、○四年。姚崇罷。宋璟爲二黃門監一。璟爲二相務擇レ人。百官各得二其職一。好二門監一。璟爲二相務擇レ人。百官各得二其職一。好犯レ顏正諫。上甚敬憚之。璟與姚崇。相繼爲二政。崇善應レ變。璟善守レ文。志操不同。然恊レ心輔佐。使二賦役寬平。刑罰淸省一。百姓富庶。唐世賢相。前稱二房杜一。後稱二姚宋一。佗莫レ得レ比。二人每レ進レ見。上輒爲レ之起。去則臨レ軒送レ之。◉〔解釋〕犯レ顏。顏は容なり、面色を犯して正しく諫むるなり、◉〔講義〕犯レ顏正諫。上甚敬憚之。璟與姚崇。相繼爲二政。崇善應レ變。璟善守レ文。志操不同。然恊レ心輔佐。使二賦役寬平。刑罰淸省一。百姓富庶。唐世賢相。前稱二房杜一。後稱二姚宋一。佗莫レ得レ比。二人每レ進レ見。上輒爲レ之起。去則臨レ軒送レ之。◉〔解釋〕犯レ顏。顏は容なり、面色を犯して正しく諫むるなり、◉〔講義〕犯レ顏正諫。上甚敬憚之。璟與姚崇。相繼爲二政。崇善應レ變。璟善守レ文。志操不同。然恊レ心輔佐。使二賦役寬平。刑罰淸省一。百姓富庶。唐世賢相。前稱二房杜一。後稱二姚宋一。佗莫レ得レ比。二人每レ進レ見。上輒爲レ之起。去則臨レ軒送レ之。◉〔解釋〕犯レ顏。顏は容なり、面色を犯して正しく諫むるなり、◉〔講義〕犯レ顏正諫。上甚敬憚之。璟與姚崇。相繼爲二政。崇善應レ變。璟善守レ文。志操不同。然恊レ心輔佐。使二賦役寬平。刑罰淸省一。百姓富庶。唐世賢相。前稱二房杜一。後稱二姚宋一。佗莫レ得レ比。二人每レ進レ見。上輒爲レ之起。去則臨レ軒送レ之。◉〔解釋〕犯レ顏。顏は容なり、面色を犯して正しく諫むるなり、◉〔講義〕

ひ細きて政事を心を勉はせて上を輔け佐く賦稅や術役をして寛大に公平ならしめ刑罰も清く省きて百姓が富み榮へたり唐の世の賢相は前には房玄齡杜如晦を稱し後には姚崇宋璟を稱す、他の人々は比較するを得るなし、二人が上に進み見ゆる毎に上は輒ち之れが爲めに起つんで禮す去る時は軒まで臨んで之れを見送りたり、

○八年。宋璟罷。○九年。宇文融言。天下戶口逃移。巧僞甚衆。請加檢括。同平章事源乾曜贊成之。以融爲勸農使。奏置勸農判官十人。分行天下。競爲刻急。州縣承風。勞擾百姓苦之。◉〔解釋〕戶口逃移戶稅夫役をまぬがれんと宅をかくす、檢括戶口をしらべ出すなり、承風風を承けて、刻急のきびしくいたむる、

◉〔講義〕八年に宋璟が官を罷めたり、九年に宇文融が逃れ移り巧に僞ると甚だ多し、使と爲したり、融は奏聞して勸農判官といふ役員十人を置き、天下に分ち行かしめ、爭ひて我勤し、其れの勢を承けて極めて煩苛に急迫をなす、故に州縣の人々は、なす苦みたり、

○同三品張說。建議召募壯士。更番上下。兵農之分始此。◉〔解釋〕上下は上京下國なり、更番宿衛に出づるとかへると、非番の間に歸農す、番を更て上下す、兵と農との分別すると、此の時より始まりたり、

◉〔講義〕同三品の張說が、評議を建て、勇氣壯なる壯士を召し募る、十三萬人を得て、分ちて諸方の衛士に附屬す、番を更て上下す、兵と農との分別すると、此の時より始まりたり、

○十三年。更命長從宿衛爲彍騎。○二十一年。韓休同平章事。休爲人峭直。上或宴遊小過。輒謂左右曰。韓休知否。言終諫疏已至。左右曰。休爲相陛下殊瘦於舊。上歎曰。吾雖肥瘠。天下肥矣。休罷。張九齡繼之。◉〔解釋〕彍騎は射なり、騎は射隊なり、峭直はげしくしてますぐなるを、

◉〔講義〕十三年に長從宿衛を改め名づけて彍騎となし、上は正直なり、或は酒宴し遊んで少しく過失あれば、輒ち左右のものに謂ふて曰く、韓休が此の事を知るやいなや、其の言が終る間もなく、韓休が諫めの書付が已に至る、左右のもの曰く、以前より甚だ歎息して曰ふに、吾れは將休が宰相と爲りてより、陛下は別段に以前より甚だ歎息して曰ふに、吾れは將せたりと雖ども、天下中が肥かたりと、休が罷めて、張九齡が之れに繼きて宰相となれり、

○二十一年。九齡爲中書令。李林甫同三品。林甫柔佞多狡數。深結宦官及妃嬪家。伺上動靜。無不知之。由是每奏對常稱旨。◉〔解釋〕柔佞は人のやわらかにけんを伺ふを、狡數はかしこきてだてをいふ、

◉〔講義〕二十一年に、張九齡が中書の令と爲り李林甫が同三品の官となりたり、林甫は柔佞に依辯多く、狡數に權數あり、深く宦官及び宮女の家に交際を結び、上の樣子を伺ひ、之れを知らざるは無し、是れに由りて天子に奏聞して對ふる毎に、當に上の旨に稱ひたり、

○二十四年。幽州節度使張守珪。執敢軍將安祿山送京師。張九齡批曰。守珪軍令若行。祿山不宜免死。上惜其才勇。赦之。九齡力爭曰。祿山有反相。不誅必爲後患。上曰。卿勿以王夷甫識石勒。枉害忠良。竟不誅。祿山本營州雜胡也。初名阿犖山。母再適安氏。故冒其姓。部落破散。逃來捉馬。奏事上賜名思明。◉〔解釋〕批附け紙するを、奏文に見こみの王衍見て之れを執らへしむ、勒去りて免れたりを、

◉〔講義〕二十四年に、幽州の節度使の張守珪が敗軍の將安祿山を執らへて京師に送る、張九齡が其の罪を批して曰く、守珪の軍令が若し行はれたなれば、祿山は必らず死罪を免るるも、祿山は謀反すべし、祿山は力め爭ふて曰く、祿山は謀反すべし、祿山は力め爭ふて曰く、祿山は謀反すべし、祿山は力め爭ふて曰く

く、故に其の姓を冒して、安と曰ふ、組下の衆が、破れ散じて逃れ來るが、しこくして守埒が爲めに愛せらる、又た史牟子ソソウさいふものあり、祿山と里を同じくす、亦た曉勇なり、守埒が入りて事を奏聞せしむるに、之は名を思明と賜ふたり、

○千秋節。群臣皆獻寶鏡。九齡述前世興廢。爲千秋金鑑錄五卷上之。○九齡罷。森林甫兼中書令。上在位久。漸肆奢欲。林甫遂得專政。○二十六年。立忠王爲太子。◉〔講義〕千秋の節に、群臣が皆な寶物の鏡を好尙す故に群臣各々自ら其の寶とする鏡を獻上す、寶鏡を獻するものは蓋し唐の時の俗、こさがらを逃べて千秋の金鑑錄五卷を爲りて之れを上りたり」九齡が官を罷め李林甫が中書令に在るとき、日久しく段々害の欲を生じ、上は位に在るも、事を專ばらにするを得たり、二十六年に忠王を立てゝ、太子と爲す、

○二十九年。以安祿山爲營州都督。祿山傾巧事人。上左右至乎盧。皆厚賂。歸譽之。◉〔解釋〕傾巧　心を傾けて巧みにへつらふ、◉〔講義〕二十九年に安祿山を以て營州の都督と爲す、祿山は心を傾けて巧にへつらひ、善く人に事ふ、上の左右の者に至れば皆な厚く賂ふ、故に歸りて祿山を譽む、上は益々以て賢人となす、

○天寶元年。以祿山爲平盧節度使。○二年。祿山入朝。○三年改年曰載。○以祿山兼范陽節度使。○四載。以楊大直爲貴妃故。蜀州司戶玄琰女也。爲上子壽王妃十年矣。上見其美。令自以其意乞爲女官。且爲壽王別娶。而後納之。遂專寵。◉〔解釋〕女官　女道士となると、大眞の名、蓋し其の時の道號、別娶　章昭訓の女を娶らす、◉〔講義〕天寶元年に、祿山を以て平盧（今の節度使と爲したり、）二年に祿山が入朝したり、三年に、年を改めて載と爲すといふことなり、祿山を以て范陽（亦た今の順天府）の節度使を兼ねしめたり、四載に、楊太眞といへる美人を以て、貴妃の官と爲す、妃は故の蜀州（今の成都府）の司戶玄琰が女なり、上の子の壽王の妃たるとき、十年なり、上は其の美なるを見て、自から貴妃の意を以て乞ひ女官と爲らしめ、壽王の爲めには別に女を娶り、而して後に之を納る途に窘愛を專らにしたり、

○六載。以祿山兼御史大夫。祿山請爲楊貴妃兒。九載。賜祿山爵東平郡王。兼河北道採訪處置使。祿山入朝。楊釗兄弟姊妹。皆往戲水迎之。釗貴妃之從祖兄也。得出入禁中。先是判度支屢奏。帑藏充牣。上帥群臣觀之。由是。視金帛如糞土。賞賜無限。賜釗名國忠。◉〔解釋〕帑藏　金帛の藏に、◉〔講義〕六載に祿山を以て、御史大夫の役を兼れしむ、祿山は上に請ふて貴妃の子と爲る、九載に、祿山に爵を東平郡王と賜ふ、河北道の採訪處置使を兼れしむ、祿山が入朝するに楊釗兄弟や、姊妹等皆な戲水に往きて之れを迎ふ、釗は貴妃の從祖兄（マタイトコ）なり、宮禁の中に出入するを得たり、是れより先きに、判度支が度々發上するを以て、是れを觀る、是れに由りて金帛を視ること糞土の如くに、金帛が藏に充ち牣つと、上は群臣を帥ゐて賜ふも限りなし、釗に名を國忠と賜ふ、

○十載。爲安祿山起第。窮極華麗。上嘗指其腹曰。此胡腹中何所有。對曰。有赤心耳。祿山入禁中。先拜貴妃。上問其故。曰。胡人先母而後父。祿山生日。賜予甚厚。後三日召入。貴妃以錦綉爲祿兒大襁褓。使宮人以綵輿舁之。上聞歡笑。問故。左右以貴妃洗祿兒。對。上賜妃浴兒金銀錢。盡歡而罷。自是出入宮掖。通宵不出。頗有醜聲聞于外。上亦不疑。又以祿山兼河東節度使。李林甫與祿山語。每揣知其情。先言之。祿山驚服。每見盛冬必汗。謂林甫爲十郎。既歸范陽。其下自長安歸。必問十郎何言。得美言則喜。或但云語安大夫。須好點檢。即曰。噫。我死矣。◉〔解釋〕赤心耳　赤心はまごいろなりこれは誠心なりこれは誠心の外他に一物もなきさいふなり、綵輿　五色の席にて兜子（カゴ）の如くなるを綵輿（いみたる）と揣知

のかりを知ると、須臾に好點撿つけよと、云ふ。萬事にさとく氣を暗に知るをは、心聰なるをいふ。

噫、嘻我死矣。噫嘻は心聰なるをいふ。我死矣とは林甫に謝ぜられ終り、卑しくは死せんならんと思ふをいふ。

〇〔講義〕十載に祿山が爲めに屋敷を起す、立派に華やかなるを窺ひ、楊氏をして之れと遊ばしむ、祿山の身體は肥へて大きな腹を指して曰ふに、此の胡の人故にこの胡の腹中には何が有つて斯くの如く大きいのかと、問へば、祿山は曾て其の大乃ち膝をすゝみ、上は管てたはむれて曰ふに、此の胡の腹中には赤心のみと、祿山は禁中に入れば、上貴妃を先きにして父母を後にす、坐すれば先づ貴妃に謁して後に上に謁す、日日に召し入れられ以て之れを貴妃に歸したり、上は其の物故を問ふに、對へて三日以て後宮の欲つぎ笑ふを造り、祿山を聞きて、何事ぞと問ふに、左右の對へて三妃は祿兒を洗ふと云ふを以て賜ひ復た厚く祿山に賜ひ返答し自ら往て飜之れを觀て喜び妃に出入し、夜もすがら出でず、十載に祿山が天子への召を聞きて即ち至る、上は是れに由りて國忠の言を信ぜず、祿山が胡人の將を以て漢の將と代へんと請ふに、上は猶ほ疑はず、上表して請ふ三千匹を獻ず、一匹毎に二人がくつわを執り、二十二の祿勝部が河南まで送り來る、上は始めて之れを疑ひたり、使者を遣はし其の獻上物を止めしむ祿

〇十一載李林甫上左右迎合上意、以固寵。杜絶言路、掩蔽聰明。嘗語諸御史曰、不見立仗馬乎。一鳴輒斥去。妬賢嫉能、排抑勝己、性陰險。人以爲口有蜜腹有劍。每夜獨坐偃月堂、有所深思。明日必有誅殺屢起。大獄自太子以下皆畏之。在相位十九年。養成天下之亂。而上不悟。然祿山畏林甫術敷。故終其世未敢反。是歲國忠爲相。言祿山必反。且曰、試召必不來。〇解釋杜絶言路、他の規諫をふさぎ止めんとて、掩蔽聰明、聰は耳なり、明は目なり、玄宗の耳目をおひかくしてなり、立仗馬、仗は儀仗なり、唐の制、毎日尚乘官飛龍馬八匹を出だして定右に立仗せしむ是れを南衙立仗馬と號づけたり、一鳴輒斥去、諫官御史に口を箝ぐみ上を諫めさらんとて斥け、他馬を以て代りとす、陰險、心中に恐るべき事ありて正殿の側、宮門外に列せしめたり、

〇〔講義〕十一年に、李林甫が卒したり、林甫は上の左右のものに媚びかくす、上の意を迎へ合し諫めの路を杜ぎ絶ち、上の聰明なるをおほひかくす、皆で諂ふに、今明主上にあり、群臣守順に之れ子の如くす、嘗て天君天子の行列に立つ馬を見ずや、終日驚なければ、三品の官も得んやと、そこで踏ろぞ、踏ろる後ち斥けられんことを欲すと、いへども、鳴かさゞるなり、盞し唐の盛時に毎日飛龍廐の馬は四百匹あり、一匹を以て分てる左右さなすの宮門の外に列立せしむ、性陰險、人を姊む、自分よりも勝るものを嫉む、自分よりすぐれたるものを嫉む、自分よりすぐれたるものを嫉む、自分よりすぐれたる

山は床に踞して拜禮せずして曰ふに、馬は獻上せざるも可なり、十月には、いづれ京師に詣るべし、是の冬に祿山は途に反す、部下の兵士、及び奚（ケイ）・契丹（キツタン）（東胡の別種）の兵を發す凡て十五萬なり、滹沱（コダ）を發し引いて南す、步兵騎兵が精しく銳く烟や塵が千里ほど續きたり、時に太平久しく續き、百姓が兵革のことは少しも識らず、州縣は皆な勢を望んで、式の如く降（クダ）れたり、遂に進んで東京を陷ぬれたり、

○平原太守顏眞卿起兵討賊。上始聞河北從賊。歎曰。二十四郡。曾無一人義士邪。及眞卿奏至。大喜曰。朕不識眞卿何狀。乃能如此。◉（解釋）二十四郡（河北道に屬せる郡數、）◉（講義）平原（濟南府の縣）の太守、顏眞卿が兵を起して賊を討す、上は始め河北が賊に從ふと聞きて、歎息して曰ふに、二十四郡の內に曾て一人の義士なく、皆な賊に降りしやと、眞卿の奏文が至るに及び、大に喜んで曰ふに、朕に眞卿が何如なる人なるを識らす、乃ち能く此の如く勤王すると、

○常山太守顏杲卿起兵討賊。河北諸郡皆應之。○十五載。安祿山僭號稱大燕皇帝。○賊將史思明。陷常山。執顏杲卿。送洛陽。祿山數其反己。杲卿曰。我爲國討賊。恨不斬汝。何謂反也。臊羯狗。何不速殺。罵不絕口。◉（解釋）數（肉をそぎ骨に至るなり、）其反己（そむくなり故に己なれに反するなり、）臊羯狗（臊は腥なり、羯は胡國の羊、狗は犬、畜生奴と罵るなり、）◉（講義）常山（今の順德府）の太守顏杲卿が、兵を起して賊を討す、河北の諸郡が皆な之れに應じたり、十五載に安祿山が號を僭して大燕皇帝と稱す、賊の將史思明が、常山を陷ぬれ、顏杲卿を執らへて洛陽に送る、祿山は其の己れに反するを恨む、何ぞ速かに我れに降れを殺さゞるやと、杲卿が曰ふに、我れは國の爲めに賊を討す、惟だ汝を斬らざるを恨むのみ、何ぞ速かに我れに降れを殺さゞるやと、祿山は大に怒り、縛りて之れを磔にし、其の肉をそぎ骨に至るまで、罵り詈りて口を絕たず、尚は當さに似たるを以てなり、卒に其の吭を斷つなり、丘濬が曰ふ、凌遲は先つ其支體を斬り、次に其心を作るべし、又案するに宋朝に凌遲は死に處するあり、馬端臨が曰ふ、凌遲は即ち前代の刑なり、前代法外に於て之を用ゆるもの始まるとも、元よりの有にあらず、然れども、刑に著さず、云ふ、

○眞源令張巡。帥吏民。哭於玄元皇帝廟。起兵於雍丘。討賊。◉（解釋）玄元皇帝（老子、）◉（講義）眞源（今の鹿邑縣）の令張巡が、吏民を帥ゐて、玄元皇帝の廟に哭泣し、兵を雍丘（今も河南開封府に屬す）に起して賊を討す、（朔方（陝西北境地）の節度使李光弼が、賊の將史思明と戰爭して大に之れを破る、第一番に河北の數郡を取り返す、副元帥の哥舒翰（カジヨカン）が、賊を仁を執らへて城に降服す、賊は途に關に入る、上は出でゝ之れを慰撫せんことを請ふ、上は太子に命じて、之れを得ざらしむ、皇孫儼（ジユク）を使して、汝は之れを勉めよ、且つ宣旨を欲すれば、太子は平涼に至るも可なり、十月には、いづれ京師に詣るべし、是の冬に祿山は途に反す、部下の兵士、及び奚（ケイ）・契丹（キツタン）（東胡の別種）の兵を發す凡て十五萬なり、滹沱（コダ）を發し引いて南す、步兵騎兵が精しく銳く烟や塵が千里ほど續きたり、時に太平久しく續き、百姓が兵革のことは少しも識らず、州縣は皆な勢を望んで、式の如く降（クダ）れたり、遂に進んで東京を陷ぬれたり、

○平原太守顏眞卿起兵討賊。上始聞河北從賊。歎曰。二十四郡。曾無一人義士邪。及眞卿奏至。大喜曰。朕不識眞卿何狀。乃能如此。◉（解釋）二十四郡（河北道に屬せる郡數、）◉（講義）平原（濟南府の縣）の太守、顏眞卿が兵を起して賊を討す、上は始め河北が賊に從ふと聞きて、歎息して曰ふに、二十四郡の內に曾て一人の義士なく、皆な賊に降りしやと、眞卿の奏文が至るに及び、大に喜んで曰ふに、朕に眞卿が何如なる人なるを識らす、乃ち能く此の如く勤王すると、

○常山太守顏杲卿起兵討賊。河北諸郡皆應之。○十五載。安祿山僭號稱大燕皇帝。○賊將史思明。陷常山。執顏杲卿。送洛陽。祿山數其反己。杲卿曰。我爲國討賊。恨不斬汝。何謂反也。臊羯狗。何不速殺。罵不絕口。◉（解釋）數（肉をそぎ骨に至るなり、）其反己（そむくなり故に己なれに反するなり、）臊羯狗（臊は腥なり、羯は胡國の羊、狗は犬、畜生奴と罵るなり、）◉（講義）常山（今の順德府）の太守顏杲卿が、兵を起して賊を討す、河北の諸郡が皆な之れに應じたり、十五載に安祿山が號を僭して大燕皇帝と稱す、賊の將史思明が、常山を陷ぬれ、顏杲卿を執らへて洛陽に送る、祿山は其の己れに反するを恨む、何ぞ速かに我れに降れを殺さゞるやと、杲卿が曰ふに、我れは國の爲めに賊を討す、惟だ汝を斬らざるを恨むのみ、何ぞ速かに我れに降れを殺さゞるやと、祿山は大に怒り、縛りて之れを磔にし、其の肉をそぎ骨に至るまで、罵り詈りて口を絕たず、尚は當さに似たるを以てなり、卒に其の吭を斷つなり、丘濬が曰ふ、凌遲は先つ其支體を斬り、次に其心を作るべし、又案するに宋朝に凌遲は死に處するあり、馬端臨が曰ふ、凌遲は即ち前代の刑なり、前代法外に於て之を用ゆるもの始まるとも、元よりの有にあらず、然れども、刑に著さず、云ふ、

○眞源令張巡。帥吏民。哭於玄元皇帝廟。起兵於雍丘。討賊。◉（解釋）玄元皇帝（老子、）◉（講義）眞源（今の鹿邑縣）の令張巡が、吏民を帥ゐて、玄元皇帝の廟に哭泣し、兵を雍丘（今も河南開封府に屬す）に起して賊を討す、（朔方（陝西北境地）の節度使李光弼が、賊の將史思明と戰爭して大に之れを破る、第一番に河北の數郡を取り返す、副元帥の哥舒翰（カジヨカン）が、賊を仁を執らへて城に降服す、賊は途に關に入る、上は出でゝ之れを慰撫せんことを請ふ、上は太子に命じて、之れを得ざらしむ、皇孫儼（ジユク）を使して、汝は之れを勉めよ、且つ宣旨を欲すれば、太子は平涼に至るも可なり、

○朔方節度使郭子儀。河北節度使李光弼。與賊將史思明戰。大破之。首復河北數郡。副元帥哥舒翰。與賊戰。大敗。麾下執翰降賊。賊遂入關。上出奔。次于馬嵬。將士飢疲。皆憤怒。殺楊國忠等。及逼上縊殺貴妃。然後發。父老遮道請留。上命太子慰撫之。父老擁太子馬。不得復行。使皇孫儼白上。上曰。天也。使喻太子。太子至平涼。朔方留後杜鴻漸。迎入靈武。請遵必得其力。且宣旨欲傳位。太子乃許。辭上爲上皇天帝。上在位四十五年。改元者三。曰先天。開元。天寶。太子立。是爲肅宗皇帝。◉（解釋）入關（潼關を破り都城に向ふ）馬嵬之命（傳位の宣命、）◉（講義）馬嵬（今の興平縣）の驛（今の西安府）に上に逼りて貴妃を縊殺したり、並びに上に逼りて貴妃を縊殺したり、並びに上に逼りて貴妃を縊殺したり、並びに

肅宗皇帝。初名璵。改名亨。自忠王爲太子。二十年而遇祿山之亂。至是即位。京兆李泌。自幼以才敏聞。上在東宮嘗與泌爲布衣交。遣使召之。謁見於靈武。事無大小與之謀。上皇至成都。遣册寶如靈武。○遣使徵兵於回紇。○招討節度使房琯與賊戰于陳濤邪。琯用車戰大敗。◉〔解釋〕册寶（册は諡號の冊書、寶は璽章、◉〔講義〕肅宗皇帝は、初の名は璵（ヨ）と曰ひしが、享（コウ）と改名す。忠王より太子と立て、祿山の亂に遇ふ、玄に至りて位に即く。京兆の李泌と交なす。使者を遣はし之れを召ばしめ、靈武に詣れり、册寶を遣はして、靈武に如かしむ（使者を遣はして兵を回紇に徵したり）に賊爭ふ。琯は車戰を用ひて大に敗北したり、使の房琯になるもの賊と陳濤邪（西安府咸陽縣にあり）に賊爭ふ。琯は車戰を用ひて大に敗北したり、○至德二載。安慶緒殺祿山。祿山自起兵。以來目昏至是不復見物。又病疽躁暴。欲以嬖妾子代慶緒爲嗣。慶緒使人弒之。而自立。祿山僭號。僅一年餘。◉〔解釋〕躁暴（病にくるしみ、氣色あらだつなり、嬖妾（嬖は愛恩、妾は女の卑稱）◉〔講義〕祿山は兵を起してより以來目が昏らみ、是に至りて復た物を見ることが出來ぬやうになりたり、又た疽といふ腫物を病んで、心が躁暴となり、氣に入りの妾の子を以て、慶緒に代へて世嗣と爲さんと欲す、慶緒は人をして之れを弒して、而して自分に立つ。祿山が號を僭稱して居ること一年餘なり、○上至鳳翔。回紇聞之。發兵四千人至。天下兵馬都元帥廣平王俶。副元帥郭子儀。將朔方等軍。及回紇西域之衆。發鳳翔至長安。擊賊。大潰。大軍入西京。俶留鎭撫三日。引軍東出至洛陽。與回紇夾擊。賊大敗。遂復東京。安慶緒走保鄴。◉〔講義〕上は鳳翔（今は陝西に屬す）に至る、回紇は子の葉護を遣はして兵四千人に將として至る、天下の兵馬都元帥の廣平王俶と副元帥の郭子儀と、朔方等の軍、及び回紇西域の衆を率ゐて、鳳翔を發して長安に至り賊を擊つ、賊は大に潰ゆ、大軍が西京に入る、俶は留りて鎭撫すること三日にして、軍を引き連れ東に出でゝ洛陽（今の河南彰德府に至る、回紇と夾み擊つ、賊は鄴（グヘ）を取り返す、安慶緒が走りて鄴を保ちたり、○賊將尹子奇陷睢陽。張巡許遠死之。巡先守雍丘。移軍寧陵。屢破賊。既而入睢陽。與遠共守。屢却賊。食盡。或欲棄城巡遠謀曰。睢陽江淮之保障。若棄之。賊必長驅。是無江淮也。不如堅守以待救。食茶紙。盡。遂食馬。馬盡。羅雀掘鼠。雀鼠又盡。巡殺愛妾以食。士四萬人僅餘四百。終無叛者。賊登城。將士困病不能戰。巡西向再拜曰。臣力竭矣。生既無以報陛下。死當爲厲鬼以殺賊。城遂陷。巡遠被執。南霽雲雷萬春等三十六人。皆被殺。◉〔解釋〕茶紙（食盡きて、茶紙を食ふ、羅雀（雀を網で取り、雀を食ふ、羅は雀あみにて、堀鼠（地をほりて鼠を取りしに、鼠も又た盡く、巡は鼠に入りの妾を殺して士卒に食はしむ、四萬人の内僅かに四百人を餘す、巡は西の方に向ひ、再拜して曰ふに、臣が力盡きたり、生きて既に以て陛下に報ゆる能はず、死しては當さに厲鬼となり、以て賊を殺すべし、と城は遂に陷ぬ、巡遠の二將が之れに死す、巡は先きに雍丘の土地を守り、軍睢陽に入るや遠と共に守りて度々賊を却く、食物が盡きた後は、江淮の地は、江淮の保障となるべき所なり、若し之れを棄てば、賊は必ら城を棄てゝ長驅せんと欲す、巡遠の曰く、睢陽の地は、江淮の保障なり、如かず堅く守りて以て賊を疲らし、或人が城を出でゝ賊を擊つて、賊を破らんと、是れ江淮の地も同樣となりて、江淮の保障なきも同樣

京に還る。乾元元年に、郭子儀等九人の節度使に命じ、安慶緒を討伐せしむ。二年に、史思明が兵を引て慶緒を救ふ。九節度使の兵が鄴に於て敗れ潰ゆ。思明は慶緒を殺し、范陽に還り、仍ほ僭號して大燕皇帝と稱す。

○李光弼代郭子儀。爲朔方節度使兵馬元帥。光弼號令嚴整。始至。號令一施。士卒壁壘。旗幟精明。皆變。與史思明戰屢敗之。◉〔解釋〕旗幟精明の大ばた小ばた立派なるを、皆變りて、正々堂々となりしといふ。◉〔講義〕李光弼が郭子儀に代はりて朔方の節度使兵馬元帥となるや、號令が嚴重に整ふ、始めに朔方に至る時に、一度號令を施せば、史思明と戰爭して、度々之れを破りたり。○士卒や壁壘や、旗幟の色までも皆な變ずる位なり。

上元元年。太僕卿李輔國。遷上皇於西內。上皇常於樓下賜以酒食。又嘗召將軍郭英人等。上樓賜宴。輔國言。上皇居興慶。日與外人交通。陳玄禮高力士謀不利於上。敷啓上遷之。不許。乘上不豫。率衆劫遷。上皇日以不懌。因不茹葷。辟穀。寢以成疾。◉〔解釋〕西內を西內と唐大明宮なし、興慶宮を南內と唐なす、瞻拜樓上より瞻拜し、聖壽萬々歳をいひこゝろよく、興慶宮を愛し、蜀より歸りて即ち之れに居る、多く樓上に御す、故に老人たちが通行するものを見あげて拜跪し、聖壽萬々歳と呼ぶ、上皇は常に樓の下に於て、賜ふに酒や食物を以てするもの、又た皆な將軍の郭英乂等を召して、樓に上らせ酒宴を賜ふ、輔國が言ふに、上皇は興慶宮に居り、日々外の人と交り通じ、陳玄禮や高力士が、上に不利益なるを謀ると度々上皇に啓して之れを遷さんとす、許されず、上の病氣に乘じて輒ち國命を矯めて、射士五百騎を將いて刃を執て上皇を迎へ、西內に如くと迫るに、上皇は遷と同じ、辟穀は穀食をたつなり。◉〔講義〕上元元年に、太僕卿の李輔國が命を矯めて、射士五百騎を將ゐ刃を執て上皇を迎へ、西內に如くと迫るに、上皇は遷と同じ、辟穀は穀食をたつなり。

○二年。史朝義殺史思明。思明愛少子。而惡朝義。因其敗軍。欲斬之。朝義使人射殺思明。而自立。◉〔解釋〕朝義が思明の子、少子の清朝使人（諢、悦、ラクエツ）◉〔講義〕二年に、史朝義が史思明を殺したり、思明は少子を愛して朝義を惡む、其の敗軍せし罪に因りて之れを斬らんと欲す、朝義が人をして思明を射殺さしむ、而して自分に立ちたり。○李光弼爲太尉。統八道行營。鎭臨淮。○寶應元年。郭子儀知諸道節度行營。兼興平定國等軍副元帥。復入朔方。○上皇崩於西內。傳位復七年也。壽七十八。◉〔解釋〕八道行營（即ち前の九節度なり、而して朔方の節度を兼ぬ、故に八道の行營といふ、◉〔講義〕李光弼は子儀に代りて、朔方の節度なり、而して朔方の節度を兼ぬ、故に八道の行營といふ、）八道の營所を統轄して、臨淮（今まの鳳陽府下の泗州）を鎭臨せり、寶應元年に、郭子儀が諸道の節度行營の知事たり、興平定國等の軍の副元帥を兼ぬ、復た朔方に入りたり。上皇は四內に如くこと七年目なり、壽が七十八、◉〔講義〕上皇が病氣づきたり、上皇の崩御せしことを聞きたり、病氣が甚しくなりたり。○上寢疾。聞上皇登遐。轉劇。遂崩。在位七年。改元者四。曰至德。乾元。上元。寶應。初張皇后與李輔國相表裡。專權用事。晚更震驚上體。不可。輔國聞其謀。上崩。殺后。而後引太子立之。是爲代宗皇帝。◉〔解釋〕登遐（天子の崩ずるをいふ、）典禁兵（宿衛の諸軍を統領す、）◉〔講義〕上が病氣づきたり、上皇の崩御せしことを聞きたり、病氣が甚しくなりたり。○〈病氣づきたり、上皇の崩御せしこと七年にして、年號を改めしこと四つ、曰く至德、乾元、上元、寶應と、初めは張皇后が李輔國と表裡をなり裡をなり、權威を專ばらにして、事を用ゆ、晚年に中あしくなりたり、上病氣なさんと謀る、后は太子を召して謂ふて曰はく、輔國は久しく禁中の兵を典ごり、陰かに蓄かさんとを恐れて可かず、輔國は其の謀を聞き居たり、上の崩御するに及んで、后を殺し而して後ちに太子を引きて之れを立つ、是れを代宗皇帝と爲す。

代宗皇帝。初名俶。封廣平王。爲元帥。定兩京。封楚王。改成王。已而爲太子。改名豫。至是即位。誅李輔國。以雍王适爲天下兵馬元帥。率諸將及回紇

援兵。討二史朝義一。大敗レ之。賊將李懷仙。斬二朝義一以降。以レ賊將張志忠一鎮二成德一。軍一賜二姓名一。李寶臣。薛嵩鎮二相衛一。邢洺貝磁等州一。田承嗣鎮二魏博一。德滄瀛等州一。李懷仙鎮二盧龍一。朝廷厭二苦兵革一。苟冀無事一。因而授レ之。諸鎮自爲二黨援一。河朔敢抗二朝命一。始此。◉〔解釋〕苟冀無事　苟且にこひねがふ、無事平穩を冀ふ。自爲黨援　おのづから仲間を組み助力をなす。抗朝命　朝命に敵抗す。◉〔講義〕代宗皇帝は初めの兩京を定む、逆王に封ぜられ、成王に改め、大將已にして太子と爲り、豫よび回紇等の援兵を率ゐて、史朝義を討す、是に至り、位に即き、李輔國を誅す、雍王の適（アト）を以て、天下の兵馬元帥と爲す、諸將及び回紇等の援兵を率ゐて、史朝義を討す、大に之れを敗りたり、賊の大將李懷仙なるもの、薛嵩（スウ）が相衛刑洺貝磁（シンケイケイバイジ）等の州を領し、田承嗣が魏博德滄瀛（ギハクトクソウエイ）等の州を領し、李寶臣と睦ふ、薛嵩（スウ）が相衛刑洺貝磁（シンケイケイバイジ）等の州を領し、李懷仙が盧龍を領し、皆な張志忠を以て成德軍

て曰ふに郭公が出來ると、使者が其の通し、若かず身をぬきたり、子儀か曰ふ今衆寡敵せず、力を以て勝ちがたし、昔し回紇と、契約甚だ厚し、若かず身をぬきたし、拜見するなれば、拜見するとが出來ると、使者が其の通し、若かず身をぬきたり、子儀か曰ふ今衆寡敵せず、力を以て勝ちがたし、昔し回紇と、契約甚だ厚し、若かず身をぬきたし、拜見するなれば、拜見するとが出來ると、使者が其の通し、若かず身をぬきたり、子儀か曰ふに郭公が生きて居るなれば、拜見するとが出來ると、使者が其の通

章事。祐甫欲收時望。未二一百日。除官八百人。上曰。人謗卿所用多涉親故。何也。對曰。臣爲陛下擇人。不敢不愼。非親非故。何以諳其才行而用之。◉〔解釋〕收時望人氣を收むるなり。除官除は除夜の除の如し。官に遷るなり。涉親故親族故舊に及ぼすなり。◉〔講義〕德宗皇帝は、名を足（クワシ）と曰ふ、雍王より太子と爲る、是に至りて位を貶せらる、崔祐甫が同平章事たり、祐甫は時の人望を收めんと欲す、未だ二百日に滿たざるに官に除したるもの八百人もあり、上の曰ふに人は卿が用ゆる所の人、多く親類に絲故に涉るを誇るは何故なりや、と祐甫が對へて曰ふに臣は陛下の爲めに人物を擇ぶにあり、親類にても賢なれば之を用ゆ、親類なればとて必ずしも非す、故舊にても賢ならぬを以てか其の才智や行狀を諳知して之れを除きて新官に遷るなり、涉親故親族故舊に及ぼすと、◉〔講義〕名表獻錢三十萬緡。崔祐甫請。遣使慰勞淄青將士。因以賜之。正巳慚服。天下以爲太平庶幾可望。○上方勵精求治。不次用人。祐甫薦楊炎。自司馬除爲同平章事。既而祐甫病不視事。◉〔講義〕淄州（今の濟南の舊川縣）青州（今の濟の府たり）の長の李正巳なる、青州の上の戚光ある名を畏れ、上表して錢三十萬緡を賜ふ、正巳は輒ち服す、天下の將士等を慰め勢はおほかた望むもの、如くであるより、除せられて方さに同平章事を勵ましなる、既にして祐甫は病氣で國家の役を用ゆる能はず、故舊でもなき人を政を視ろことになりたり、○建中元年。始作兩稅法。唐初賦斂之法。有田則有租。有身則有庸。有戶則有調。玄宗之末。版藉寢壞。至德兵起。所在賦斂。徂趨取辦。無復常準。下戶不勝困弊。率皆逃徙。至是楊炎建議。先計州縣每歲所用。及上供之數。而賦於人。量出以制入。戶無主客。以見居爲簿。人無丁中。一以貲富爲差。爲行商者。在所州縣。稅三十之一。居人之稅。秋夏兩徵之。其租庸調雜徭悉省。◉〔解釋〕兩稅法六月、十二月に、稅を納めらるる法なり。至德は肅宗の年號、兵起るは安祿山、史思明の賊を征討するなり。貧民が困苦疲弊にたべず、上供は朝廷の入費なり、賦於人一人別にわりつけるなり、以見居爲簿人別の住所につき、現在の籍を綴制すること、丁中は上中下、人足の雜徭土地の產物を貢にするとなり、◉〔講義〕建中元年に、始めて兩稅の法を作す、唐の初の賦斂の法は、田地有れば則ち租有り、身體有れば則ち庸有り、戶有れば則ち調有りしが、玄宗皇帝の末年に、帳面が段々崩れ壞れ、至德年間に兵が起り、處々の年貢や運上も、催促して取り辨じ、復た常の準法なき故に、下等の戶々は因みや疲弊や及び上供の數を計て皆な逃れ徒る、是に至りて楊炎が評議して、先づ州縣に、每歲用ゆる所の數を計て、而して人に賦す、出づる處を量りて以て入る制度を作す、家は主客の別ち無く、現在に居る人々を以て、貧と富とを以て差別を爲す、ただ廣狹なるものは、其の分ち之れを兩度に徵す、其の租庸調雜徭は、悉く皆ふきたり、○崔祐甫卒。○殺忠州刺史劉晏。晏善治財計。自肅宗以來。領戶部度支。鑄錢鹽鐵轉運等事。以同平章事充使。通漕運斡鹽利。制百貨之低昂。軍國之用。賴以充足。然久典利權。衆頗疾之。又與楊炎不相悅。竟貶忠州。人希炎旨。告晏怨望。上遣人縊之。◉〔解釋〕治財計財を治むるなり、度支金銀の會計、鹽鐵鹽渡、鐵鑛の事務を領するなり、轉運轉運等の事務を領し、漕運は陸運、船運、斡運斡は迴すなり、即ち運送を通じ、運の利を通じ、主どる百貨の貨物の轉送行、充使錢、鹽、鐵、轉運の三使に任ずるなり、楊炎の心中を足なりきを、金穀の不足なるをいふ、希炎旨察するなり、◉〔講義〕崔祐甫が死去したり、忠州の刺史の劉晏が善く貨財を治む、蓋し宗代宗より以來、度支、鑄錢、鹽鐵轉運等の事務を領し、以上の役の使に充てられ、以て充足さる、然れども久しく利權を典どり、衆人は晏の外之れを罪む、又た楊炎と不和なり、寃に忠州に流され、位を降さる人は楊炎の氣に入るやうにと、

が上を怨望すと告ぐ、上は人をしてこれを捕え殺さしめたり、○二年。成徳李寶臣卒。子惟嶽自領三軍務一。後王武俊斬而代レ之。○楊炎。盧杞。同平章事。炎未レ幾罷。杞藍面鬼色。有二口辯一。上悦レ之。◉〔解釋〕藍面鬼色　藍はあいの染草、鬼は幽鬼、面色のあおざめたるをいふ、口辯の上手なるも。◉〔講義〕二年に、成徳の李寶臣が卒し、子の惟嶽が自から軍の事務を領す、後ち王武俊が斬り、て之れに代りた旨を告ぐ、上は人をして之れを捕え殺さしめたり、楊炎と、盧杞と、同平章事の役となれり、炎は間もなくして罷められ杞は藍の如き青き面色にて、腐鬼の如き顔色なり、辯舌よし、上は之れを悦びたり、○尚父大尉中書令汾陽忠武王郭子儀卒。子儀以レ身爲二天下安危者一三十年。功蓋二天下一。而主不レ疑。位極二人臣一。而衆不レ疾。嘗遣使至二魏博一。田承嗣西望拜之。曰。茲膝不レ屈二於人一。久矣。今爲公拜。校中書令。凡二十四考。家人三千八。八子七壻。皆顯。諸孫數十人。每レ問二安不一レ能レ盡辨一。額之而已。年八十三而終。◉〔解釋〕尚父　尚父は號なり、德宗は位に即きて、子儀の功徳を以て太公望に比して此の號を賜ふ、忠武　子儀の諡なり、天下安危　子儀の一進一退により、これは依頼の重きをいふ、校　校は中書省にて毎年の末、官吏の功績をしらべ、その人を黜陟升降すると、一年より、是十四考なり、八子　嚢ヨウ、曉キ、吁カン、哦ガ、嚀ゴ、噯アイ、暗ショウ、映エイ、七壻　壻は聟の俗字、皆な未だ詳ならず、皆顯　任ずる處の官に、顯れたるなり、額之而已　唯一々名をおぼへず、のみ。◉〔講義〕尚父の大尉中書令汾陽の忠武王郭子儀は自分の身を以て賊を討す、是は天下を盍ふて而も疑はず、位は人臣を極めたれども、衆人も疾まず、皆て使者をして魏博に至らしむるに田承嗣が四の方を望んで之れを拜しらべて曰ふ、此の膝凡そ三十年となく、今ま公の爲めに拜す、子儀は中書令を拜し、天下の安危を計す、是

地。泚殺之。遂僭號大秦皇帝。先是有術士桑道茂言數年後有離宮之厄。奉天有天子氣。宜高大其城以備非常。上從之。至是遂奔奉天。泚犯奉天。李晟率兵赴援。渾瑊擊泚破之。泚奉天圍解。李懷光赴難。亦破泚兵。至奉天。欲入白盧杞之姦。杞隔之。不得入見。而行。上表暴杞惡。衆論亦喧騰咎杞。上不得已遠貶之。◉〔解釋〕犒師軍中に食を給するなり、糲食あらふみの粟飯つゝみの團子に粟を用ゐたるなり、口々に盧杞を誅殺せんと云ふなり、喧騰かまびすしくさわぐなり、貶は官位を下げて遠方へ遣はすなり。◉〔講義〕（今の平涼府）原州（今の平涼府鎮原縣）に寇す詔して涇州の節度使の姚令言が兵を發して之を救ふ、涇原の糒米と、粟の數ひいたはるに、惟だ粗末の黒米と、粟の糠とを牧ふ、涇原の兵怒り亂を作し、城中に入る、上ば帝と鄰せんと爲す、司農卿の段秀實は其の面に唾はき、大に惡口讒出奔す、亂兵が大尉の朱泚をいて自分に帝と鄰せんと爲す、司農卿の段秀實は其の面に唾はき、大に惡口讒る、あたは泚を召して帝と爲せんと言ひ、笏もて泚が顔を擊つ、血が地上に流れても猶ほ罵り號ぶ、是れより先き、方術士の桑道茂が德宗の厄難あらん、奉天（今の四安府乾州）に避ふ、是に天子の氣あり、宜しく其の地に備へ置くべしと、上は之れに從ふ、是に至りて之れを破る、奉天の圍は解けたり、李懷光は隔てゝ亦た喧しく、渾瑊が泚を擊つて奉天に至るを聞き、入りて見るを得ずして去る、依て上は止むを得ず、杞が惡事を遠方に貶す、衆人の表文を上り、杞が惡事を遠方に貶す、衆人の議し故に亦た入りて見るを得ずして去る、依て上は止むを得ず、杞が惡事を遠方に貶す、衆人の議論沸騰して杞を咎むるを聞き、之れを上りて杞を貶す、遠地に貶したり。

○興元元年。大赦。陸贄勸上罪己。以謝天下。奉天所下書詔。驕將悍卒。聞之無不感激。揮涕。王武俊。田悅。李納。上表謝罪。◉〔解釋〕驕將悍卒きわまゝの將卒即ち諸節度使等、是の年、王武俊等皆な王號を止む、◉〔講義〕興元元年に罪して以て天下に謝罪せしむ、奉天が上に勤めて下すの所の大赦の詔書には、驕將悍卒の大將や驕悍の士卒も、之れを聞きて感激して涕を揮ふなし、王武俊、田悅、李納は書き付けなきなり。

○李晟克復長安。朱泚走。其將朱泚之以降。晟露布至行在。曰。臣已肅清宮禁。祗謁寢園。鐘虡不移。廟貌如故。上覽之泣曰。天生李晟。以爲社稷。非爲朕也。◉〔解釋〕克復戰に克ち土地をとりもどすなり、露布捷軍の表文なるものなり、其將朱泚の梁庭に、露布は封せざる文なり、肅清宮禁ひきよめる、祗謁寢園廟なり、鐘虡は鐘をかくる架なり、歷代の廟前に廟堂に拜禮せり、園は墓域を謂ふなり、園陵は墓なり、寢は墓側に起す、故に陵寢を制す、槀に至て始めて墓に寢を設けて朝夕に供養す、故に寢園

がりて、だん〳〵あへば其の輕重をはいふ、盧杞顏眞卿を害せんと欲して、詔して曰ふ、眞卿は四方の信ずるところ、若し往て諭さしむべしと、盧杞に陷いらる、乃ち帝烈の處へ奉使せしむ、眞卿は少しも賊に屈服せず、竟に賊の爲めに羞づと、賊中に至るに、賊は之れを留めて、將さに殺さんとせしに、問もなく卒したり、○幽州朱滔卒。○馬燧及諸軍平河中。李懷光誅領鎭。○三年。張延賞同平章事。先是吐蕃尙結贊據鹽夏州。李晟嘗破之。懼而請和。卑辭厚禮。求於馬燧。燧信而請盟於平涼。吐蕃畏晟燧璫。曰去此三人。則唐可圖也。於是離間晟。因燧以求盟。欲執璫以賣燧。使併得罪。因縱兵直犯長安。會失璫而止。◉〔解釋〕劫盟（テヒヤカスチカヒテ盟約の席にさらへんことを伏せ、離間（カンセイヲクハヘテ）晟（吐蕃實に盟を求むるに就き、主將たる李晟をは除かんと欲するを以て、わざと晟をはなしむ、疑はしむ、）執（トラヘカコヒテ）璫以賣燧（燧は則ち就きて盟を請ひ、而して朝廷に會上に於て璫をさらへんことを晟に得ん、是に於て吐蕃の策、失（ウシナフ）璫（走りをいふ、）免（マヌカル）。◉〔講義〕幽州の朱滔が卒したり、馬燧と及び諸軍が河中を平らぐ、李懷光誅せられたり、二年に、淮西の大將陳仙奇が李希烈を殺して以て降服す、吳少誠が仙奇を殺して以て張延賞が同平章事たり、是れより以前に、吐蕃の尙結贊が鹽夏州（鹽は今以て寧夏衛に鎭を領せしむ、）三年に、西平王李晟が平涼に會せんことを約して、晟は營を卑て其の禮一義を厚くし、陣屋を破る、涼璫馬燧に乞ひ求む、燧は各々兵を擊つに如かず、延賞は晟と中あしく、度々盟を劫かし、其の將さに盟んとするに當てや、兵を伏して而して涼璫を執へんと欲す、故に璫は走りて免かる、吐蕃が晟燧璫の三人を畏れて曰ふに、此の三人を去れば、唐は囮るべきなりと、是に於て盟を求め、璫を執らへて燧を賣りだまし、併せて止む、○李泌同平章事。上與泌從容論即位以來宰相。人言盧杞姦邪。朕殊不覺。泌曰。此乃所以爲姦邪也。倫覺之。豈有建中之亂乎。泌有謀略。而好談神仙詭誕。故爲世所輕。爲相未三歲而卒。◉〔解釋〕倫（儕に同し、萬といふ、）建中之亂（建中は年號なり、）李泌（ヒツ）が同平章事の役たり、上は泌と緩々を論ずるに、人は天の兵難をいふ、神仙を談じて、之れを輕ずるなり、故に詭誕（キタン）なりと言ふなれども、盧杞を覺へずと、泌が言ふに、此れが盧杞の姦邪なるを覺りしなれば、豈に建中の騷亂あらんや乃ち姦邪なる所以なり、陸下が倫し杞の姦邪たるを覺りしなれば、豈に建中の騷亂あらんや、泌は謀略あり、而れども好んで神仙の事を談じて、詭はり誕侯なり、故に世の人の爲めに輕しめらる宰相たるを未だ三歲ならずして卒したり、○八年。陸贄同平章事。○九年。大尉中書令西平忠武王李晟卒。○十年。陸贄罷。○十一年。貶贄忠州別駕。贄自奉天以來。宣力最多。隨事論諫。剴切百奏。帝追仇盡言。又被譖。故貶。初夏縣陽城以處士徵。爲諫議大夫。皆想望風采。在職七年而不諫。韓愈作爭臣論。譏之。至是判度支裴延齡譖贄。城率諸諫官守闕論延齡姦佞贄無罪。時朝夕且相。延齡城曰。脫以延齡爲相。當取白麻壞之。慟哭於庭。遂沮。城左遷國子司業。後又貶道州刺史。治民如治家。自書其考曰。撫字心勞。催科政拙。考下下。◉〔解釋〕宣力（ノブチカラヲ）十分に力を盡すと、追仇盡言（マモルケツテ退出後一ばいに諫爭せし晉日、被譖（ソシラル）せらるゝも、爭臣論（爭は靜と同義なり、韓文五百家註には諫臣論に作る、）守闕（ミカドヲマモル）

せずして諫す。○白麻（相に拜する詔書なり、唐の制、王に封じ將に拜するに、白麻紙を用ゆ。）庭（朝廷の庭をいふ、）遂沮（さうずるを止むる、相さうずる）治民如家（領民を世話するなるゝ如くれんごろなるをいふ、）考勤（勤勞の狀、）撫字（民を撫育するなり、）催科政拙（催科は最下にて居るなり、）考下下（考績上下の下に居る。）○（講義）考績は、官吏の勤怠を考へて、其の進退を定むるなり。唐の制、毎年に考課の狀を中書令の西平忠武王李晟が死去したり、以來、力を盡して、十年に、大尉中書令の別邸に貶す、晟は李天寶の亂より

釋監國(コク)父(ちち)に代(かわ)り天下(てんか)を治(おさ)めたり、總監(そうかん)するなり。◉〔講義〕憲宗皇帝は名を純(ジュン)と曰ふ、年二十八にして、太子なりしが、幸(さいわ)ひに即位(そくゐ)したり、王伾(わうひ)や王叔文(わうしゅくぶん)の位に居(を)りし時は、伾は病氣(びやうき)で死(し)し、叔文は死命(しめい)を賜(たま)ふ、其(その)の徒黨(とたう)は皆(みな)遠方(えんぽう)へ流(なが)され、官(くわん)を遷(うつ)されたり、元和元年(げんわがんねん)に、西川(今(いま)の成都府(せいとふ)の節度使(せつどし)の劉闢(りうへき)が叛(そむ)き同平章事(どうへいしやうじ)の杜黄裳(とこうしやう)が高崇文(かうそうぶん)を薦(すゝ)めて之(これ)を討(う)せしむ、崇文(そうぶん)は皆(みな)の後役(こうえき)の楊惠琳(やうけいりん)が朝廷(てうてい)の命(めい)を拒(こば)みて之(これ)を討(う)せしむ、夏州(かしう)の留後(りうこう)の楊惠琳(やうけいりん)が朝廷(てうてい)の命(めい)を拒(こば)みて之(これ)を討(う)せしむ、兵馬使(へいばし)の爲(ため)に斬(き)られたり。○高崇文克成都擒劉闢。

送京師斬之。○二年。鎭海節度使李錡反。詔討之。兵馬使執錡送京師斬之。○三年。沙陀朱邪盡忠。與其子執宜來降。沙陀勁勇冠諸胡。吐蕃每戰以爲前鋒。後疑其貳於回鶻。欲遷之河外。懼而歸唐。置之靈州。用以征討。皆捷。◉〔講義〕高崇文が成都(今(いま)の四川(しせん)に國(こく)す)に克(か)ち、劉闢(りうへき)を擒(とりこ)にして、京師(けいし)に送(おく)りて之(これ)を斬(き)りたり。三年(さんねん)に、沙陀(さだ)の朱邪盡忠(しゅやじんちう)なるもの、其(その)の子(こ)の執宜(しつぎ)と、諸胡(しょこ)の第一番(だいいちばん)に勇(いさ)ましく驍(たけ)きものなるとを以(もつ)て、京師(けいし)に來(きた)りたり。其(その)の子(こ)の執宜(しつぎ)と、諸胡(しょこ)の第一番(だいいちばん)に勇(いさ)ましく驍(たけ)きものなるとを以(もつ)て、京師(けいし)に來(きた)りたり。三年(さんねん)に、沙陀(さだ)の朱邪盡忠(しゅやじんちう)なるもの、

上悉以兵事委同平章事武元衡。師道素養刺客姦人。客請密往刺元衡。則佗相必爭勸天子罷兵矣。元衡入朝賊暗射殺之。又擊度傷首。上怒。討賊愈急。以度同平章事。上曰。吾倚度一人足破賊。命度兼彰義節度使。充淮西宣慰招討使。督諸軍進討。唐鄧節度使李愬。先擒賊將丁士良。吳秀琳。李祐。釋而用之。用祐計。雪夜七十里。引兵入蔡州城。擊鵝鴨池混軍聲。鷄鳴入據元濟之外宅。元濟登牙城拒戰。已而就擒。檻送京師斬之。自叛及誅。凡用兵二歲。時元和十二年也。淮西既平。上浸驕侈。先是二歲。已用李逢吉同平章事。至十三年。又用度支使皇甫鎛。監鐵使程異進羨餘。有寵並同平章事。朝野駭愕。元和之政非矣。◉〔解釋〕東畿東は東都畿内にて河南の地　十六道征討官の陣屋をいふ、佗相同僚の同平章事のこと、擊鵝鴨池混軍聲水鳥の騒きたゝしくして、進軍の足音をまぎらすなり、登牙城牙城を羅城といふ、小城之を牙城といふ、美餘常數用のの駭愕利をさとり、故に人心そこに詣ふ小人を以て相こり、府を主領す兵を統ち侵し掠めまでも、東畿なり剌客や、惡なる人を遣ふ、客が謂ひ目ふ、愈かに住て元衡が入朝する時に、夜未だ明けず、故に賊暗に乘じて之を射殺す、又た裴度を擊つ、度は首に笠を以て同平章事と爲す、上の曰く、吾れは裴度一人に倚り頼みて、賊を破るに足ると、度に命じて彰義の節度使を兼ねしむ、淮西の宣慰招討使に充て、諸軍を總督して進み討す、唐鄧二州の名、今ま南陽府の用ゆ、祐が計を用ゐ、雪夜に七十里も兵を引て、蔡州（今の汝寧府新蔡縣）の城に入る、鵝鴨池は本丸の居る池なり、軍の聲を混雜せしむ、鵝の鳴く曉ごろに、入りて元濟の外宅に據る、元濟は本丸の城に登りて拒ぎ戰ふ、已にして兵を用ゆるを以て、二歳の物に入なれり、乘ぶまで、凡そ大城之を羅城といふ、小城之を牙城といふ、諺に、朝廷より許さず、度が淮西の行營に宣撫の官と委任す、三年に至りて、又た賜ふ、是れより先き二年に、已に李逢吉なるものを用ゐて、同平章事と爲す、十愛あり、並に同平章事の舊き政事が、わるくなりたりと誇る。○十四年迎鳳翔法門寺塔佛指骨至京師。留禁中三日。歴送諸寺。王公士民。瞻奉捨施。惟恐不及。侍郎韓愈上表極諫。乞以投之水火。上大怒。貶潮州刺史。◉〔解釋〕佛指骨佛舍利歴送諸寺諸寺院に順々に送り、瞻奉隨喜する、捨施財寶を寄進する、◉〔講義〕十四年に、鳳翔の法門寺の塔に在る佛の指骨を迎へて、京師に至らしめ、禁中に留め置くこと三日の間なり、諸方の寺に順々に送る、王公や士民等は、瞻望供奉し、錢を捨て施し、惟々及ばざるを恐る、侍郎の韓愈が、書を奉じて之を諫む、乞ふて以て之れを水火に投げ込まんと、上は大に怒りて、愈を潮州（今ま府に隷す）の刺史に貶したり、○平盧將執斬李師道。○裴度罷。○十五年。上暴崩。上服金丹多躁。左右獲罪有死者。人人自危。宦者陳弘志弑逆。其黨諱之。但言藥發。在位十六年。改元者一。曰元和。太子立。是爲穆宗皇帝。◉〔解釋〕服金丹藥發藥毒を服用す、多躁逆上して氣あらくなると、藥發に中りしなり、◉〔講義〕平盧の大將が、李師道を執らへ斬りたりと、案するに舊註の田弘正當に李師道の都知兵馬使劉悟をして兵萬餘人を將ひ以て官軍を拒がしむ、悟が平叛々敗る、或人之を諫す、師道を執へて之を殺さんとす、悟乃ち兵を勒め其使宅を圍ふ、師道諫を信じて將ざに悟を殺さんとするに、悟が官を罷められたり、十五年に、上は俄かに腐御

す、上は金丹さいへる薬を服用して、遂に危み、安き心さしてはなかりけり、宦官の陳弘志といへるものが、上を弑す、其の徒黨の者が之れを誅み匿くして、但だ薬毒に中りしのみといふ、位に在すこと十六年にして、年號を改めしこと一つ、元和と曰ふ、太子が繼で立つ、是れを穆宗皇帝となす、

穆宗皇帝名恒。即位改元曰長慶。四年崩。太子立。是爲敬宗皇帝。〔講義〕

穆宗皇帝は、名を恒と曰ふ、位に即き年號を改めて長慶と曰ふ、四年にして崩御す、太子が繼で立つ、是れを敬宗皇帝となす、

敬宗皇帝名湛。即位荒淫嬖倖用事。〔解釋〕嬖倖用事　小人嬖愛が政事をなすこと、

〔講義〕敬宗皇帝は、名を湛と曰ふ、位に即きて物にすさみ、淫亂なり、氣に入りたる佞臣たちが、政事を用ゆ、

○李德裕獻丹扆六箴。一曰宵衣。二曰正服。三曰罷獻。四曰納誨。五曰辨邪。六曰防微。〔解釋〕丹扆　扆は屏風　箴　規諫のこと

〔講義〕早朝より外朝に御し政を聽くこと、正服　衣服の正しきを着すること、罷獻　玩弄物の進納を停むること、納誨　臣下の諫言を入れること、辨邪　百官の姦邪を辨別すること、防微　事を微小なるうちに用心して防ぐこと、

〔講義〕其の一に曰く、夜の晝に於ける、赤き屏風の如きものに、書したる六ケ條の戒めを觀ること、其の二に曰く、衣服を着けて、朝さ早く政事を觀ること、其の三に曰く、色々の玩弄物を謀ること、其の四に曰く、正しき言を以て數諫することを納れ用ゆることを謀すこと、其の五に曰く、多くの邪しまなる小人を辨別することを謀すこと、其の六に曰く、事を微小なるうちに用心して防ぐこと、其の說は皆な此の如し、

遊戲無度。性復褊急。宦官動遭捶撻。皆怨。夜獵還宮。酒酣爲宦者劉克明所弑。在位三年。改元者一。曰寶曆。江王立。是爲文宗皇帝。〔解釋〕褊急　心せまくきたなし、遭捶撻　むちうたるゝ、

〔講義〕上は遊び戲むること極りなし、性質が復た狹く、急なり、宦官が時によると、むちうたるゝ故に皆な怨む、夜る出でゝ獵して宮に還りし時、酒に醉て居たりしに、宦官の劉克明が爲めに弑せらる、位に在すこと三年にして、年號を改めしこと一つ、寶曆と曰ふ、江王が繼で立つ、是れを文宗皇帝と爲す、

文宗皇帝名涵。穆宗子也。爲宦者王守澄所立。後改名昂。太和二年。親策制舉人。宦者益橫。建置天子。在其掌握。權出人主之右。無人敢言。賢良方正劉蕡。對策極言之。考官皆歎服。而不敢取。中第者裴休。李郃。杜牧。崔愼由等。二十二人。皆除官。物論囂然稱屈。郃曰。劉蕡下第。我輩登科。能無顏厚。上疏乞回所授官於蕡。不報。〔解釋〕親策　天子自ら試みること、制舉人　賢良方正　科目の名、考官　貢士を取る委員、即ち試驗官、不敢取　考官は皆な宦者を怖れてこゝり、中第　考試に採用せらるゝこと、稱屈　劉蕡を採らず、意屈するをいひたつ、乞回　わが受くる官職を蕡にこふ、

〔講義〕文宗皇帝は、名を涵と曰ふ、穆宗の子なり、王守澄　宦官の名、立　位に即きて物にすさみ、淫亂なり、氣に入りたる佞臣たちが、政事を用ゆ、

○李德裕獻丹扆六箴。一曰宵衣。二曰正服。三曰罷獻。四曰納誨。五曰辨邪。六曰防微。〔解釋〕丹扆　扆は屏風　箴　規諫のこと

〔講義〕早朝より外朝に御し政を聽くこと、正服　衣服の正しきを着すること、罷獻　玩弄物の進納を停むること、納誨　臣下の諫言を入れること、辨邪　百官の姦邪を辨別すること、防微　事を微小なるうちに用心して防ぐこと、

〔講義〕其の一に曰く、夜の晝に於ける、赤き屏風の如きものに、書したる六ケ條の戒めを觀ること、其の二に曰く、衣服を着けて、朝さ早く政事を觀ること、其の三に曰く、色々の玩弄物を謀ること、其の四に曰く、正しき言を以て數諫することを納れ用ゆることを謀すこと、其の五に曰く、多くの邪しまなる小人を辨別することを謀すこと、其の六に曰く、事を微小なるうちに用心して防ぐこと、其の說は皆な此の如し、

遊戲無度。性復褊急。宦官動遭捶撻。皆怨。夜獵還宮。酒酣爲宦者劉克明所弑。在位三年。改元者一。曰寶曆。江王立。是爲文宗皇帝。〔解釋〕褊急　心せまくきたなし、遭捶撻　むちうたるゝ、

〔講義〕上は遊び戲むること極りなし、性質が復た狹く、急なり、宦官が時によると、むちうたるゝ故に皆な怨む、夜る出でゝ獵して宮に還りし時、酒に醉て居たりしに、宦官の劉克明が爲めに弑せらる、位に在すこと三年にして、年號を改めしこと一つ、寶曆と曰ふ、江王が繼で立つ、是れを文宗皇帝と爲す、

文宗皇帝名涵。穆宗子也。爲宦者王守澄所立。後改名昂。太和二年。親策制舉人。宦者益橫。建置天子。在其掌握。權出人主之右。無人敢言。賢良方正劉蕡。對策極言之。考官皆歎服。而不敢取。中第者裴休。李郃。杜牧。崔愼由等。二十二人。皆除官。物論囂然稱屈。郃曰。劉蕡下第。我輩登科。能無顏厚。上疏乞回所授官於蕡。不報。〔解釋〕親策　天子自ら試みること、制舉人　賢良方正　科目の名、考官　貢士を取る委員、即ち試驗官、不敢取　考官は皆な宦者を怖れてこゝり、中第　考試に採用せらるゝこと、稱屈　劉蕡を採らず、意屈するをいひたつ、乞回　わが受くる官職を蕡にこふ、

〔講義〕文宗皇帝は、名を涵と曰ふ、穆宗の子なり、王守澄　宦官の名、立　位に即きて物にすさみ、淫亂なり、氣に入りたる佞臣たちが、政事を用ゆ、制舉　天子自ら試みること、賢良方正　科目の名、劉蕡　貢士の名、對策　貢士に制舉を命ずる問題書のこと、建置　廢立のこと、在其掌握　其は宦官を斥す、すなはち宦官の手の内にて自由にすること、賢良方正　貢士を取る科目の名、考官　貢士を貢試する委員、即ち試驗官、皆な宦者を怖れてこゝりあげざること、中第　考試に及第すること、裴休　唐貴人なり天子自ら試みるに、三等あり天子自ら試みる手の内にて自由にすること、賢良方正　貢士を取る科目の名、考官　貢士を貢試する委員、即ち試驗官、皆な宦者を怖れてこゝりあげざること、中第　考試に及第すること、裴休　唐貴人なり天子自ら試みるに、三等あり天子自ら試みる手の内にて自由にすること、賢良方正　貢士を取る科目の名、考官　貢士を貢試する委員、即ち試驗官、皆な宦者を怖れてこゝりあげざること、中第　考試に及第すること、裴休　唐貴人なり天子自ら試みるに、三等あり天子自ら試みる手の内にて自由にすること、賢良方正　貢士を取る科目の名、考官　貢士を貢試する委員、即ち試驗官、皆な宦者を怖れてこゝりあげざること、中第　考試に及第すること、裴休　唐貴人なり

年。上與同平章事宋申錫謀誅宦官。不克。申錫貶死。〔講義〕同平章事　宰相の職名、宋申錫　同姓の尹王の子なり、謀誅宦官　宦官を誅殺せんと謀ること、京兆尹　京兆の尹王の子なり、謀誅宦官　宦官を誅殺せんと謀ること、京兆尹　京兆の尹王の子なり、謀誅宦官　宦官を誅殺せんと謀ること、京兆尹　京兆の尹王の子なり、

〔講義〕太和五年に、上は同平章事の宋申錫と謀りて、宦官を誅殺せんと謀ること、京兆の尹王の子なり、之を知り申錫は廢立を謀ると誣告して、朋州の司馬に貶す、竟に謫所に在て卒す、

○九年。上與李訓。鄭注等謀誅宦官。不克。注本宦者王守澄所引。訓本名仲言。又爲注所引。得見守澄。薦於上。倜儻尚氣。有文辭口辯。多權數。上悅之。

訓注揣知上意。數以微言動上。上竟不能有爲。嘗問宰相。何時太平。牛僧孺答以太平無象。未年嘗問近臣朕何如周赧漢獻。對者憮然。上曰赧獻受制強臣。今朕受制家奴。殆不如也。在位十五年。改元者二。曰太和。開成。弟潁王立。是爲武宗皇帝。◉〔解釋〕中使李好古至鎭鳳翔令人約石榴木の名實は可し、陽同じ、告變の生ずるありと、神策兵の護宗の時、左右の羽林を分て、左右の神策の兵となす、北司宦官を北司と名く、李訓爲人所殺。鳳翔監軍宦者張仲清、晉公裴度を殺さりこゝになり、鳳翔監軍宦者晉公は晉國、別墅東都にあり、四朝敬宗、寧宗、文宗、武宗、寺は嗣襲す、音は嗣、嗣は續なり、事を治むるなり、近臣學士周墀、家奴宦者を太和即位二年に元を改らたむ、●〔講義〕年九名に曰ふ、寺は内に相ひ嗣なり、事を治むるなり、近臣學士周墀、家奴宦者を太和即位二年に元を改らたむ、●〔講義〕年九

寺。竟不レ能レ有レ爲。嘗問二宰相一。何時太平。牛僧孺答以二太平無象一。未年嘗問二近臣一。朕何如周赧漢獻。對者憮然。上曰。赧獻受二制強臣一。今朕受二制家奴一。殆不如也。在位十五年。改元者二。曰太和。開成。弟潁王立。是爲二武宗皇帝一。◉〔解釋〕中使李好古至二鎭鳳翔一。令人約石榴木の名實は可し、陽同じ、告變の生ずるありと、神策兵の護宗の時、左右の羽林を分て、左右の神策の兵となす、北司宦官を北司と名く、李訓爲人所殺。鳳翔監軍宦者張仲清、晉公裴度を殺さりこゝになり、鳳翔監軍宦者晉公は晉國、別墅東都にあり、四朝敬宗、寧宗、文宗、武宗、寺は嗣襲す、音は嗣、嗣は續なり、事を治むるなり、近臣學士周墀、家奴宦者を太和即位二年に元を改らたむ、●〔講義〕年九

諫す。惟に宰相には文學のみを知る、他の相は實に知ならざるなり、是より天下の非を傳ふ。鄭注も亦た風翔の監軍宦者張仲清事に憑りて殺す所となる、開成三年、司徒中書令晉公裴度の別墅度の卒するや、景嘉宗の時相を罷て、東都に留守し、詩を詠じ酒を飲し、自から娛しむ、穆宗敬宗の時、皆嬖幸浮沈するも意とせず、然ども寵宗穆宗敬宗入て文宗を輔け、帝の將相威望遂く四夷に達す、四夷中國の重事あれば、時に朝に至て、亦た嘗て平章軍國の使を見れ、餘年、五年帝崩ず、帝即位の初め精を勵ま國の治ちんを求め、善を去り、佞に從ふ、中外翕然の二十の時か太平ならんと、然れども宦官に制せられ、竟に爲すあるを能はず、嘗て宰相るに問て曰く、何をふを以てす、蓋し僧孺は當時なき太平象なきの下に今四夷爲んすと欲す、故に答ふるに太平亦た一定の象し云ふ、未だ至理に及ばずと雖ども亦た稍々康ぎ、臣等の及ぶ所に非ずと。帝曰ふ、獻に如かざるなり、在位十年、改元すること二、是を武宗皇帝となす。

武宗皇帝名瀍、穆宗子也。文宗嘗立敬宗子成美爲太子、臨崩欲以成美監國、宦者以爲立不由己、廢之而立瀍爲太弟、遂殺成美而即位。後改名炎。以李德裕同平章事。德裕在穆宗初爲學士、以李宗閔者嘗對制策譏切其父吉甫恨之。構貶宗閔。自是各分朋黨、更相排軋者垂四十年。在文宗時、德裕爲侍郎、裴度薦其可爲相、宗閔有宦官之助、遂相。惡德裕逼己而出之。且引牛僧孺並相。相與排擯德裕、德裕之黨尋以德裕鎭西川。德裕作籌邊樓圖蜀地形。南入南詔、西達吐蕃。日召老於軍旅習邊事者訪以險易遠近。皆若身歷練士卒、葺堡障、以備邊。吐蕃將悉怛謀以維州來降。維州本漢地。入兵之路。吐蕃得之、號爲無憂城。德裕極以得此州爲便。牛僧孺以爲不可納。以城併叛將歸吐蕃詐降。僧孺尋罷。德裕入相。宗閔亦罷。宗閔再相。德裕又罷。二黨互相擠排。文宗每歎曰。去河北賊易、去朝廷朋黨難。德裕連被貶黜。及上立、召德裕相之。德裕言於上曰。正人指邪人爲邪。邪人亦指正人爲邪。在人主辨之。上嘉納。德裕追論維州事。悉怛謀加褒贈。◉（解釋）宦者（仇士良の入黨、其人傾陷なり）軋（音晏）出之（德裕出でて節度使となる、鄭滑に相たるを得、宗閔先きに去れり）擠（音躋、排なり）褒贈（詔して追て世謀に贈る）右僻將軍を贈る。◉（講義）武宗皇帝名は瀍（テン）（穆宗の第五子なり、文宗崩ずるに臨んで成美を立つる己れに由らずと、之を廢しめんと欲す、而して監國を立て、太弟の位に即く、遂に成美を殺し、志太子に命じて國を立つしめんと欲す、而して位に即く、初め文宗疾甚はだしく、太子に諮ること能はず、嘗て宰相るに問て曰く、何をふを以てす、蓋し僧孺は當時なき太平象なきの下に今四夷爲んすと欲す、故に答ふるに太平亦た一定の象し云ふ、未だ至理に及ばずと雖ども亦た稍々康ぎ、臣等の及ぶ所に非ずと。帝曰ふ、獻に如かざるなり、在位十年、改元すること二、是を武宗皇帝となす。

武宗皇帝名瀍、穆宗子也。文宗嘗立敬宗子成美爲太子、臨崩欲以成美監國、宦者以爲立不由己、廢之而立瀍爲太弟、遂殺成美而即位。後改名炎。以李德裕同平章事。德裕在穆宗初爲學士、以李宗閔者嘗對制策譏切其父吉甫恨之。構貶宗閔。自是各分朋黨、更相排軋者垂四十年。在文宗時、德裕爲侍郎、裴度薦其可爲相、宗閔有宦官之助、遂相。惡德裕逼己而出之。且引牛僧孺並相。相與排擯德裕、德裕之黨尋以德裕鎭西川。德裕作籌邊樓圖蜀地形。南入南詔、西達吐蕃。日召老於軍旅習邊事者訪以險易遠近。皆若身歷練士卒、葺堡障、以備邊。吐蕃將悉怛謀以維州來降。維州本漢地。入兵之路。吐蕃得之、號爲無憂城。德裕極以得此州爲便。牛僧孺以爲不可納。以城併叛將歸吐蕃詐降。僧孺尋罷。德裕入相。宗閔亦罷。宗閔再相。德裕又罷。二黨互相擠排。文宗每歎曰。去河北賊易、去朝廷朋黨難。德裕連被貶黜。及上立、召德裕相之。德裕言於上曰。正人指邪人爲邪。邪人亦指正人爲邪。在人主辨之。上嘉納。德裕追論維州事。悉怛謀加褒贈。◉（解釋）宦者（仇士良の入黨、其人傾陷なり）軋（音晏）出之（德裕出でて節度使となる、鄭滑に相たるを得、宗閔先きに去れり）擠（音躋、排なり）褒贈（詔して追て世謀に贈る）右僻將軍を贈る。◉（講義）武宗皇帝名は瀍（テン）（穆宗の第五子なり、文宗崩ずるに臨んで成美を立つる己れに由らずと、之を廢しめんと欲す、而して監國を立て、太弟の位に即く、遂に成美を殺し、志太子に命じて國を立つしめんと欲す、而して位に即く、初め文宗疾甚はだしく、太子に諮ること能はず、嘗て宰相るに問て曰く、何をふを以てす、蓋し僧孺は當時なき太平象なきの下に今四夷爲んすと欲す、故に答ふるに太平亦た一定の象し云ふ、未だ至理に及ばずと雖ども亦た稍々康ぎ、臣等の及ぶ所に非ずと。帝曰ふ、獻に如かざるなり、在位十年、改元すること二、是を武宗皇帝となす。

の召し、問ふに謀を以てす、皆身其の地を去る。士を入るるの路なし、保障を毀り、蓋し兵を以て逐ふに循ふ。

吐蕃の酋悉怛謀、維州を以て來り降る。維州本と漢の地、兵を入るるの路なし、蓋し兵を以て逐ふに循ふ。

牛僧孺の要路と爲す可からず、吐蕃之を得て以て城き、乃ち城を毀ち歸へす。極めて此州を以て境上に誅す、極めて險なり、牛李の怨み相たり、是より愈々深し、僧孺又龍む、二黨互に相問ひ、擠排して文宗常に歎じ、德裕入て相たり、宗閔も亦た去る。

龍む宗閔再たび相たり、德裕又龍む、二黨互に相問ひ、擠排して文宗常に歎じ、德裕入て相たり、宗閔も亦た去る。

○昭義節度使劉從諫卒。姪

稹自領軍府。德裕謂澤潞事體。與河朔三鎭不同。河朔習亂已久。累朝置之度外。澤潞近在心腹。若又因而授之。威令不復行於諸鎭矣。上問何以制之。曰。稹所恃者三鎭。但得鎭魏不與之同。稹無能爲也。遣重臣諭鎭魏討之。詔曰。澤潞一鎭。與卿事體不同。勿爲子孫之謀。使存輔車之勢。鎭魏悚息聽命。二鎭兵。與朝廷所遣行營將王宰石雄各進討。○河東都將楊辨作亂。逐節度使。遣中使馬元實。曉諭且覘之。元實受賂還。於衆中大言。相公須早與之節。自牙門至柳子。列十五里。曳地光明甲。若之何取之。德裕詰之。辭屈。奏微賊決不可恕。如國力不支。寧捨劉稹。河東兵出成者。聞朝廷令客軍取太原。恐妻孥被屠。乃歸擒辨送京師。斬之。未幾。劉稹勢窮蹙。澤人殺稹以降。澤潞平。加德裕太尉衛國公。貶牛僧孺爲循州長史。流李宗閔於封州。○創置者仇士良官爵。籍沒其家。先是士良致仕。其黨送

歸士良。敎之曰。天子不可令閑。常宜以奢靡娛之。使無暇及他事。愼勿使之讀書。親近儒生。見前代興亡。心知憂懼。則吾輩踈斥矣。○毀天下佛寺。

僧尼勒歸俗。○會昌六年。上崩。在位十年。改元者一。曰會昌。光王立。是爲宣宗皇帝。

〔解釋〕昭義節度

昭義の節度使劉從諫卒す、其姪の劉稹自ら軍府を領す、蓋し朝廷に乞はざるなり、循州廣東に屬す、

〔講義〕

裕謂ふ、澤潞事體は河朔三鎭と同からず、河朔は亂に習ふすでに久しければ、累朝之を度外に置て問はず、澤潞は近く帝の心腹にあつて、亦た遠かるべからず、若し又劉稹が自ら軍府を以て之を請はれずと、帝問ふ何を以て之を制せんと、德裕曰く、澤潞の一鎭は、猶ほ事體と同からざるを得ば、稹は能くなすなきなり、故に重臣なしと詔して稹と曰くと同からず、子孫の謀を以て子孫に傳へ

て、太原を取らしむ。聞き、妾撃の屠り殺れんを恐れて、乃ち歸して辨を摘にし、京師に送り之を斬る。未だ幾日もならずして、劉稹が勢窮蹙れすんば、潞人稹を殺して以て降る。澤潞平らぐ。徳裕に大尉國公を加ふ。牛僧孺を貶して、循州の長史となす。李宗閔を封州に流す。初文宗の時、劉從諫入朝して、既に平らぐ、徳裕乃ち帝に謂ふて而して之を黜ぞくむ、其の者仇士良が官爵を削り、其家を籍没す（俗に閹人稱を殺して以て辨を摘にし、京師に送り之を斬る。未だ幾日もならずして、劉稹が勢窮蹙れすんば、潞人稹を殺して以て降る。澤潞平らぐ。徳裕に大尉國公を加ふ。牛僧孺を貶して、循州の長史となす。李宗閔を封州に流す。初文宗の時、劉從諫入朝して、既に平らぐ、徳裕乃ち帝に謂ふて而して之を黜ぞくむ、其の者仇士良が官爵を削り、其家を籍没す（いんきょ）、其の者仇士良が官爵を削り、其家を籍没す（俗に閹人をは閹にならしむ）。可からず、當に宜しく寄廬なる以て之を親近せしむる勿れ、前代の興亡を見て、心に憂憫を知てはらしめよ、慎て之を疎んじ斥ら餘區、會昌六年、帝崩ず、在位七年、改元する。俗に歸せしむ。益し寺を毀つ四千六百餘區、菩提閣若四千、萬餘區、會昌六年、帝崩ず、在位七年、改元する。俗に歸せしむ。益し寺を毀つ四千六百餘區、菩提閣若四千、

宣宗皇帝名は怡、憲宗の子、穆宗の弟也。幼號不慧。太和後益自韜匿。文宗好誘其言以爲笑。武宗豪邁、尤不禮之。名爲光叔。武宗疾篤、子幼、宦官定策禁中、詔立怡爲皇太叔。更名忱。權勾當軍國事、裁決咸當理。人始知其隱德焉。尋即位。○李徳裕罷、僧孺等北遷。徳裕三貶至崖州司戸、以死。○令狐綯同平章事。先是綯爲學士、上嘗以太宗所選金鏡錄授綯使讀之。又書貞觀政要於屏風。每正色拱手而讀。嘗與學士畢誠論邊事。誠具陳方略。上悦曰。不意頗牧在吾禁中。即用爲邊帥。果稱其任。上聰察強記。嘗密令學士韋澳纂次州縣境土風物及諸利害爲一書。號曰處分語。刺史有入辭而出者。曰上處分本州事驚人。建州刺史入辭。上問建州去京師幾何。曰。八千里。上曰卿到彼爲政朕皆知之。勿謂遠。此階前則萬里也。令狐綯奏擬李遠杭州刺史。上曰。吾聞遠詩云。長日惟消一局碁。安能理人。綯曰。詩人托此、高興、未必實然。嘗詔刺史毋得外徙。必令至京面察。綯嘗徙故人爲隣州。便道之官。上問之曰。詔命既行。直廢格不用。宰相可謂有權。時方寒。綯汗透重裘。上臨朝對群臣。未嘗有惰容。每宰相奏事。旁無一人。威嚴不可仰視。奏事畢。忽怡然閑語一刻許。徐復整容曰。卿輩善爲之。常恐卿輩負朕。不得再相見。綯嘗謂人曰。吾十年秉政、最承恩遇。每延英奏事。未嘗不汗沾衣也。嘗召學士韋澳屏左右問之曰。近日內侍權勢如何。對曰。陛下威斷非前朝比。上閉目搖首曰。全未。全未。尚畏之在。又嘗與綯謀盡誅宦官。恐濫及無辜。綯密奏曰。但有罪勿捨。有缺勿補。自然消耗至盡。宦者竊見其奏。由是益與朝士相惡。南北司如水火。○大中十三年上崩。在位十四年。改元者一。長子立。是爲懿宗皇帝。◉〔解釋〕宦官（馬元賛）罷（其政を專にするの日久）、建州（福建に屬す、今建寧府）、刺史（于延陵、階前萬里（謂ふ天下の州郡、政俗異同、備に方策にあり、卷を開けば、一覽及ばざる所なし、故に曰ふ、階前は則ち萬里なり）、格州（江浙にあり）、興（去聲、物に托して詞を興すを興といふ）、廢格（格は止なり、史記に義縱が傳に廢格して事を沮むを廢格して事を沮むと注に詔書を廢格して成事を沮むを謂ふ）、貶朕（恩に背き德を忘るを貶といふ）、延英（殿の名なり）、如水火（其相ひ尅して而して生ぜざるを云ふ）、大中（即位二年に元を改む）、

〔講義〕宣宗皇帝名は怡、憲宗の子なり、穆宗の弟なり、幼なる時は不慧と號す、太和の後ち益々自ら才能を韜晦して以て笑ひとなす。宣宗外晦らくに内明かに群

臣と遊處するに未だ嘗て言を發せず、故に文に其語を誘ふて以て戲稱し、光叔と爲す、宣宗初めて光王に封ぜらるる、故に文宗に文宗强て其言を誘ふて以て戲稱し、光叔と爲す、宣宗初めて光王に封ぜらるる、故に文宗に文宗强て其言を誘ふて以て戲稱しても

濮州人王仙芝起曹州窺句、人黃巢應之。巢善騎射。喜任俠。嘗舉進士不第。與仙芝共販私鹽。至是聚衆攻剽州縣。窮民歸之。數月數萬。仙芝攻陷汝鄭唐鄧。寇鄧州。陷安州。寇荊南。與招討曾元裕戰於甲州。而大敗。又大敗於黃梅。斬之。黃巢陷鄆沂濮。掠宋汴。南渡陷洪虔吉饒信。寇宣州。入浙東。爲鎭海節度使高駢所破。遂趍廣南。陷廣州。出潭州。北渡向襄陽。敗於荊門。復引而南。陷宣州。自采石渡江。已而渡淮。陷申州。入潁宋徐兗之境。陷東都。引而西。入潼關。入長安。上出奔蜀。巢僭號大齊。皇帝。諸道發兵赴援。先是沙陀李國昌之子克用爲兵馬使。戍蔚州大同軍。諸將謀曰。今天下大亂。朝廷號令不復行於四方。此乃英雄功名富貴之秋。李振武名聞天下。其子勇冠諸軍。若輔以舉事。代北不足平也。遣人潛詣蔚州說克用。克用趍雲州取之。河東招義討之而大敗。克用寇忻代。逼晉陽。已而大爲盧龍兵所破。爵朔兵亦討敗其父國昌。父子亡走達旦。朝廷赦其罪。召其兵討賊。克用將沙陀來。賊憚之。曰。鴉軍至矣。連破賊。復長安。巢焚宮室而遁。至蔡州。節度秦宗權降之。巢趍汴州。克用等追擊大破之。未幾。賊黨斬巢以降。◉解釋爲官官（爲に去聲、官、官劉文俠、宦、音劉の上聲、殘、死也、孥、音劉の上聲、殘、死也、孥、音劉の上聲、殘、死也、孥

朱溫也。先爲巢所遣。攻陷同華。尋以華州降。賜名全忠。爲宣武節度使。館克用甚恭。克用乘酒頗侵之。全忠不平。發兵圍驛攻之。克用醉。左右以水沃其面告之。克用乃張目援弓起。而走。會大雷雨晦冥。扶醉乘電光。縋城出。汴人扼橋。從者力戰。得度而免。克用還晉陽。治甲兵。表乞討全忠。詔和解之。不聽。○上發成都。還長安。○秦宗權僭號。○上之奔蜀也。宦者田令孜實挾之。自以爲功。權自己出。河中王重榮。前作亂自立。令孜遣朱玟等攻之。重榮求救於克用。克用方怨朝廷不罪全忠。上言玟等與全忠相表裡。欲共滅臣。引兵赴河中。京師震恐。令孜劫上奔鳳翔。朱玟追逼不及。立。肅宗玄孫襄王熅爲帝。玟將王行瑜斬玟。熅奔河中。王重榮斬首送行在。上還長安。上在位十五年。改元者五。曰乾符。廣明。中和。光啓。文德。日與宦官相處而已。天下大亂。盜賊蠭起。豪傑因起。其間。互相吞噬。朝廷不能制。上崩。壽王立。是爲昭宗皇帝。

解釋同

使汴州號して宣武節度使となす、驛上原驛、汴州城内にあり、縋音墜、繩にて而して下に降ろす、名を賜ふ、宣武の節度使となし、兵を發して之を伐す、全忠之を聞き、克用に不平なり、乃ち目を張り弓を援いて起つ、汴人橋を扼す、須臾の節度使なり、●〔講義〕克用の汴州に至るや、朱全忠之を毆ふ、全忠は巢が將朱溫なり、先に巢に降り、名を賜ひ節度使となる、克用に遮られ、同華を攻落し、尋いで華州をも以て唐に歸し、克用を留めて之を攻む、克用酣酒に乘じ、其の面に汗顏に沃ぐ、乃ち之を告げ、克用城に縋して出づ、汴人橋を扼す、從者力戰して走る、會ゝ大雷雨晦冥にして覺ゑず、克用を扶けて醉光に乘じて

昭宗皇帝。名傑。僖宗之弟也。僖宗大漸。宦者立之爲太弟。遂即位。後更名曄。帝明粹有英氣。喜文學。以僖宗威令不振。朝廷日卑。有恢復前烈之志。踐祚之始。中外忻忻焉。然而內制於宦寺。外有强鎭。初志竟不遂。○越州董昌僭號。昌先據杭州。錢鏐爲兵馬使。朝廷命昌帥浙東。鏐領杭州。至是昌稱帝於越。詔鏐討之。○鳳翔李茂貞。華州韓建。邠州王行瑜。三鎭舉兵犯闕。殺宰相謀。廢立。聞李克用來討。乃去。克用攻邠州。斬行瑜。將移兵岐華。賞近恐。沙陀太盛。止之。克用自隴西郡王。進爵晉王。引兵還晉陽。○錢鏐克越州。董昌伏誅。○初李克用屯渭北。李茂貞韓建憚之。事朝廷甚恭。克用去。二鎭復驕慢。茂貞舉兵犯闕。上出奔華州。克用遣援。又聞朱全忠營洛陽。迎駕。茂貞與建皆懼。奉上還長安。先是嘗令諸王將兵巡警。又欲使出四方撫慰藩鎭。南北司用事者恐其不利於己。交諫以爲不可。上不

晉陽に還る、秦宗權僭號す、帝の蜀に奔るや、宦者田令孜之を挾む、自ら以て功となす、權己れより出づ、河中の王重榮前に亂を作して自立す、令孜之を攻む、重榮救を克用に求む、克用方に朝廷の全忠を罪せざるを怨む、上言す、玟等全忠と相表裏す、令孜玟を劫して行在に送る、帝長安に還る、上在位十五年、改元す、玟將王行瑜玟を斬て之を和解す、蓋し以て功を成都を發して長安

得レ已罷レ之。上在レ華時。宦官劉季述。圍殺二諸王十一人一。至レ是季述幽二上於少陽院一。而立二太子裕一。同平章事崔胤說二神策將討一誅二季述一。上復レ位。宦官謀レ去レ胤。時朱全忠有レ挾二天子一令二諸侯一之意。胤以レ書召レ之。全忠擧レ兵來。宦者韓全誨等。劫レ上如二鳳翔一。全忠圍レ之。李茂貞遂殺二全誨等一。奉レ上還二長安一。全忠以レ兵驅二宦官一。盡殺レ之。其出レ使二外方一者。詔所レ在誅レ之。存二黃衣幼弱二十人一。備二洒掃一。

宦官自二文宗已後一。廢置在レ其掌握一。至有二定策國老門生天子之號一。及レ是大被二誅殺一。◎〔解釋〕大漸（箋蹄に云、宦者楊復恭病篤にして遺制す、僖宗崩に臨んで遺制す、僖名を般ざわらたむ、明年元を龍紀と改む、復た名を曄と改む）越州（浙東に屬す、即ち會稽郡、）遣援（兵を遣はし救援す、）十一人（韓、陳、單、延、用、通、璟、睡、濟、韜、彭、）少陽院（東內にあり、）神策將（指揮使、孫德昭、）宗策國老門生天子（其天子を策立するの功を以て、故に國老と稱す、天子の視る所の人を視るが如し、故に門生と曰ふ、◎〔講義〕昭宗皇帝名は傑、懿宗の第七子、僖宗の弟なり、僖宗疾ひ大に漸んで惟れ危きに及んで、楊復恭之を立てゝ、太弟となす、遂に位に即く、後名を曄と改む、）

全忠由二東平王一進二爵梁王一。還レ汴。○全忠威震二天下一。有二簒奪之志一。胤懼レ爲レ之備。全忠表請除レ胤。胤密使其黨殺レ之。遂請二上遷一都東京一。促二百官東行一。驅二徙士民一。上謂二侍臣一曰。鄙語云。紇干山頭凍殺雀。何不レ飛去。生處樂。朕今漂泊不レ知レ竟落二何所一。泣下沾レ巾。上至二洛陽一。李茂貞等移レ檄以興復爲レ辭。全忠將二西討一。以レ上有二英氣一。恐生レ變。遣人入レ洛弒レ之。○上自レ即レ位。非二不レ夢二想賢豪一。卒不レ用レ之。嘗有二朝士鄭棨一。好二恢諧一。注二班簿一。以爲レ相。堂吏走告不レ信。已而賀客至。棨搔レ首曰。歇後鄭五作二宰相一。時事可レ知矣。○上在レ位十七年。改レ元者七。曰二龍紀一。大順。景福。乾寧。光化。天復。天祐。子立。是爲二哀皇帝一。

哀皇帝初名祚。昭宗有二廢太子裕一。忠殺二裕等九人一。皆昭宗子。全忠爲二相國一。加九錫。帝在レ位仍稱二天祐一。不二四年一

禪于梁。尋被弑。唐自高祖至是二十世。凡二百九十年。◎〔解釋〕道人李榮啓歎後詩（詩を作り後語を歎むるを啓なす、意は言外に在り、）鄭五龍紀（即位二年にして元を改らたむ、）哀皇帝（諱は祝、昭宗の第三子、母は何皇后、）〔講義〕（全忠東平王に封ぜらるるや、帝を梁王に進めて汴に遷る、全忠威天下に震ふ、篡弑の志あり、崔胤之を殺さしむ、崔胤初めは全忠と共に兵力を假り、宦官を誅す、全忠既に李茂貞を破り、威天下に震ふ、胤慢にも私心漸く異なり、是に至て全忠既に天子を遷して洛陽に都せんと欲す、胤が異を立つるを恐れ、密かに裴樞、崔遠等を幷に朱友謙を誅せんと謀す、全忠警かに其の黨鄭元規等を以て分て六軍三司に判す、全忠益々胤及元規等數人を殺さしむ、朱全忠兵を引て河中を過ぎ、帝に請ふて都を洛陽に遷す、時に帝延喜樓に御す、裴樞已に百官を促して樓に登らしむ、樞等數人を殺すを見て、大に驚き下りて樓を降り泣て曰く、今より大家天緒身を全忠に係る、二月帝洛陽に至る、李茂貞等懼を生せんと恐れ、人を移して復た入朝せしめんことを請ふ、帝の意を以て、全忠將さに帝位に即かんとす、豈敢て之を用ひんや、帝曰く、卿等宜しく全忠と和協すべし、吾れ當に内禪すべし、全忠帝位に即き、帝を弑して哀皇帝と謚す、）

十八史略講義卷之六

前進士盧陵　曾先之編次
大日本東京　土田泰士亮講義

五代

梁

梁太祖皇帝。初名温。姓朱氏。碭山人。朱五經之子也。少無賴。從黃巢爲盜。降唐。賜名全忠。初鎮汴。攻併徐州、兗州、鄆州。攻河北、河東諸郡。屢與李克用交兵。尋取河中。晉絳。用兵華岐。東降青州。南取荊襄。橫行諸鎮間。劫遷唐都於洛。遂篡唐。更名晃。封其兄全昱爲王。嘗罵之曰。朱三汝作天子。邪。汝從黃巢作賊。天子用汝爲四鎮節度使。何負於汝。奈何滅唐家三百年社稷。自爲帝王。行當族滅矣。◎〔解釋〕五代（唐亡び宋興るの間、五十七年中、代を易ふ、或は五國、或は五代、又は五季といふ、）梁（世に後梁と號す、後の唐晉漢周皆な之れに倣ふ、後ち梁なり、後の大梁と號す、）朱五經（名は誠、「五經を以て里中に數授す、故にいふ、無賴多き狹猾にして詐ツハリ多きをいふ、）汴（宣武節度使と爲り汴に治す、汴都す、）鎮汴（宣武の節使たるをいふ、）橫行（ことく〳〵強梁を恣にするをいふ、）族滅（全忠は朱氏の三男、三郎とし、四鎮（宣武、宣義、太平、忠國、）節度使と爲り、汴に都す、）行當族滅矣

やがて一族を滅ぼさるべし。◉〔講義〕梁の太祖皇帝は、初の名を温と曰ふ、姓は朱氏にて、砀山（ダウザン）（今江蘇の碭縣）の人、朱五經の子なり、少年より無頼なる性質にして、黄巢に從ひ盜賊を爲す、唐に降服して名を全忠と賜ふ、初め汴（今の開封府）を鎭撫して、徐州（今江蘇の邳城縣）を攻め併せ、河北や河東の諸軍を攻め破（ヤブ）りて、度々（タビ〳〵）李克用と兵を交へ、尋で河中（今の山西平陽府）晉絳（カウ）（二州の名、今の平陽府）を取る、兵を華（クワ）州に屯す、岐は今の鳳翔府）に用ゐ、東の方は青州を降服せしめ、南の方は荆襄を略して王と爲す、遂に唐の天下を簒奪（サンダツ）して、名を晃と更む、其の兄の全昱（イク）なるものを封じて、忠武王と爲す、皆自ら唐の部曲（ブキョク）より起りたるものなるも、唐の末年に縱横に行はれ、其の勢ひ已に卒し難く、唐の朝廷も之を如何ともする能はざりしなり。

李茂貞王岐。楊行密爲吳王。王淮南。行密已卒。子渥代之。王建王蜀。錢鏐王兩浙。王潮據閩。已卒。弟審知代之。馬殷據湖南。劉隱據廣。皆自唐末以來。割據諸州。◉〔解釋〕割據＝土地を分ち據る。◉〔講義〕此の時に當りて、李克用は晉（今の平陽府）に王たり、李茂貞は岐に王たり、楊行密は吳王と爲りて、淮南（今の揚州淮安地）に王たり、錢鏐（リウ）は浙東浙西に王たり、王建は蜀（今の成都）に王たり、王潮は閩（ミン）（今の福建福州府）に據り、皆自ら割きこれに據りたり。

馬殷爲楚王。○蜀主王建稱帝。○晉王李克用卒。初克用有養子。曰存孝。最驍勇有功。養子存信疾而譖之。存孝懼禍而反。克用討獲。囚歸。惜其才。意臨刑必有爲之請者。諸將疾其能。竟無一人言。遂死。又有薛阿檀亦勇。密與存孝通。恐事泄自殺。是克用兵勢寢弱。唐末數爲汴人所攻。失數州。汴兵直抵晉陽城下。克用登城備禦。不遑寢食。後汴兵再圍晉陽。以疫還。克用幾欲走。會汴兵去而止。克用不能與汴人爭者累年。悒悒以至于卒。子存勗立。時梁兵侵晉圍潞州。晉李嗣昭閉城固守。踰年。梁築夾寨守之。存勗與諸將謀曰。米粟所憚者先王耳。聞吾新立。以爲童子。必有驕怠之心。若簡精兵。倍道趨之。出其不意。取威定覇。在此一舉。不可失也。帥兵發晉陽。伏三垂岡下。旦乘大霧。直抵夾寨。壍鼓譟而入。梁兵大潰。遂解潞圍。◉〔解釋〕汴人＝梁兵を汴人と稱す、梁主は汴州の人なればなり。不遑寢食＝攻撃はげしくして、休息の暇なし。以疫還＝疫病陣中に流行して士卒多く病む故に圍を撤す。悒悒＝憂苦の貌。夾寨＝潞州城下に於て、長城を築きて、城兵の突出を防ぎ、兼ねて援兵を防ぐ、之れを夾寨といふ。先王＝李克用をいふ。◉〔講義〕梁主は梁の太祖皇帝なり。

還。克用幾欲走。會汴兵去而止。克用不能與汴人爭者累年。悒悒以至于卒。子存勗立。時梁兵侵晉圍潞州。晉李嗣昭閉城固守。踰年。梁築夾寨守之。存勗與諸將謀曰。米粟所憚者先王耳。聞吾新立。以爲童子。必有驕怠之心。若簡精兵。倍道趨之。出其不意。取威定覇。在此一舉。不可失也。帥兵發晉陽。伏三垂岡下。旦乘大霧。直抵夾寨。壍鼓譟而入。梁兵大潰。遂解潞圍。◉〔解釋〕汴人＝梁兵を汴人と稱す、梁主は汴州の人なればなり。不遑寢食＝攻撃はげしくして、休息の暇なし。以疫還＝疫病陣中に流行して士卒多く病む故に圍を撤す。悒悒＝憂苦の貌。夾寨＝潞州城下に於て、長城を築きて、城兵の突出を防ぎ、兼ねて援兵を防ぐ、之れを夾寨といふ。先王＝李克用をいふ。◉〔講義〕梁主は梁の太祖皇帝なり。

梁の兵は大に潰ゆ、遂に潞州の圍を解きたり、○淮南將張顥徐溫、殺楊渥、溫復殺顥、將吏推立楊隆演、徐溫自領昇州、而以養子徐知誥往治之、○梁以王審知爲閩王、○梁以劉守光爲燕王、守光者、盧龍節度使仁恭之子也、先是、囚其父、而自領軍府、○梁夏州亂、殺節度李彝昌、以其族父仁福代之、夏州李氏、本姓拓跋、上世自唐賜姓、領鎭久矣、○廣州劉隱卒、弟巖代之、○劉守光稱燕帝、○鎭州王鎔、定州王處直、推晉王爲盟主、梁攻鎭州、襲取諸郡、晉王伐燕、梁主救之、大敗走歸、◎〔解釋〕族父の其の兵勢を以て、燕を伐ち、燕の王處直が、晉王を推し尊んで盟約の主と爲す、梁は劉守光を以て燕主と爲す、守光は、盧龍の節度使の仁恭の子、王は、其の父を囚へて、自分に軍府を領したり、梁の夏州（今の寧夏地）が亂れ、節度使の李氏は本姓を拓跋と爲す、夏州の李氏は、本姓を拓跋と爲す、夏州の李氏は、本姓を拓跋と爲す、夏州の李氏は、本姓を拓跋と爲す、

また、一鎭定州、◎〔講義〕淮南の大將の張顥徐溫二人が楊渥を殺す、溫は復た顥を殺して立つ、徐溫が自から昇州と爲す、守光は、盧龍の節度使の仁恭の子、王は、其の父を囚へて、自分に軍府を領したり、梁の夏州（今の寧夏地）が亂れ、節度使の李氏は本姓を拓跋と爲す、夏州の李氏は、本姓を拓跋と爲す、夏州の李氏は、本姓を拓跋と爲す、夏州の李氏は、本姓を拓跋と爲す、

拓跋。上世自唐賜姓、領鎭久矣、○廣州劉隱卒、弟巖代之、○劉守光稱燕帝、○鎭州王鎔、定州王處直、推晉王爲盟主、梁攻鎭州、襲取諸郡、晉王伐燕、梁主救之、大敗走歸、◎〔解釋〕族父の其の兵勢を以て、燕を伐ち、燕の王處直が、晉王を推し尊んで盟約の主と爲す、梁は劉守光を以て燕主と爲す、守光は、盧龍の節度使の仁恭の子、王は、其の父を囚へて、自分に軍府を領したり、梁の夏州（今の寧夏地）が亂れ、節度使の李氏は本姓を拓跋と爲す、夏州の李氏は、本姓を拓跋と爲す、夏州の李氏は、本姓を拓跋と爲す、夏州の李氏は、本姓を拓跋と爲す、

遷都洛陽者凡四年。友珪自立、尋伏誅、均王立。◎〔解釋〕大原遺孽、大原は晉陽なり、遺は父死後に庶服のころの子をいふなり、昌熾、次第に盛勢つよくなるを、觀其志不小、其の志天下を併さんとするにあり、諸兒、友貞、友珪、無葬地矣、土地が皆な唐に入り、假子、養子、友文、本姓は康、名は勒（ロク）、所弒、友珪は父の友文にあり、天下を怒り、其の叛韓（ハンテイ）を誅り、暗夜に之れを寢殿に斃ふ、梁主叱す、友珪曰く、老賊萬段に屠るべしと、珪の僕馮延諤（ヘイテイガク）、其の股を刺し、又餘黨を戶殿の下に埋（ウヅ）む、◎〔講義〕是れより先き梁主已に有疾、至是憤懣曰、我經營天下三十年、不意大原遺孽、更昌熾如此、吾觀其志不小、我死諸兒非彼敵也、吾無葬地矣、疾愈劇、且加躁怒、愛假子友文之妻、將立友文爲嗣、遂爲其子友珪所弒、

遷都洛陽者凡四年。友珪自立、尋伏誅、均王立。◎〔解釋〕大原遺孽、大原は晉陽なり、遺は父死後に庶服のころの子をいふなり、昌熾、次第に盛勢つよくなるを、觀其志不小、其の志天下を併さんとするにあり、諸兒、友貞、友珪、無葬地矣、土地が皆な唐に入り、假子、養子、友文、本姓は康、名は勒（ロク）、所弒、友珪は父の友文にあり、天下を怒り、其の叛韓（ハンテイ）を誅り、暗夜に之れを寢殿に斃ふ、梁主叱す、友珪曰く、老賊萬段に屠るべしと、珪の僕馮延諤（ヘイテイガク）、其の股を刺し、又餘黨を戶殿の下に埋（ウヅ）む、◎〔講義〕是れより先き梁主已に有疾、至是憤懣曰、我經營天下三十年、不意大原遺孽、更昌熾如此、吾觀其志不小、我死諸兒非彼敵也、吾無葬地矣、疾愈劇、且加躁怒、愛假子友文之妻、將立友文爲嗣、遂爲其子友珪所弒、

王。名友貞。初爲東都指揮使、友珪篡弒、晉王入、幽州、執燕劉仁恭及守光、歸斬之、○梁賜荊南節度使高季昌爵、爲王、○契丹阿保機稱帝、古東胡種也、其國先在橫山南、本鮮卑舊地、元魏時自號契丹、初太賀氏有八子、號八部大人、推一人爲主、三歲一代、唐開元中、有部固者、統衆、詔許襲王、至是諸部以耶律幹里少子阿保機爲主、并奚渤海諸國、始建元不復受代、國人謂之天皇王。◎〔解釋〕誅之、友貞は龍驤軍に謀り、友珪を誅せんとす、衰梁先等、數千を率ゐ宮中に突入す、珪を殺さしむ、東胡種、五代史には、匈奴種に作る、八子、八部大人と稱す、一は但利皆（タンリカイ）二は乙室（イツシツ）活、三は實活（シツクワツ）四は納尾（ナフビ）五は頡沒（ヒツボツ）六は內會（ナイクワイ）七は集解（シフカイ）八は奚嘔（ケイウ）大人、部落の長、不復

受ケ代ル三歳一代の例をやめ、これより子孫相傳とす。位に汴州に即き、名を瑱と更めたり。晉王が幽州を執らへ、歸りて之れを斬りたり。梁は荊南の節度使の高季昌に命じて、これを討たしめたり。契丹は古の東胡の地にあり、本と鮮卑、亦た東胡の種類なり。其の國先きに契丹と號す。初め太賀氏の時に、自分に一人を統べ治むる部落の大人となり、八部のあり、八人の子あり、八部の大人となり、八人を統べ治むる部落の大人とな

魏州の僧に得て、莊宗用を以て大號を知らざるなり、抑ち卒に同く後唐に歸す、後唐の廢帝に從ひ珂と璽との俱に焚けし今に至るまでに一年にして二代、一號十七年にしてニつ、眞明龍德の二つの偽に取る所の璽と魏州

を取る、誤老奴一老奴は承業已れを稱す、常に唐家を復すると圖り、李氏の爲めに力を盡せり、今ま存勗天子となれば、承業の志立たず、故に誤ると云ふ奉唐祀一唐曆帝の祭祀を忘らず唐の祭祀を以てなり、受成崇韜の畫成(クワクセイ)せる事を承(ウ)け行ひ、敢て異議を發せざるを以てなり、●(講義)存勗は東の方幽州を併せ、北の方契丹を郤(シリゾ)く、南の方梁と河を夾(ハサ)んで百度も戰爭す、是れより以前に晉陽の監軍にて、故(モ)との唐の宦者の張承業なるもの、晉王の爲めに財貨や、賦稅を掊(ヒロ)び集(アツ)め、兵や馬を召し補ふ、攻め戰ふこと毎年にして、暇の祉稷を恢復(トリカヘ)すると、暇捉の兵を出すとなど、乏しからざるは、皆な承業が計畫して、力(ツト)め諫む、さても帝と稱せんとするこさを聞きて、止められ、今や王は自から之れを取り、老ひたるを棄てず、承業の本意は、唐の祉稷を恢復(トリカヘ)すると、暇捉の兵を出すとなど、乏しからざるは、皆な承業が計畫して、力(ツト)め諫む、さても帝と稱せんとするこさを聞きて、止められ、今や王は自から之れを取り、老ひたるを棄てず、承業の本意は、唐の祉稷を恢復(トリカヘ)すると、暇捉の兵を出すとなど、乏しからざるは、皆な承業が計畫して、力(ツト)め諫む、さても帝と稱せんとするこさを聞きて、止められ、今や王は自から之れを取り、老ひたるを棄てず、承業の本意は、唐の祉稷を恢復(トリカヘ)すると、暇捉の兵を出すとなど、乏しからざるは、皆な承業が計畫して、力(ツト)め諫む、さても帝と稱せんとするこさを聞きて、止められ、今や王は自から之れを取り、老ひたるを棄てず、承業の本意は、唐の祉稷を恢復(トリカヘ)すると、暇捉の兵を出すとなど、乏しからざるは、皆な承業が計畫して、力(ツト)め諫む、さても帝と稱せんとするこさを聞きて、止められばかりなり、○荊南高季興入朝季興者季昌之改名也唐以爲南平王○蜀主王衍盤遊淫溷國亂盜起唐遣皇子繼岌與郭崇韜伐之遂滅蜀衍降唐赤其族繼岌信讒殺崇韜而還●(解釋)盤遊(盤遊は遊度なし)淫溷(女色に淫し酒に荒(スサ)むこと)赤其族(其の家族なのこらずたやす)●(講義)荊南(湖南をふくの高季興が入朝す、季興は季昌の改めたる名なり、唐は以て南平王と爲す、蜀主の王衍は、巡遊して度なく、女色や飲酒にはまれ溷(スサ)む、故に國も亂れ盜賊が起る、唐は皇子の繼岌(ケイキウ)と、郭崇韜(クワクスウタウ)とを遣はして之れを伐たしむ、遂に蜀を滅す、衍は降服したり、崇韜を殺したり、唐が其の一族を盡はして殺したりしが、繼岌は讒言を信用して還る、○唐以孟知祥爲西川節度使○唐帝自克梁後寢驕首以伶人爲刺史帝幼習音律或時傅粉墨與優人共戲優名謂之李天下新磨遽前批其頰帝失色新磨徐曰理天下只一人倘誰呼邪帝悅諸伶出入宮掖侮弄縉紳群臣憤疾莫敢出氣亦有反相附託納貨展轉以干

恩澤蠹政害人恣爲讒慝帝踈忌宿將不恤軍士數出游獵蹂踐民田上下咨怨魏博將戍瓦橋代歸復遣留屯貝州遂作亂奉趙在禮入據鄴都唐遣將李嗣源討之至城下軍士大譟曰將士從主上十年百戰以得天下今貝州戍卒思歸主上不赦從馬直數卒喧競邏欲盡誅其族我輩初無叛心但畏死今欲與城中合勢拔白刃擁嗣源入城城中不受外兵逆擊之皆潰嗣源詭辭得出將召兵攻亂者安重誨曰公爲元帥不幸爲凶人所劫不若星行詣闕見天子庶可自明嗣源乃南趍相州譖者奏嗣源已叛嗣源上章自理遏不得通始疑懼石敬瑭曰安有上將與叛卒入城而佗日得保無恙者乎大梁天下都會願先往取之始可自全康義誠曰主上無道軍民怨望公從衆則生守節必死嗣源乃以敬瑭爲前鋒李從珂爲殿引兵入大梁唐主如關東聞嗣源已據大梁諸軍離叛神色沮喪歎曰吾不濟矣即命旋師從馬直郭從謙帥兵攻帝於氾水唐主中流矢而殂稱帝僅三歲而遇弒改元者一曰同光伶人斂樂器覆屍而焚之嗣源聞之痛哭乃入洛陽百官上牋勸進不許又三請嗣源監國乃許之繼岌自蜀歸途聞內難至長安自殺監國立是爲明宗皇帝●(解釋)首(ねりつくる)粉墨(白粉墨)批其頰(唐主のほうべたを)失色(さきに伶人すもの俗樂なり傅(ぬりつくる)粉墨は白粉は顏(ユズミ)

と、理天下（理は李と同音ゆゑ、通じ用ふ、天下を平治するの謂、）尚誰呼邪（李天下を連ね呼ぶやと嘲謔（ちょうぎゃく）せるなり、）侮弄搢紳（官位あるものをあなどり弄するなり、）莫敢出氣（内心に憤りを以てたゝりを恐れ、怒氣を發せず、）反相附託（人につき附託してへつらうなり、）展轉以干恩澤（だん〳〵つてをたゞもとむ、）矗政（政をやぶると、蟲の木をはみそこなうが如し、）讒慝（人をあしくいひ、妨害をなす、）宿將累代（老將、）踩踐（ふみあらす、）咨怨（なげきうらむ、）魏博將（楊仁晟使）遂作亂（仁晟（ゼイ）の部下、皇甫暉（キ）等仁晟を殺し、指揮使趙在禮の逃去するに乗じて帥（ソツ）と爲り、）軍士大譟（從馬直の軍士譟破（ソウハ）し陣營を燒く、）主上不赦（主上は莊宗を殺し、）敷卒暄競（一月前從馬直の軍士王温等五人、夜中亂を作して軍使を殺す、）星行（流星の如く急き走るを、）自理（自分に自から呼んで理（ことわり）なしと、）徒（空しく）以干恩澤一（一つ、）耳（のみ）、君の恩幸をもとむ、）豈政（政をやぶると、蟲の

明宗皇帝。本胡人。邈佶烈也。爲晉王克用養子。名嗣源。莊宗滅梁。嗣源切最高。爲中書令。蕃漢馬步總管。受命討鄴。爲叛卒所推。自鄴趁汴入洛。遂即位。更名亶。○梨丹阿保機卒。子德光立。○閔王王審知卒。子延翰立。驕淫殘暴。其下弒之。而立其弟延鈞。後稱帝。更名璘。○吳王楊溥稱帝。○南平王高季興卒。子從誨立。○楚王馬殷卒。子希聲立。後希聲卒。希範立。○吳越王錢鏐卒。子元瓘立。○夏州李仁福卒。子彝超嗣。○西川孟知祥併東川。以知祥爲蜀王。●〔講義〕明宗皇帝は、本(モ)と胡人の邈佶烈(バクキツレツ)なり、晉王克用の養子と爲る。嗣源と名づく。莊宗が梁を滅ほすときに、嗣源は功最も高し、中書令蕃漢(バンカン)の馬歩の總管に推し、命令を受けて鄴を討す。叛卒の爲めに鄴より汴に趁(オモム)き、洛に入り、遂に位に即く。名を亶(セン)と更(アラタ)む。契丹の阿保機卒し、子の德光が立つ。閔王の王審知は卒し、子のもの德光が立つ。閔王の王審知は卒し、子の延翰が立つ。驕(オゴ)り淫乱にて、殘忍暴逆なる故に、其の下の延翰(エンカン)を立つ。後ちに帝と僭稱して名を璘(リン)と更(アラタ)む。吳王の楊溥(フ)が帝と僭稱す。南平王の高季興は卒し、子の希聲が繼で立つ。後ちに希聲は卒し、其の弟の延鈞(エンキン)が立つ。夏州の李仁福は卒し、子の彝超(イチウ)が繼で立つ。楚王の馬殷は卒し、子の希範が繼で立つ。吳越王の錢鏐は卒し、子の元瓘(グワン)が立つ。西川の孟知祥は、東川を併す。知祥を以て蜀王と爲す。」

論不與常儷。不得爲嗣。唐主寢疾。遽率牙兵千人。至端門下。將入禁衛討之。從榮兵潰。走歸府。皇城使斬之。唐主悲駭疾劇。遂殂。唐主性不猜忌。與物無競。登極之年。已踰六十。每夕於宮中焚香祝天。曰某胡人。因亂爲衆所推。願天早生聖人。爲生民主。在位八年。改元者二。曰天成。長興。內無聲色。外無遊畋。不任宦官。癈內藏庫。賞賚廉吏。治贓蠹。雖不知書。暗合於道。年穀屢豐。兵革罕用。校於五代。粗爲小康。子宋王立。是爲閔帝。●〔解釋〕驕狠(ケウコン)氣もち高尚にがまゝ、時論不(ロンズ)與(クミセ)人氣あしく相手へ、遊地のわろきと、不猜忌(サイキ)心に邪念なく、人與物無競(ヒトトモノトナキソウ)人と爭論なさぬ、登極(トウキヨク)即位なり、祝天(シユクテン)天にいのりごとする、內藏(ナイザウ)庫(コ)天子手元のくら、贓蠹(ゾウト)贓は貨をむさぼる蠹(タクブル)のこ)ふもの、校於五代(コウヲゴダイ)くらべるに、小康(セウカウ)やすみし世のれた字面には詩經にあり、●〔講義〕唐の秦王從榮は、驕りて人にもごろ性質なり、自から時論が與(クミ)せぬことを知りて、常に世嗣ぎと爲るを得ざるを氣遣(キヅカ)ふ。唐主は病氣にてあり、從榮は本陣の兵士千人を率ゐて正門の下に至り、勝さに入らんとするに、禁衛の兵士は之れを討つ。從榮は遂に崩御す。唐主は悲しみ、疾が劇しく、遂に薨ず。年は已に六十の上を踰(コ)へたり。每夜宮中に於て香を焚き天に祝ひ忌まいのりて曰ふに、某(ソレ)が胡人(エビス)の人なり、亂に因りて衆人の爲めに推し尊れて、生民の主と爲れり、願くは天子と爲しめよと。位に在ること八年にして、年號を改めること二つ。曰く天成、曰く長興と。聖人と爲り、生民の主と爲せよと。位に在ること八年にして、年號を改めること二つ。曰く天成、曰く長興と。聖人と爲り、內に聲色なく、外は遊び畋(カリ)する無し。宦官に政事を委任せず。內の藏庫なるものは、財物を害する無し。宦官に政事を委任せず。內の藏庫なるものは、財物を害する無しなどを治め、賞賚は知らぬなれども、行ふ所は皆に道に合ふ。年穀が屢(シバ)豐熟せり。兵革は用ゐること罕(マレ)なり。五代の內に比較するに、粗(ホボ)小しく太平と爲す。子の宋王が繼で立つ。是れを閔帝と爲す。

閔帝名從厚。明宗次子也。即位有志爲治。然不知其要。寬柔少斷。○孟知祥稱帝。○唐潞王立。●〔解釋〕明宗次子也(ナリ)第五好、有志爲治(ナル)天下を治むる念慮あり、不知(シラズ)其要(ソノカナメ)天下を治むる領を知らず、●〔講義〕閔帝は、名を從厚と曰ふ。明宗帝の二番目の子なり、位に即き治めを爲すに志あり、然れども其の肝要なるを知らず、寬柔順にして、決斷の才少き人なり。蜀の孟知祥は帝と稱ひ、改元す。唐の潞王は、兵を擧げて長れ、洛陽に至る。閔帝は出奔す。位に在りて順と稱す。數月而已。潞王立。是爲閔帝。●〔解釋〕驕狠(ケウコン)氣もち高尚にがまゝ、時論不(ロンズ)與(クミセ)人氣あしく相手へ、遊地のわろきと、不猜忌(サイキ)心に邪念なく、人與物無競(ヒトトモノトナキソウ)人と爭論なさぬ、登極(トウキヨク)即位なり、祝天(シユクテン)天にいのりごとする、內藏(ナイザウ)庫(コ)天子手元のくら、贓蠹(ゾウト)贓は貨をむさぼる蠹(タクブル)のこ)ふもの、校於五代(コウヲゴダイ)くらべるに、小康(セウカウ)やすみし世のれた字面には詩經にあり、●〔講義〕唐の秦王從榮は、驕りて人にもごろ性質なり、自から時論が與(クミ)せぬことを知りて、常に世嗣ぎと爲るを得ざるを氣遣(キヅカ)ふ。唐主は病氣にてあり、從榮は本陣の兵士千人を率ゐて正門の下に至り、勝さに入らんとするに、禁衛の兵士は之れを討つ。從榮は遂に崩御す。唐主は悲しみ、疾が劇しく、遂に薨ず。年は已に六十の上を踰(コ)へたり。每夜宮中に於て香を焚き天に祝ひ忌まいのりて曰ふに、某(ソレ)が胡人(エビス)の人なり、亂に因りて衆人の爲めに推し尊れて、生民の主と爲せよと。位に在ること八年にして、年號を改めること二つ。曰く天成、曰く長興と。聖人と爲り、內に聲色なく、外は遊び畋(カリ)する無し。宦官に政事を委任せず。內の藏庫なるものは、財物を害する無しなどを治め、賞賚は知らぬなれども、行ふ所は皆に道に合ふ。年穀が屢(シバ)豐熟せり。兵革は用ゐること罕(マレ)なり。五代の內に比較するに、粗(ホボ)小しく太平と爲す。子の宋王が繼で立つ。是れを閔帝と爲す。

閔帝名從厚。明宗次子也。即位有志爲治。然不知其要。寬柔少斷。○孟知祥稱帝。○唐潞王立。●〔解釋〕明宗次子也(ナリ)第五好、有志爲治(ナル)天下を治むる念慮あり、不知(シラズ)其要(ソノカナメ)天下を治むる領を知らず、●〔講義〕閔帝は、名を從厚と曰ふ。明宗帝の二番目の子なり、位に即き治めを爲すに志あり、然れども其の肝要なるを知らず、寬柔順にして、決斷の才少き人なり。蜀の孟知祥は帝と稱ひ、改元す。唐の潞王は、兵を擧げて長れ、洛陽に至る。閔帝は出奔す。位に在りて順と稱す。數月の間のみ。潞王が繼で立つたり、潞王。名從珂。本姓王氏。明宗之養子也。少從明宗征伐。有功名。得衆心。用

事者忌之。從珂鎮鳳翔。閔帝命移鎮河東。將佐以爲離鎮必無全理。乃移檄鄰道。起兵入清。帝側。從珂至陝。諸軍皆迎降。至洛。宰相馮道等。百官班迎。遂即位。遣人鴆殺閔帝於衛州。

●〔解釋〕用事者朱弘昭馮賓等。無全理自全之道。移檄鄰道其檄の力を獨り辨ずる能はず。清帝側朱弘昭馮賓等を除かんとするを。

●〔講義〕潞王は、名を從珂と曰ふ。本の姓は王氏にて明宗の養子なり。年少ふしてより、依て事を用ゆるもの、之れを忌む。從珂は鳳翔を鎭撫す、閔帝が命して河東に移し鎭す、下役のもの、皆な以爲らく、鎭を離れゝば必ら死す無疑なる道理なり。そこで廻狀を隣道へ移し、兵を起して入りて帝の側を清めんとす、其の檄を立て、朝廷の署に曰く、朱弘昭馮賓等は、元帝の疾ひ亟なるに乘じて、長を殺し幼を立て、潞王を動搖す、今まに將さに入りて君側の惡を清めんとす、願くは鄰藩に乞ふて以て之れを誅せさん、清帝側朱弘昭馮賓等を除かんとするを聞き、班迎へ降ろ、つけ、玄武樓上に焚死す、年五十一。

●〔講義〕蜀主の孟知祥が殂して、其の子の昶が立つ。夏州の李彝殷が其の子の繼捧を殺して、其の子の繼遷を立て、名を祀と更む。唐主が立ち、敬塘は、しばしば契丹に求むるの計を爲す、唐主は之を知り他の鎭に移るを慈に至りて遂に叛せり、攻ひの兵を敗り、敬塘を立て、晉帝と爲し、兵を引て洛陽に向ふ。唐主は自ら火に投じて死す、位に在すこと凡て三年、年號を改めしこと一つ、清泰と曰ふ。唐は莊宗より是に至るまで四主、凡て十四年にして亡びたり、

晉

晉高祖皇帝。姓石氏。名敬塘。沙陀人。唐明宗之壻也。初與從珂。皆勇力善鬪。事明宗。皆有功。內相忌。從珂稱帝。敬塘自河東來朝。將佐皆勸留之。時久病骨立。唐主不以爲虞。遂得歸鎭。公主在洛陽。辭歸。唐主醉曰。何不且留。遽歸欲與石郎反耶。敬塘聞之益懼。尋命移鎭鄆州。敬塘拒命。唐主發兵討之。桑維翰爲敬塘草表。稱臣於契丹。事以父禮。約事捷割地。劉知遠以爲太過。厚賂金帛。足致其兵。不必許以土田。恐異日大爲中國之患。敬塘不聽。表至。契丹主大喜。將騎五萬。而來。與唐兵戰於晉陽。大敗之。契丹主立敬塘爲帝。國號晉。割幽薊瀛莫涿檀順新嬀儒武雲應寰朔蔚十六州與之。契丹以晉主南下。又破唐兵至潞州。契丹北還。晉主引而南。唐將校皆飛狀以迎。唐主殂。晉主入都洛。已而還汴。

●〔解釋〕晉石敬塘は河東の節度使と爲りて晉陽に鎭す。骨立れみやせて不以爲虞さんぢやくざると、內相忌互に中傷して、國亂に及んで、大號を僭すると、汴に都すと、公主敬塘の妻なり、魏國公主の女、石郎敬塘を指す、拒命移鎭を拒む、草表上表の草するとき、事捷軍に勝利あらばいふ、飛狀洛陽のありさまを報告するとき、

●〔講義〕晉の高祖皇帝は、姓を石氏、名を敬塘と曰ふ、沙陀の人なり、始め從珂と、皆な勇氣に力あ

り河東よりて善く鬪ふ、明宗帝に將に佐事へ、皆な功績あり、之れを留めしむ、時に相ひ惡む、從珂は帝と稱す、敬瑭が主し、唐主は一向頑落せざりし、遂に鎭に歸るも得たり、公主は洛陽に在り、歸し、酒に醉うて曰ふに、なぜしばらく留まらずして、遽かに歸するや、石郎と欲するやと、敬瑭は之れを聞きて益〻懼る、乃ち敬瑭を討たんと謀し、桑維翰が敬瑭の爲めに書き付けを草稿して、契丹に命を請ひ、約束す、丹の兵を以て、事捷(カ)たば地面を割き與へんと、敬瑭は之れを以爲らく甚だ過ぎたり、厚もく金のや帛を賂はゞ、十分の兵を招き、事捷たば地面を割き與へんと、敬瑭は之れを以爲らく甚だ過ぎたり、厚もく可なり、恐らくは後日に大に中國の患を殘さんと、敬瑭は聽かず、其表文が至るに會ひ、契丹主は大に喜び、騎兵五萬を將ゐて來り、唐の兵と晉陽に戰ひ、大に之れを敗る、契丹主は敬瑭を立てゝ帝と爲し、國を晉と號す、幽薊(ケイ)（今ま順天府下の州）瀛(エイ)（今ま河間府の順義縣）新（今ま直隸の保安州）媯(キ)（亦た然り）涿(タク)（順天府の地）武（今の宣化府）雲（今の山西大同府）順（天府の順義縣）薊（同府の地）應（同府の州）寰(クワン)（同府の州）朔（今の大同府）等の十六州を割き、之れに與ふ、契丹が晉主を以て南に下り、又た唐の兵を破りて、潞州（今の山西路安府）に至る、契丹は北に還る、晉主は引て洛に都す、已にして汴に還れり、○吳徐狀を飛ばして以て迎ふ、唐主は死し、晉王が入りて

知誥稱帝。奉吳主溥爲讓皇。初徐溫自徙居之、知誥入廣陵、輔吳政。溫卒。知誥以中書令鎭昇、而留其子輔吳政。廣金陵城。吳加知誥大元帥、封齊王。備殊禮。至是遂受吳禪。知誥改國號大遼。◉〔解釋〕備殊禮に上り、入つべつの待遇なり、劍履殿上に奉じて讓皇と爲す、初め徐溫は知誥に命じて昇州を治めしむ、此州繁富を致し、城市や府舍が甚だ盛大なり、溫は自から徙りて之れに居る、知誥は中書令を以て昇州を鎭し、而して其の子を留め、吳の政事を輔けしむ、金陵城（今の江寧府）を加へ、齊王に封じ、特別なる禮を備ふ、是に至りて遂に吳の李氏より、自分に唐の姓を受く、知誥は本と徐州の李氏の子なり、是れを南唐と爲す、契丹の後なり、國を唐と號す、尋で復た名を昇と更む、是れを南唐と爲す、契丹の後なり、國を改めて大遼と號せり、尋で○

閩王曦弒其主昶而自立。○吳越王錢元瓘卒。子弘佐嗣。○南漢主劉龔又更名襲。尋殂。子玢立。○晉主在位不七歲。殂。改元者一。曰天福。齊主立。是爲出帝。◉〔解釋〕南漢主劉龔又更名襲。新五代史に、漢主襲が疾に寢す、胡僧あり飛龍、天に在るに取り、謂て之れに名つく、襲は乃ち自から襲の字を造りて之れに名つく、襲は乃ち自から弘佐が嗣で立つ、南漢の主の劉襲（キヨウ）が又た名を襲（シフ）と改む、間（こもなく死去し、子の玢（ヒン）が立つ、晉主が位に在すと、七歳にもならぬ中に死去す、齊王が繼て立つ、是れを出帝。名重貴。高祖兄子也。高祖臨終。命幼子重瑭拜宰相馮道。欲其輔立。景延廣議。以國家多難。宜立長君。遂立重貴。延廣用事。◉〔解釋〕幼子重瑭高祖六子あり、五子皆な早く死し、存する者一子のみ、◉〔講義〕出（スヰ）帝は、名を重貴と曰ふ、高祖の兄の子也、高祖が終りに臨みて幼（ヨウサ）き子の重瑭に言ひ付けて、宰相の馮道（ヒヨウダウ）と評議して以へらく、人を拜禮せしめて、其の輔け以て立たんことを願へり、然れども最延廣（タイインクワウ）が賢を立つ、延廣が政事なしたり、○閩王之弟王延政。據建州稱殷帝。○南漢主劉玢之弟弘熙弒玢而自立。更名晟。○閩朱文進弒其主王曦而自立。殷主延政遣兵討之。閩人攻拔建州。延政出降。閩亡。唐攻福州不克。後吳越遣兵取之。◉〔講義〕唐人攻拔建州。延政出降。閩亡。唐攻福州不克。後吳越遣兵取之。◉〔講義〕南唐王の李昇（ヘン）が死去し、子の璟（ケイ）が繼で立つ、南漢の主の劉玢の弟の弘熙（キ）が弒して自立し、名を晟（セイ）と更む、閩の王延政は、建州に據りて殷帝と稱す、王曦を弒して自立す、殷主の延政に、兵を遣はし、其の主人の朱文進が、其の殷に僭ふ、王曦は國の號を改めて閩（ミン）と曰ふ、唐人は攻めて建州を拔き取り、延政が文進を殺し、首を討つ、閩人は攻むるに、克たず、後ち、玢が福州（今ま福建の府）を攻むるに、克たず、後ち吳越が兵を遣はし之れを取らしむ、降服す、閩は亡びぬ。○初晉高祖事契丹甚謹。至少主即

位。景延廣主議。告哀不復稱臣。契丹大怒。延廣又囚其回圖使。已而遣歸。大言曰。歸語而主。先帝爲北朝所立。故稱臣奉表。今上乃中國所立。爲隣稱孫足矣。翁怒則來戰。孫有十萬橫磨劍。相待桑維翰屢請遜辭以謝契丹。每爲延廣所沮。於是契丹入寇。渡河。晉主自將。及遣李守貞等。分道擊之。契丹敗走。契丹再至。相州引還。晉主又自將追之。契丹又敗走。晉主既再勝。意契丹不足畏。契丹主大舉入寇。晉將杜威降。契丹遣兵入汴。執晉主以歸其國。在位五年。改元者一。曰開運。晉自高祖至是再世。一十二年而亡。契丹主入大梁。胡騎四出。剽掠。謂之打草穀。丁壯驍鋒刃。老弱委溝壑。自東西兩幾。及鄭滑曹濮。數百里間。財帛殆盡。契丹主謂判三司劉昫曰。契丹兵應有優賜。遂括都城士民錢帛。遣使者數千人。括於諸州。皆迫以嚴誅。人不聊生。括至。初無頒給。皆欲輦歸。中外怨憤。皆思逐之。所在盜起。契丹主曰。我不知中國難治。如此。居汴三月而還。晉劉知遠。先一月即位於晉陽。(解釋)少主出帝を告哀高祖の喪を告ぐるとき、回圖使(貿易場の名は雷榮)(クワイエイ)、翁孫即ち遼主をさす、十萬橫磨劍相待たる劍を帶びて待つてゐるなり、打草穀人民を略し、金帛を取るなり、又曰ふ遼人必ず先つ國林を斫り草をなぐ如し、打後ち老幼を驅り掠むるの兵を謂て、打草穀と曰ふ、の斃鋒刃丁壯は軍に出て劍擊に死す、委溝壑老弱は運送につかれてころび死す、

東西兩幾(幾は兩京近き州縣をいふ、)括都城士民錢帛(しめくゝり取る、)遣使者數千人(千は十の字の誤なり、)不聊生(人々さわぎたてゝ生活を安んぜず、)無頒給(括盡せる金帛を群臣に分配支給せず、)輦歸(金帛を車

漢

トウサイリヨウキ　東は汴(ベン)京、西は洛陽なり、南クワツストショウシミンヒンハクタ　汴京中の金帛を括(しめくゝり取る、)遣使者數千人(千は十の字の誤なり、)不聊生(人々さわぎたてゝ生活を安んぜず、)無頒給(括盡せる金帛を群臣に分配支給せず、)輦歸(金帛を車

漢高祖皇帝。姓劉氏。初名知遠。沙陀人也。事晉祖敬塘於兵間。功最多。晉祖在可東。唐潞王移之鎭鄆。知遠曰。明公久將兵。得士卒心。今據形勝之地。士馬精強。若稱兵傳檄。帝業可成。奈何以一紙制書。自投虎口。遂拒命。唐遣將攻之。不克。晉祖舉兵滅唐。入洛陽。知遠時爲侍衛馬軍都指揮使。分漢兵入營。館契丹兵於寺。城中肅然。後晉祖以知遠鎭河東。晉祖殂。遺命以知遠入輔政。晉人匿之。知遠由是怨朝廷。契丹連入寇。晉雖以知遠爲行營都統。知遠不行。契丹滅晉。入大梁。知遠稱帝於晉陽。契丹去。乃發太原入洛。遂入汴。國號漢。後更名暠。◉〔解釋〕漢高祖沙陀（サダ）より入りて太原に居る、中國を得るに及び、自ら姓を劉（イフ）と更む、去（サル）○

間（カン）軍中（ぐんちう）と云（いふ）ふと、形勝之地（ケイショウノチ）要害の場所、稱兵傳檄（ミッカトウズゴウ）の名は遺將（ヤルシロウ）將張敬達（チャウケイタツ）の名は寺（ジ）天宮寺、洛陽に在り、◉〔講義〕漢の高祖皇帝は、姓を劉氏と曰ひ、初の名を知遠と曰ふ、晉祖なり、晉祖に將と仕へて功業最も多し、晉祖は河東に在りし時に、唐の潞（ロ）王が之れ要害の地に據（ヨ）りて、士馬が精（クワ）しく强し、若し久しく兵を稱（しょう）げ、檄文を傳へば、帝業が成就すべし、奈何ぞ危兵を所へ投げんやと、遂に命を拒む、唐は大將を遣はして、自から虎口の如き晉祖を攻むるに、克たず、晉祖は兵を擧げて、唐の兵を滅ぼし、洛陽に入る、知遠は時に侍衛馬軍都指揮使と爲る、漢の兵を分つて營中に入れ、晉祖を寺に館し、城中肅然たり、後ち晉祖殂す、時に遺言して知遠を以て、河東を鎭撫せしむ、知遠の曰く、明公は若し久しく兵を稱

廣の兄の希琴(キカク)が、希廣を殺して自立す、○漢主自(リ)即(キシ)レ位以來(ニ)同平章事楊邠總(ブ)(ル)機政(ニ)樞密使郭威主(ニ)征伐(一)侍衛指揮使史弘肇典(ニ)宿衛(一)三司使王掌掌(ニ)財賦(一)邠頗公忠(一)弘肇察(ニ)京師(一)道不(レ)拾(レ)遺(一)章捃拾遺利(一)供饋不(レ)乏(一)國家相安(一)弘肇嘗謂(ニ)天下須(レ)用(ニ)長槍大劍(一)安用(ニ)毛錐子(一)章曰(ク)若無(ニ)毛錐(一)財賦何由取辦(ン)章輕(ニ)文人(一)嘗曰(ク)此輩握(レ)算(ヲ)不(レ)知(レ)縱横(一)何益於用(一)漢主左右嬖倖寖用(レ)事(ヲ)親戚干(レ)政(一)邠等每(ニ)裁抑之(一)漢主益壯(一)厭(レ)爲(ニ)大臣所(レ)制(一)楊邠嘗議(レ)事於前(一)曰(ク)陛下但禁(レ)聲(ヲ)有(レ)臣等在(一)漢主積不(レ)能(レ)平(一)左右因譖(レ)之(一)乾祐三年殺(ニ)邠弘肇章(一)遣(ニ)密詔(一)欲(レ)殺(レ)郭威於鄴(一)將佐勸(レ)威入(レ)朝自訴(一)威引(レ)大軍(一)至(ル)漢主遣(レ)兵拒(レ)之(一)或降(一)或不(レ)戰而還(一)漢主爲(ニ)亂兵所(レ)弒(一)威白(レ)太后(一)迎(ニ)武寧節度使(一)未(レ)至聞(レ)契丹入寇(一)遣(レ)威將(レ)兵擊(レ)之(一)威至(レ)澶州(一)將士大譟(一)裂(レ)黃旗(一)以被(ニ)威体(一)共披(レ)抱之(一)呼(ニ)萬歲震(レ)地(一)擁(レ)威南行(一)遂代(レ)漢(一)漢二世四年而亡(一)◎〔解釋〕察(ニ)京師(一)なぎんみする、捃拾遺利(一)これらこぼれの利益をひろひあつめる、供饋不(レ)乏(一)に不足なきこと、算法に縱(タテ)横(ヨコ)を把(ト)りて、數を乘除することを知らざるもの、握(レ)算(ヲ)は算子を把(ト)りて、横(ヨコ)を五とす、數さとりも知らざるなり、干(レ)政(一)は政事を口出す、裁抑(サイヨク)は裁決(サイケツ)排却(ハイキヤク)なり、握(レ)算(ヲ)不(レ)知(レ)縱横(一)とは、算法に縱(タテ)横(ヨコ)を五とす、數さとりも知らざることをいふ、但禁(レ)聲(ヲ)默(モク)してをつつしみ、心(ヒソ)かにたくらむことなきこと、握算不(レ)知

遂成帝業。漢隱帝時。威專主征伐。隱帝欲殺之。不克。威擁兵入汴。已而出。禦契丹。軍士擁還汴。時已迎贊於徐州。乃以漢太后令。廢贊爲湘陰公。威爲監國。尋即位。自謂周號叔之後。國號周。贊崇子也。崇初聞隱帝遇害。欲起兵南向。及聞迎立贊。則曰。吾兒爲帝。吾復何求。贊廢死。崇乃稱帝於晉陽。所有幷、汾、忻、代、嵐、憲、隆、蔚、沁、遼、麟、石、十二州之地。謂其臣曰。顧我是何天子。汝等是何節度使邪。是爲北漢。遣子承鈞伐周。不克。遣使乞師於契丹。契丹策命北漢主。更名旻。◉〔解釋〕周太祖郭威は、周の號（クワク）叔の裔と稱し、汴を以て都と定む。擇姻（エラブインラ）婿（セイ）を擇ぶなり。姻とは壻家をいふ。大驚（オドロク）郭威の狀貌すぐれしを見て貴相（キソウ）とおもふなり。郭雀兒（クワクシヤクジ）威が微賤の時に、其の項を刺して黥（ケイ）の形をなす。故に名づく。孔目官（クワンテンシ）曹の案牘（アンドク）を掌（ツカ）さどる役目、贊廢死（ヘイセラレテ）郭威が之れを殺す、を我是何天子（わづか十二州を稱す、其のもち天子ぞ）と。

（講義）周の太祖皇帝、姓は郭氏、名は威と曰ふ。太原の人なり。唐の莊宗の時、婚姻の先きの名のみにて實なき、ぢ恥ぢ、而して之れを辭す。帝、其の家に歸りて婚姻の先きの壻宗（ソウ）と問ふ。日門内よりも窺ひ見るに、足早やに通り過ぎるものあり。其の家に告ぐるに、柴氏が大に驚きて、何人ぞと欲するに、父母は此の人承知せずと曰ふに、汝は帝の左右の人となりども、柴氏は堅く節度使位の人に嫁せず、竟に嫁すべしとて、而して之れを止めたれども、柴氏は堅く他人に嫁すべしとしたり、公と爲す。威を監國の役と爲す。契丹が征伐に在り、威は漢祖を勤めて兵を主さどる。隱帝は專ばら征伐の時代に威は孔目官といふ役なり。崇初め隱帝が害に遇ひ、帝が害に遇ひ、即ち（ソク）ふと聞き、兵を起して南方に向はんと欲す、之れを乞ひ、帝を迎へ立つれども、則ち曰ふに、吾が兒が帝と爲ちば、吾れ復た何をか求めん。望まんや。晉陽に稱す。有つ所は幷（ヘイ）汾（フン）忻（キン）代（ダイ）嵐（ラン）憲（ケン）

（リウ）蔚（ウツ）沁（シン）遼（レウ）麟（リン）石（セキ）の十二州なり、此の十二州は、今の陝（セン）西山西の間の地なりと云ふ、崇は其の臣に謂ふて曰ふに、朕れ高祖の業一朝地にれつゝるを以て、今日の位號ばかりを得ず而して之れを稱す、顧ふに我れは是れ何の爲めの天子ぞ汝等は是れ何の爲めぞ、州の地ぐらゐにては何の益めにもたゝぬと是れをつに、克たず使を遣はし師を契丹に乞ふ。契丹は北漢主に策命して、名を旻（ビン）と更む。

① 契丹述軋而代之。○楚自希廣希夢以來。相攻奪。無寧歲。其下又廢希夢而立希崇。南唐遣邊鎬擊楚。希崇降。南唐遷馬氏之族于金陵。楚亡。◉〔講義〕契丹の述軋（ジユツアツ）は、兀（コツ）欲をして自立す、述律が述軋を殺して、之れに代はる。楚は希廣希夢（クワクヨリ）より以來、相ひ攻め奪ふて、寧（ヤス）き歲とてはなかりける。其の下のものが、又た希夢を廢して、希崇を立つ、南唐が邊鎬（コウ）を遣はして楚を擊たしむ、希崇降服す、南唐が馬氏の一族を金陵に遷し、楚は亡びたりき。

○故楚將劉言。自朗州攻潭。邊鎬走。言取湖南。請命于周。以言鎭潭。朗。王逵鎭潭。逵襲殺言於朗。以周行逢守朗。逵還潭。後又以行逢鎭潭。逵自居朗。廣順。晉王立。是爲世宗皇帝。◉〔講義〕故の楚の將劉言が、朗州（今の湖南常德府）より潭（タン）（今ま同省の長沙府）を攻む。邊鎬（コウ）を以て朗（今の湖南常德府）を鎭せしめ、王逵（キ）には潭を鎭撫せしむ。逵は潭に還る。後ち又た朗州に居りたり。周行逢を以て朗州に殺し、周は言を以て潭を守らしめ、逵は自から朗州に居り、周行逢が位に在すこと三年にして、崩じ年號を改めしこと一つ。廣順と曰ふ。晉王は繼きて立つ。是れを世宗皇帝と爲す。

世宗皇帝。名榮。本姓柴氏。周祖妻兄柴守禮之子也。周祖無子。故養之。周初領節鎭。已而尹開封。封晉王。周王臨終。命晉王聽政。尋即位。北漢主聞周主殂。大喜。請兵於契丹。契丹遣將楊袞將萬騎。北漢主自將三萬人來。周主欲自將禦之。群臣皆諫。主曰。崇幸大喪。輕朕年少新立。此必自來。朕

不可不往。以吾兵力之強。破崇如山壓卵耳。馮道力爭。惟王溥勸行。北漢主軍于高平。周前鋒擊之。北漢兵郤。主慮其遁去。趣諸軍亟進。後軍未至。衆心危懼。而主志氣益銳。合戰未幾。周右軍將樊愛能何徽先遁。右軍潰。步軍千餘解甲降。主見軍勢危。自引親兵。犯矢石督戰。宿衛將趙匡胤曰。主危如此。吾屬何得不致死。又謂禁兵將張永德曰。賊氣驕可破也。公引兵乘高。西出爲左翼。我爲右翼以擊之。國家安危。在此一擧。永德從之。各將二千人進戰。匡胤身先士卒。馳犯其鋒。士卒死戰。無不一當百。北漢兵大敗。楊袞不敢救。北漢主晝夜北走。僅得入晉陽。周主収樊愛能何徽及所部軍使以上七十餘人。責之曰。汝輩非不能戰。正欲以朕爲奇貨。賣與劉崇耳。悉斬之。自是驕將惰卒始知所懼。不行姑息之政矣。張永德盛稱趙匡胤智勇。權殿前都虞侯。周主謂侍臣曰。兵務精不務多。農夫百人。未能養戰士一。奈何浚民之膏血。養此無用之物乎。乃命大簡諸軍。又詔諸道。募天下壯士。咸遣詣闕。命匡胤選其尤者。爲殿前諸班。其騎步諸軍。各命將帥選之。由是士卒精強。所向克捷。

〔解釋〕幸大喪　太祖の崩じ、人心の一致せざるたよき時と思ふ、

山歷卵耳　馮道力爭　惟王溥勸行　北漢主軍于高平　周前鋒擊之　北漢兵郤　主慮其遁去　趣諸軍亟進　後軍未至　衆心危懼　而主志氣益銳　合戰未幾　周右軍將樊愛能何徽先遁　右軍潰　步軍千餘解甲降　主見軍勢危　自引親兵　犯矢石督戰　宿衛將趙匡胤曰　主危如此　吾屬何得不致死　又謂禁兵將張永德曰　賊氣驕可破也　公引兵乘高　西出爲左翼　我爲右翼以擊之　國家安危　在此一擧　永德從之　各將二千人進戰　匡胤身先士卒　馳犯其鋒　士卒死戰　無不一當百　北漢兵大敗　楊袞不敢救　北漢主晝夜北走　僅得入晉陽　周主収樊愛能何徽及所部軍使以上七十餘人　責之曰　汝輩非不能戰　正欲以朕爲奇貨　賣與劉崇耳　悉斬之　自是驕將惰卒始知所懼　不行姑息之政矣　張永德盛稱趙匡胤智勇　權殿前都虞侯　周主謂侍臣曰　兵務精不務多　農夫百人　未能養戰士一　奈何浚民之膏血　養此無用之物乎　乃命大簡諸軍　又詔諸道　募天下壯士　咸遣詣闕　命匡胤選其尤者　爲殿前諸班　其騎步諸軍　各命將帥選之　由是士卒精強　所向克捷

〔解釋〕幸大喪　太祖の崩じ、人心の一致せざるたよき時と思ふ、

左ぞなをさす、國家安危　國や家のなどの二つ、在此一擧　此の一擧にあり、死戰　必死になりたゝかふ、收らめしろ、奇貨　よきしろもの、姑息　一時のがれ、權殿前都虞侯　案ずるに文獻通考に都虞侯は殿前の諸班直、及び歩騎諸軍の指揮の名なり、舊註に以つて邪刑を掌どるものとなすは誤れり、兵務精不務多　熟練なる兵を用ゐぬこと、農夫百人の力作は戰士一人の費用をまかなふに足らず、浚民之膏血　人民のあぶらや、血被なさらへるこみさにて、人民より多く租稅を取り立てゝむごきめにあはふ、簡諸軍　各隊の强壯なるものは散じやすぐりへ、せるないふ、其尤者　しもの、殿前諸班　諸班とは、諸役員とさ、云ふこと、散指揮使（サンシキシ）内殿直（ナイデンチョク）散都頭（サントウ）鎗刀（ソウトウ）控鶴（コウカク）等を云ふ、精强　精錬にして强壯なるとき、〔講義〕世宗皇帝、名は榮、姓は柴氏、本の姓は柴氏にして、周の初めに節鉞を領す、己子無し、故に臨み、晉王の榮に命して政事を聽かしむ、已に死す、るに及び、周祖は子無し、故に臨み、晉王の榮に命して政事を聽かしむ、已に死す、尋で位に即く、北漢主が周主の祖を遊ばしめ、北漢主は自から大に喜び、兵を契丹に請ふ、契丹は大將の楊袞（ヨウコン）をして三萬人に將さして來る、周主は自から將さし、朕が年少ふしてせば、崇を立つれを輕んじて此れ必ず自から來らん、朕は往かずして、崇は吾が忌中を幸なりとし、朕が年少ふしてせば、崇は往かれバならぬ吾が兵力の强きを以てせば、崇は往かれバならぬ吾が兵力の强きを以てせば、崇は往かれバならぬ吾が兵力の强きを以て

入るを得たり、周主は樊愛能、何徽及び組の軍使以上のもの七十餘人を召し捕へ、之れを貴めて曰ふに、汝が輩は戰爭する能はざるには非ず、正に朕を以て好き代物と爲して劉崇に賣らんと欲するのみ、云ひつゝ、悉く之れを斬り殺したり、是れより驕る大將や惰なる兵卒も、へんさ始めて懼るゝ所を知り、其の一時の政事をせぬやうになりたり、張永德は盛んに趙匡胤の智惠にすぐれきこと勇氣なることを稱し、權(カン)りに殿前都虞侯と爲る、周主は侍坐の臣に謂ふて曰く、兵は精をおぼめて、多きを務めず、農夫百人を養ふ能はず、奈何ぞ民の脊や血を天下の勇壯なる士を募り、咸く闕に詣らしめ、匡胤に命じて大に諸軍を簡(エラ)バしむ、又た諸道に詔して其の尤も壯なるものを選バしめ、殿前の諸班列と爲す、其の驕兵惰軍は、各々大將に命じて之れを選バしむ、是れに由りて士卒は皆しく強くして、向ふ所いつでも能く克(カ)ちたり、

〇周攻北漢。

汾、遼、憲、嵐、石、沁、忻州。皆入于周。周主攻晉陽。不克。引軍還。

〇北漢主劉旻殂。子鈞立。

〇周伐蜀。取秦、階、成、鳳州。

周主自將。大敗唐兵於正陽。唐將皇甫暉姚鳳。保清流關。主命趙匡胤倍道襲之。擒暉鳳。克滁州。周師取楊、泰、光、舒、蘄州。唐兵拒周師。復取泰州。攻楊州。周主命匡胤屯六合。唐兵來攻。奮擊大破之。將士有不致力者。匡胤陽爲督戰。以劍斫其皮笠。有劍跡者數十人。皆斬之。由是部兵莫敢不盡死。周主還大梁。留兵圍壽州。唐兵復江北諸州。周守將皆棄去。并兵攻壽州。周主復自將如壽。唐人以城降。周主還大梁。已而復自將攻濠泗。皆降。進攻楚州。遣兵取楊泰。周主克楚州。還至楊州。唐主遣使。盡獻江北地。周主乃還。唐主更名景。去帝號。奉周正朔。

〇解釋　倍道　道ないそぎて、其の不意を伐つ、　陽爲督戰　下知するやうすに見せかけ、其の實兵の惰意を察す、　斫其皮笠　皮つくりの笠(カサ)に、劍をぬき指揮(サシヅ)ず

つるやうにして、刀鋸(カタナキヽ)を復江北諸州(ホクコウシヨシウ)周に取られし舒和蘄(ショクワキ)の三州をとりかへす、周守將を守る將。

〔講義〕周が北漢を攻むるに克たず、軍を引て歸りたり」北漢主の劉旻は殂して、子の鈞(キン)が立つ」周が蜀を伐ち、秦階成(三州は秦(キヨウ)昌府(今の鳳州府)に於て拒(フセ)ぎて敗る、周主は自から將として、大に南唐の兵を伐つ、唐が兵を遣して、淮南(今の滁州の地)に破る、唐の將の皇甫暉姚鳳(キヨウ)が清流關(今滁州城の西南にあり)を保つ、主自から楊州に克つ、周の師が楊泰光舒蘄州を取る、唐の兵は周の師を拒で、復た泰州を取り、楊州を攻む、周主が匡胤に命じて、六合(今滁州江寧府の縣)に屯せしむ、唐兵來り攻むるも、周主は大梁に還る、兵を留めて、壽州を攻む、周主は自から將として、濠(今鳳陽府臨淮縣)泗(今盱眙縣)を攻む、皆な降服す、周主は大梁に還る、已にして復た自から將として、楚州(今淮安府山陽縣)を攻む、兵を遣はして、楊泰を取る、周主は乃ち還る、唐主が江北の地を獻上せしむ、周主は使者を遣はし、璽書を以て、唐主を召す、唐主は病氣にあふて、入朝せず、其の子の弘冀(キ)を遣はして、入朝せしむ、周主は樊愛能、何徽等の軍使を以て、好き代物と爲して、劉崇に賣らんと欲するのみと云ひつゝ、悉く之れを斬り殺したり、是れより驕る大將や惰なる兵卒も、へんさ始めて懼るゝ所を知り、其の一時の政事をせぬやうになりたり、張永德は盛んに趙匡胤の智惠にすぐれきこと勇氣なることを稱し、權(カン)りに殿前都虞侯と爲る、周主は侍坐の臣に謂ふて曰く、兵は精をおぼめて、多きを務めず、農夫百人を養ふ能はず、奈何ぞ民の脊や血を天下の勇壯なる士を募り、咸く闕に詣らしめ、匡胤に命じて大に諸軍を簡(エラ)バしむ、又た諸道に詔して其の尤も壯なるものを選バしめ、殿前の諸班列と爲す、其の驕兵惰軍は、各々大將に命じて之れを選バしむ、是れに由りて士卒は皆しく強くして、向ふ所いつでも能く克(カ)ちたり、

〇周攻北漢。

汾、遼、憲、嵐、石、沁、忻州。皆入于周。周主攻晉陽。不克。引軍還。

〇北漢主劉旻殂。子鈞立。

〇周伐蜀。取秦、階、成、鳳州。

周主自將。大敗唐兵於正陽。唐將皇甫暉姚鳳。保清流關。主命趙匡胤倍道襲之。擒暉鳳。克滁州。周師取楊、泰、光、舒、蘄州。唐兵拒周師。復取泰州。攻楊州。周主命匡胤屯六合。唐兵來攻。奮擊大破之。將士有不致力者。匡胤陽爲督戰。以劍斫其皮笠。有劍跡者數十人。皆斬之。由是部兵莫敢不盡死。周主還大梁。留兵圍壽州。唐兵復江北諸州。周守將皆棄去。并兵攻壽州。周主復自將如壽。唐人以城降。周主還大梁。已而復自將攻濠泗。皆降。進攻楚州。遣兵取楊泰。周主克楚州。還至楊州。唐主遣使。盡獻江北地。周主乃還。唐主更名景。去帝號。奉周正朔。

〇解釋　倍道　道ないそぎて、其の不意を伐つ、　陽爲督戰　下知するやうすに見せかけ、其の實兵の惰意を察す、　斫其皮笠　皮つくりの笠(カサ)に、劍をぬき指揮(サシヅ)ず

〇解釋　關南　瓦橋關以南の地をいふ、關址(セキ)は保定府東北百二十里にあり、

〔講義〕朗州の王逵(キ)が、潭(ハン)叔嗣の爲めに殺さる、將吏は潭州の周行逢なるものを迎へて朗に入らし む、行逢は潭朗を併せて之れを有ちたり」南漢主の劉晟(セイ)は殂し、子の鋹(トウ)が繼で立つ」周主は自から大將となりて、關南は悉く平らぐ、譲して幽州に趨かんとし、病氣にあふて止む、瓦橋關を以て、雄州(今保定府の縣)を置き、益津關(永平府の地)を以て、霸州(今順天府の縣)を置き、莫、易州を以て、之れに屬す、是れ六十日なり、

〇趙匡胤先是爲殿前都指

揮使。從攻淮南。又從征契丹。至是爲殿前都點檢。○周主。在位六年殂。改元者一。曰顯德。周主在藩。韜晦。及即位。首破高平之寇。人始服其英武。號令嚴明。人莫敢犯。攻城對敵。矢石落左右。略不動容。應機決策。出人意表。又勤於政事。發姦摘伏。聰察如神。間暇則召儒者讀史。商榷大義。性不好絲竹珍玩之物。常言朕必不因喜賞人。因怒刑人。文武參用。各盡其能。人畏其明。而懷其惠。故能破敵。廣地。所向無前。登遐之日。遠近哀慕。子梁王立。是爲恭帝。◉〔解釋〕殿前都點檢。文獻通考に都點檢は都指揮使の上に位す。入れは則ち侍衛を出れは則ち乘輿に扈從す、在藩。鎮寧節度使瀛州刺史たりしときをいふ、韜晦。オ力をあらはさゝるこゝ、高平之寇。北漢を略す、略不動容。自若として、すこしも身をかはし矢石を避けず、出人意表。人の思ひもよらぬ策をめぐらすなり、發姦摘伏。姦邪隱惡をよく見あらはすこゝ、商榷大義。天子の其の大意を論定す、登遐。御ありし殿前の部點檢の役と爲りしより周主に從ひ淮南を攻めし又高平の寇を破り、人始めて敵に對して其の英雄武勇なるこゝを感心す、號令嚴重にして、人敢て犯すこゝなく、城を攻め敵に對して矢石が左右に落ちても、いさゝかも容ちを動かさず、機會に應じ、策略を決斷して、人の意表に出づ、又た政事に勤むる、姦なる弊理を摘み出すこゝ、鬼神の如し、閑暇には、則ち儒者を召して歷史を讀ませ、大義を商榷（カヘリ）、性質は琴や筒や色々の珍らしき玩弄物を好まず、常々言ふに、人を刑せず、文武兩道まじへ用ゐて、各々其のオに因りて人を賞し、怒りに因りて人を刑せず、文武兩道まじへ用ゐて、各々其のオに因りて人を賞し、怒りに因りて、其の能を盡さしむ、人は其の明らかなるに畏れて、而して其の惠あるに感服す、故に能く敵を破り、地を擴め、向ふ所は前なし、崩御の日に、遠近のものが、哀しみ慕ひたり、子の梁王が繼で立つ、是れを恭帝と爲す、

恭帝。名宗訓。七歲即位。○以趙匡胤爲殿前都點檢。○周主。在位六年殂。改元者一。曰顯德。周主在藩。韜晦。及即位。首破高平之寇。人始服其英武。號令嚴明。人莫敢犯。攻城對敵。矢石落左右。略不動容。應機決策。出人意表。又勤於政事。發姦摘伏。聰察如神。間暇則召儒者讀史。商榷大義。性不好絲竹珍玩之物。常言朕必不因喜賞人。因怒刑人。文武參用。各盡其能。人畏其明。而懷其惠。故能破敵。廣地。所向無前。登遐之日。遠近哀慕。子梁王立。是爲恭帝。◉〔解釋〕鎭定言。定の二州奚して言ふ、契丹入て寇すは、もと鎭定言。定を寇すなすは誤れり、陳橋驛。汴京城の北にあり、策立。陛下の將士、策を定め天子とす、禪于宋。宋主帝を封じて鄭王とし、崩後恭帝と諡す、◉〔講義〕恭帝は、名を宗訓と爲す、明年の春に鎭州定州の兵にて將とし、て之れを禦がしむ、陳橋驛に至る、軍士が擁戴し、遂に宋に禪る、周は太祖位に在すこと六年にして、遜りて三代實は二姓にて、十年目に亡びたり、是より先き宋の太祖兵を擁して、陳橋より還る、周の侍衛親軍副指揮韓通禁中より馳せ入寇。遣匡胤將兵禦之。至陳橋驛。軍士擁還策立。周主在位半年。遂禪于宋。周自太祖至是三世實二姓。十年而亡。◉〔解釋〕鎭定言。定の二州奚して言ふ、契丹入て寇すは、もと鎭定言。定を寇すなすは誤れり、陳橋驛。汴京城の北にあり、策立。陛下の將士、策を定め天子とす、禪于宋。宋主帝を封じて鄭王とし、崩後恭帝と諡す、◉〔講義〕恭帝は、名を宗訓と爲す、明年の春に鎭州定州の兵にて將とし、て之れを禦がしむ、陳橋驛に至る、軍士が擁戴し、遂に宋に禪る、周は太祖位に在すこと六年にして、遜りて三代實は二姓にて、十年目に亡びたり、是より先き宋の太祖兵を擁して、陳橋より還る、周の侍衛親軍副指揮韓通禁中より馳せ入て寇す

軍士擁甲執兵。直叩寢門曰。諸將無主。願策大尉爲天子。黜檢驚起披衣。則相與扶出。被以黃袍。羅拜呼萬歲。擁上馬南行。拒之。不可。乃攬轡誓諸將。整軍自仁知門入。秋毫無所犯。恭帝遂禪位。以所領節鎮爲宋州歸德軍。故國號曰宋。◉〔解釋〕宋趙匡胤、有つの號を定めて所の歸德軍が、宋州に在るを以て、遂に天下を分ちて十五路となし、仁宗に至りて、又二十三路となす。甲馬營甲は夾と通用す。一統志に、夾馬營は、宋の太祖始めて生るゝ後唐の夾馬營は、宋の太祖始めて生るゝ、の地なり、異香香ひ、香孩兒よきにほひのあかご、邀駕天子行幸のむかふ、掌軍政周の世宗が、願徳の末、都虞侯と云ふ、此の官は、殿前諸班直及び歩騎諸指揮使の名籍、及び訓練の政を掌さどる、故に云ふ、文書篋手ぶんこなり、遞之に他の官廳に遞す、推戴之議太祖を天子とするの議論、大軍既出大軍は契丹を防ぐ兵をいふ、黑光相澑澑は動くなり、兩日より黑き光が、相ひ動くが如きこと、環列待且夜中軍士、太祖の營をとりまき、夜の明るを待つて居る、黎明夜のあけがた、寢門れまの戸、策太尉一冊大尉は匡胤の官、策は册なり、かしづくと、表帝匡胤を以て歸德軍の節度使と爲し、檢校太尉をさゝむ、誓諸將暫約して曰く、太后主上は、我が北面して、之れに事ふる者、驚犯するこゝを得ず、公卿は皆我が北肩侵陵するを得ず、朝廷の府庫、士庶の家は、侵掠すること、馬ふるなを得ず、命を用ゐば、即ち拏戮せん、重賞あらん、と、秋毫無所犯軍中を戒めすこしも、◉〔講義〕宋の太祖皇帝、姓は趙氏、名は匡胤と云ふ、其の先祖は、涿郡の人なり、世に傳ふ、漢の京兆の尹廣漢と云ふ人の子孫なりが部屬一面に潴つ、宮中よきにほひあるこゝを以て、辛文悅に從ひて學ぶ、或る時文悅夢む、天子の胤を香孩兒の當と謂へりとかや、匡胤は之れを異とす、周の世祖に當り、軍政を掌どるこゝ、凡そ六年なり、士卒の心を立つ、世祖あるに及てり乃ち是れ、匡胤の恩愛や威刑に惑服す、故に數ゝ、世祖の崩じ、子の恭帝即位の明年に、命じ北面して、之れに事ふる

尋親征鎬自焚死。澤潞平。○淮南節度使李重進。周祖之甥也。亦反。上命石守信討之。尋親征。重進自焚死。淮南平。○荊南高保融卒。弟保勗代之。○南唐泉州留從効稱藩。○建隆二年。唐主李景遷都于南昌。以其子從嘉守建康。景殂。從嘉立。更名煜。◉〔解釋〕稱藩　王號を去り、宋の藩臣と稱し歸順す。◉〔講義〕節度使　昭義の李筠（イン）は、もと周の自から征伐し、筠は自分に焚（や）け死す。澤潞州に反す、上は石守信に命じて之れを討（う）たしむ、尋で李重信は周祖郭威の甥なり、この人も亦た反す、上は石守信に命じこれを討たしむ、尋で自から征伐す、重信は自分に焚す、淮南の高保融は卒す、弟の保勗（キョク）これに代はる、南唐の泉州（福建の府名）姓は留名は從効と云ふも、宋の諱を以て、從嘉と更む、○建隆二年、南唐の主李景は、都を南昌（今江西の府）に移す、其の子從嘉立つ、名を煜（イク）と更む、○

上既誅筠。重進。召樞密直學士趙普問曰。吾欲息天下兵。爲國家長久計。其道何如。普言。唐季以來。帝王數易。由節鎮太重。君弱臣強而已。今莫若稍奪其權。制其錢穀。收其精兵。則天下自安。又言。殿前帥石守信等。皆非統御才。宜授他職。上悟。召守信等。宴酣。屏左右。謂曰。我非爾曹之力。不至此。然終夕未嘗安枕也。居此位者。誰不欲爲之。守信等頓首曰。陛下何爲出此言。天命已定。誰敢有異心。上曰。汝曹雖無異心。如麾下之人。欲富貴。何。一旦以黃袍加汝之身。雖不欲爲。其可得乎。皆頓首泣曰。臣等愚不及此。惟陛下哀矜。指示可生之途。上曰。人生如白駒過隙。所爲好富貴者。不過欲多積金錢。厚自娛樂。使子孫無貧乏耳。汝曹何不釋去兵權。出守大藩。擇便好田宅。爲子孫計。多置歌童舞女。日飲酒相安。不亦善乎。皆拜謝曰。陛下念臣等至此。所謂生死而肉骨也。明日皆稱疾請罷。◉〔解釋〕唐季　唐朝の末世、モッテクワウヘウヂ　侍衛都指揮使を統領し、人を統御するはたらき、イヒヤウトトウリヤウ　爾曹之力　太祖を天子に推戴したり、故に云ふ、以黃袍加汝之身　即ち天子とし、アヒガムル　可生之路　生きすぢみち、如白駒過隙　人生のなり、人生の早くすぐる、日脚のしばしもさゝまらぬ如きなり、隙は日影なり、白駒は日なり、莊子の語なり、◉〔講義〕上すでに李筠と李重進とを誅し、樞密直學士の趙普（ソウ）と云ふ所の美田高宅、生死肉骨　勝手よろしき、骨に肉ふた生せ、

を守り、程能く田宅をえらび取り、子や孫の用意をなさぬである、多く歌ふ童やら舞ふ女を置き、酒を飲んで互ひに安すらかにくらすことと、亦たよいではないかと、皆な拜謝して曰ふには、陛下と私共を念ひ懸けられて、此の樣にまでわれほせくだされたり、古より謂ふ所の、死せし者を生かし、枯骨に肉をつけるやうなものであると云ひて、翌日皆な病氣と稱して、兵を罷めんと請へり、○趙普薦人。遇上。於滁州。用爲節度掌書記。上印位後。專與謀議。倚信之。○女眞貢馬。○回鶻于闐來貢。◉〔解釋〕倚信（倚賴信任、）◉〔講義〕趙普は則（タイ）の人なり、太祖に滁州に遇へて、太祖が帝位に即きて後ち、何事も專ら與に謀り相ひ談じ、普は能く太祖之れを用ゐ、節度掌書記となす

衍の爲めに、降參の書付を認め、仮に蜀の人が夜る李昊の門に詣して、代々降參の書付を修め認める李昊の家と、朝アサ）けりしことかや、蜀の孟知祥が、唐の明宗の長興二年に、命を受けてより、是に王となりしより、凡そ三十三年にして亡びぬ、○初上命宰相擇前代未有年號以改今元。及是得蜀鑑。乃有乾德四年鑄字之召問學士竇儀曰。昔僞蜀王衍有此號。上難曰。宰相須用讀書人。◉〔解釋〕今元乾德年號、の蜀鑑は蜀鑑なり、蜀なり降して得るところのものなりて僞蜀なさしめ、現時の乾德と云ふ年號を擇ばしめ、宰相に命じて、是れまで無き年號を用ゐたり、此度蜀の國を滅ぼせるより當りて之れなるあやしみを得たり、其の鏡にて問ふ、時に學士竇儀を召しと云ふもの曰く、昔し蜀王と爲りし王衍が、此の乾德と云ふ年號を用ゐたりと、太祖は歎息していへるやう宰相を置くなれば、資物を讀みて、物事を知る人を用ゐねばならぬとぞ、○五年。五星聚奎。先是周顯德中。竇儼。徽之。盧多遜。同爲諫官。儼善推步。嘗曰。丁卯歲五星聚奎。自此天下太平。二拾遺見之。儼不預也。至是果然。◉〔解釋〕五星鎭（チン）星、歲（サイ）星、榮星、太白（タイハク）星、辰（シン）星、聚奎時に現（アラ）はる、天下文明の興（オコ）るる象なり、善推歩行天文曆學にくはしきを、日月の天に轉運（ウンセン）するがごとし、故に星曆を推算する、之れを推歩といふ、二拾遺楊徽之（ヤウキシ）盧多遜（ロタソン）をいふ、に人は左右の拾遺官たり、不預竇儼（トウゲン）その數を見る能はざるも、既に死（シ）し、其の衆を見るときは、乾德五年、五つの星が、奎（ケイ）宿にあつまれり、是れより以前周の世宗の顯德年中に、竇儼（トウゲン）及び盧多遜（ロタソン）の三人は、同じく諫官の役と爲る、竇儼は天文曆數になるべし、楊徽之（ヤウキシ）とは、此れより天下が太平になるべしと、盧多遜とは、獨り見るとかたなふまじと曰へり、此に至りて果して竇儼のことばの通りにてありき、○夏州李彝興卒。子光叡領軍務。○開寶元年。漢北王劉鈞殂。養子繼恩立。郭無爲弑之而立其同母弟繼元。皆異姓子也。◉〔講義〕夏州の李彝興は卒し、子の光叡（エイ）といふ者、劉鈞（リウキン）は死去す、養子の繼恩（ケイヲン）が、劉鈞の繼恩を弑して、繼恩の弟の繼元といふものを立つ、皆な異姓の人の子なり、○雷德驤判大理寺。官屬與堂吏。附會宰相。擅增減刑名。德驤憤惋。直詣講武殿奏之。并言趙普強市人。弟宅。聚斂財賄。上怒。叱曰。鼎鐺尙有耳。汝不聞趙普吾之社稷臣乎。引柱斧擊折其二齒。命曳出。黜之。◉〔解釋〕堂吏相府の吏胥（リショ）つき附會（フクヱ）依附して、合（ガフ）するなり、增減刑名。杖罪二十を增して、遠遠に謫（タク）するなり、死罪を減じて、遠遠に謫するなり、憤惋怒氣のさかだつこと、并言倂せ言ふなり、鼎鐺三足つきの鍋も亦だ其の如き皆な鼎（テイ）の類なり、有耳鼎のつまみのわきのふ、杜斧柴の時、天子御坐のかたわらに、水晶にて造りし小き斧を置き、飾具とするもの、黜之官をはぐこと、◉〔講義〕雷德驤（ライトクジヨン）と云ふもの、大理寺の判官となる、即ち獄をさだめ、刑を刑法などを掌どる役なり、官國に屢しばしたるものと、小役人とが、宰相にへつらひ、勝手に、いきほひて、すぐさま謂武殿に到り、之れと、太祖は殊の外立腹して、大音聲をあげ、しかりていへるに、即も尙ほ耳があり、聞て居る、之れを棄明す、又德驤が言ふには、趙普は無理に人の屋敷を奪ひ、錢をあつめ欲をほしがり買ひして、錢をあつめ欲をほしがり買ひして、錢をあつめ欲をほしがり買ひして

何以出。上曰。吾睡不能著。一榻之外。皆他人家也。故來見卿。普曰。陛下少慮。天下未定。邊鄙未寧。所向上曰。吾欲取太原。普默然良久曰。非臣所知也。太原當西北二邊。使一舉而下。邊患我獨當之。何不姑留以俟削平諸國。彼彈丸黑子之地。將何所逃。上笑曰。吾意正爾。姑試卿耳。於是用趙普謀。遣使齎詔。往荊湖。繼取西川。◉〔解釋〕設重裀地坐。坐者跪而聳身。如今之胡床。裀。席也。重裀。重席也

一十有五年を歴る、夫れ遂は固より唐の邊夾なり、唐の衰ふるに乘じて、草竊して而して起り、石晉氏之に通ず、且つ幽薊を割て以て之を與ふ、遂に燬（ヒこ）な中夏に寇ふ、四年廣州に克（カ）ち、劉銀（ウチヤウ）降り、南漢は亡びたり、南漢の劉隠が、梁の太祖の開平元年に、僭して王と號せしより、是に至るまで凡そ五十三年、開寶六年、交趾の丁璉（ディレン）と云ふ者表文を上りて、宋國に附屬せんことを求めむ、太祖が詔して、以て靜海節度使安南の都護となせり、○趙普罷（ヨ）リ相（ショウ）。領（ス）河陽三成節度。普沉毅果斷。以天下爲（ス）己任（ニ）。嘗（テ）欲（ス）除（ケ）某人爲（ス）某官。上不（レ）用（ヒ）。明日又奏（ス）之。上怒（リ）。裂（キ）其奏（ヲ）。普徐（ニ）拾（ヒ）以歸（ル）。補綴（テツ）以進（ム）。上悟（リ）。乃可（シ）之（ヲ）。又有（リ）立（テ）功當（キ）遷（ス）官者（ノ）。上素嫌（ヒ）其人（ヲ）。不（レ）與（ヘ）。普力請（フ）。下（ス）曰（ク）。刑賞（ハ）天下之刑賞（ナリ）。安（ンゾ）得（テ）以（テ）私喜怒（ヲ）與（ヘ）。普（ノ）力請（フ）。下（ス）曰（ク）。朕固（ヨリ）不（レ）與（ヘ）。奈何（ンセン）。普曰（ク）。刑賞（ハ）天下之刑賞（ナリ）。陛下（ハ）雖（モ）欲（ス）與（ヘ）。奈（ン）何（セン）。普（ノ）力請（フ）。下（ス）曰（ク）。朕固（ヨリ）不（レ）與（ヘ）。奈何（ンセン）。普曰（ク）。刑賞（ハ）天下之刑賞（ナリ）。安（ンゾ）得（テ）以（テ）私喜怒（ヲ）與（ヘ

◉〔解釋〕暴略（ボウリャク）あら、かりにとる、威信（イシン）し信義を以て、逆（ギャク）をこらし、衆を救ふ、匝劍（カウケン）はごいりのつるぎ、不弟（ダイセ）官につかざるも、不可否（ヘカセ）のさだなき、宋石（シャウセキ）江上（コウジャウ）南にあり、浮梁（フリャウ）舟を以てうきはしとす、橋に柱なきを以てうきはし、と曰ふ、不差尺寸（ヘンジャク）樊若水（スヰ）の策、すこしもたがはぬなり、◉〔講義〕開寶七年、曹彬（ソウヒン）に命じて、江南の國主季煜（イク）に諭（サト）して、宋に入朝せしむ、太祖成むるに切に生民をあらこゝかにとるを勿れ、務（ツト）めて曹彬、及び潘（ハン）美をして、之れを討伐せしめ、速かに撃つこさを用ゐず、そこで曹彬、及び潘

人の榜子の制にして而して其名を榜子と云ふ、○九年。吳越王錢俶來朝。辭歸。上賜以黃袱。封緘甚固。曰。途中宜密觀。及啓之。皆群臣乞留俶章疏。俶感懼。◉〔解釋〕黃袱（黃色の帛のふくさ、）封緘甚固（封じむすぶ、他人の見るとを憚りてなり、）感懼（その嫌疑の至らんことを恐れそるゝなり、）◉〔講義〕開封九年に、吳越の王錢俶（シユセツ）なるもの、宋に來り朝す、太祖に暇乞（イトマゴ）ひして歸るとき、太宗が賜ふに黃色のふくさを以てす、其の封じ目甚だ固（カタ）し、太祖の曰く、吳越へ還る途中にて、宜しく密かに觀るべしと、錢俶之れを披き見れば、宋のあまたの家來が、皆な錢俶を留め置かんと乞ひたる旨付なり、錢俶は太祖の恩德に感じそれたり、○上如西京。謁宣祖安陵。○夏四月。郊。都民垂白者相謂曰。我輩少經離亂。不圖。今日復觀太平天子儀衛。有泣下者。◉〔解釋〕郊（天を南郊に祭る大禮なり、）垂白（白髮のたれる、）經離亂（兵亂をしばしば歷たるなり、）儀衛（儀は儀仗（ギジヤウ）衛は護衛（ゴエイ）なり行列のこと、）◉〔講義〕太祖が西京（弘殷（コウイン）の安陵にあふに、老人、墓に參詣せらるゝ九年の夏四月に、太祖が兵亂を經たり、思ひよらず今日復た太平の世の天子の儀式を觀んとはと、泣を下してよろこびたりとぞ、○上欲留都洛陽。群臣咸諫。上曰。吾且都長安。晉王之言固善。今姑從之。不出百年。天下民力殫矣。乃還大梁。◉〔解釋〕晉王（太宗趙匡久（チヨウキヨウ）民力殫（ツカ）つくべしと云ふ、大梁（汴（ベン）京にして、東京をさす、）◉〔講義〕太祖が留りて洛陽の方へ都せんと思はる、群臣悉ごとく諫む、太祖の曰く、吾れ洛陽より又將に長安に遷らんとするに、山や河の要害よき因りて、無用の兵をはぶき去らんと思ふなり、太祖汴京を以て四面敵を受るの地とせず、故に形勝の地に據て而して冗兵の事なきも此の地に居ては、百年立たぬ中に、天下の人民の力が、つきる事であらふと、それより東京の大梁に還たり、○上崩。在位十七年。改元者三。曰建隆。乾德。開寶。壽五十。上仁孝。諒達有大度。陳橋之變。迫於衆心。泊入京師。市不易肆。嘗一日罷朝。坐便殿。不樂者久之。左右請其故。上曰。爾謂爲天子容易邪。適乘快指揮一事。而誤。故不樂耳。嘗宴近臣紫雲樓下。因論及民事。謂宰相曰。愚下之民雖不分菽麥。藩侯不爲撫養。務行苛虐。朕斷不容之。◉〔解釋〕諒達（氣もちさりげなくして、些細のことにはらず、）迫於衆心（黃袍を加へられ、天下の人民安堵しておろかなるかと、）市不易肆（都下の人民安堵して前處のごとく參差の別（ワカ）ちを知らざる、至愚をいふ、）斷不容之（卽をゆるさず、）◉〔講義〕五十、太祖が崩御せらる、位に在ること十七年、年號を改むるもの三つ、建隆、乾德、開寶といふ、都合て、よく親に事へ、氣もちさりげなくして大なる度量あり、陳橋に於て、衆人の心に推しせまられ、太祖を擁して帝となす、都に入るに及び、市は肆（イチグラ）を易へず、安堵せしめ、居間に坐（スワ）られ、樂まざるとき久し、近習の者が、其の愉快のはづみに、太祖の事を指揮しても、天子と爲りて居るとは、たやすきものと思ふや、たまたま下に於て饗宴す、因りて民百姓の事に論し及ぶ、宰相に謂ふて曰く、愚民の豆菽（トウシユク）麥（バク）をも、藩鎭の請侯たちが、其の民を撫で養はず、務めて苛虐を行はゞ、吾れを容さず、と、これを開寶初。修京城及大內。營繕畢。上坐寢殿。令洞開諸門。皆端直軒豁。無有壅蔽。因謂左右曰。此如我心。少有邪曲。人皆見之矣。◉〔解釋〕京城（都のそうがまへに、垣（カキイ）をめぐらすを以ての故に、京城と云ふ、）大內（天子の居を、內と云ふ、禁裏なり、）寢殿（庭は路庭なり、事を治むる所、）洞開（さらりとあけて、）壅蔽（ふさぎかくす、諸門を洞開（ヨウカイ）して、正（タン）端（チヨクワン）軒豁（架結（クツカ）たゞしくて、その、たゞしたる故に、壅蔽なしとす、）邪曲（まがりて正からざる、）と、◉〔講義〕開寶の年の初め、都城及び御所を修復し、宮（すまひ）治め舉（アゲ）るに、太祖が庭殿に坐して、つひらき、皆なまつすぐに、正しくふさがり曲（まが）れる所